

ヲ得可シ

第四百三十九條 此遺物相續人ヨリ彼遺物相續人ニ權利ヲ賣リ又ハ權利ヲ共通スル一人ヨリ他ノ共通者ニ其權利ヲ賣リタル時又ハ義務ヲ行フ可キ者ヨリ之ヲ行ハシム可キ者ニ其義務ヲ行フニ代ヘ人ヨリ得可キ權利ヲ讓リタル時又ハ争アル權利ノ買主自カラ訴ヲ受クルヲ免ル、爲メ其權利ヲ買入レタル時ハ前條ノ規則ヲ通シ用フ可カラス

第二章 貸貸ノ契約

第四百四十條 貸貸ノ契約ニ二種アリ

- 一、物件貸貸ノ契約
- 一、人身貸貸或ハ勞力貸貸ノ契約

第一款 物件貸貸ノ契約

第四百四十一條 物件貸貸ノ契約トハ甲者乙者ヨリ定マリシ賃銀ヲ得テ定マリタル期限間己レノ物件ヲ乙者ニ貸シ乙者ヲシテ其利益ヲ得セシムル契約ヲ云フ

第四百四十二條 物件貸貸ノ契約ヲ書面ニ記セサル時未タ現ニ其契約ノ如ク執行ヒ初メサルニ於テハ其契約ヲ結ヒタリト言掛ケラレシ者ノ自認又ハ誓詞ニ非サレハ之レカ證ヲ立ツ可カラス
若シ現ニ其契約ノ如ク執行ヒ初メタル時賃銀ノ受取書アラサルニ

於テハ評價人ヲシテ其貸銀ノ高チ定メシム可ク又其契約ノ期限ハ地方ノ習慣ニ從テ定ム可シ

第四百四十三條 物件ノ所有者ノ承諾ヲ得スシテ其入額所得者ノ人ト結ヒタル賃貸ノ契約ハ其入額所得ノ權ト同時ニ終ル可シ但シ借主ヲ退去セシムルニ必要ナル猶豫又ハ穀物ヲ運ヒ去ルニ必要ナル猶豫ハ之ヲ許ルサ、ル可カラズ

後見人又ハ管財人ノ人ト結ヒタル賃貸ノ契約ハ三年間ト爲ス可シ但シ後見ノ事ヲ裁定ス可キ相當ノ裁判所ヨリ更ニ長キ時間其契約ヲ結フ可キヲ允許シタル時ハ格別ナリトス

第四百四十四條 借主數名ノ權互ニ抵觸スル時ハ最初其物件ヲ己レニ受取リタル者ヲ其當然ノ借主ト定ム可シ但シ不動産從來ノ借主新ナル借主ノ現ニ其不動産ヲ受取ル以前ニ再度ノ借受契約書ヲ不

不動産書入質役所ノ簿冊ニ登記シ又ハ從來ノ借受契約未タ終リニ至ラサル中ニ更ニ新ナル契約書ヲ右役所ノ簿冊ニ登記シタル時ハ格別ナリトス

第四百四十五條 借主ハ其借受ケタル物件ノ全部又ハ一部ヲ更ニ人ニ貸渡シ又ハ其借受契約書ヲ人ニ讓リ渡スヲ得可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第四百四十六條 若シ借主ヨリ其物件ヲ更ニ人ニ貸渡ス可カラサルノ禁アル時ハ其借受書契約モ亦人ニ讓リ渡ス可カラサルノ禁アルト看做シ又借主其借受契約書ヲ人ニ讓リ渡ス可カラサルノ禁アル時ハ其物件モ亦更ニ人ニ貸渡ス可カラサルノ禁アリト看做ス可シ然レモ商業又ハ工作ノ設置物ヲ其借主更ニ人ニ貸渡ス可カラサルノ禁ヲ犯シ之ヲ貸渡シタル時其時ノ模様ニ因リ其設置物ヲ賣拂ハ

サル可カラサル事アルニ於テ裁判所ニ於テ其買主ニ借受ケタル上其物件ヲ買ハノ提供セシ保證ヲ見積リ貸主ノ爲メ損害アラサルヲ知ル時ハ其又貸ノ契約ヲ保タシムルヲ得可シ

第四百四十七條 如何ナル場合ニ於テモ借主ハ貸主ニ對シ己レヨリ更ニ又借ヲ爲シタル者又ハ契約書ヲ讓リ受ケタル者ノ所爲ヲ擔當ス可シ但シ貸主別段ノ約束ヲ爲サス其又借人ヨリ直チニ貸銀ヲ受取り又ハ貸主借主ヨリ人ニ又貸ヲ爲シ或ハ其契約書ヲ讓リ渡スヲ承諾シタル時ハ格別ナリトス

第四百四十八條 貸貸シタル物件ハ借主ニ渡サント定メタル期日ニ其在ル儘ノ摸樣ニテ之ヲ引渡ス可シ但シ其契約ヲ結ヒシ後貸主又ハ其代權人ノ所爲ニ因リ其物件ヲ毀損シタル時ハ格別ナリトス
第四百四十九條 貸主ハ別段ノ契約アル時ニ非サレハ其貸貸セシ物

ヲ補理スルニ及ハス

第四百五十條 若シ貸貸セシ物ノ滅盡シ又ハ其毀損シテ之ヲ用フルコト能ハサルニ至リシ時ハ其貸貸ノ契約ヲ解除ス可シ

第四百五十一條 又貸貸シタル物縱令毀損スト雖モ之ヲ其當然ノ用法ニ供スルコト能ハサルニ至ラサル時ハ借主唯其毀損ニ准シ貸銀ヲ減ス可キノ求ヲ爲ス權アルノミトス但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第四百五十二條 家屋又ハ其一部ノ借主ハ貸主其家屋ヲ保全スル爲メ必要ナル切迫ノ修理ヲ爲スニ付キ其妨ヲ爲ス可カラス然レモ其○理ノ爲メ其家屋ヲ用フルコト能ハサル時ハ其時ノ摸樣ニ因リ或ハ貸借ノ契約ヲ解除シ或ハ其家屋ヲ用フルコト能ハサル時間ノ貸銀ヲ減セント求ムルヲ得可シ

第四百五十三條 如何ナル場合ニ於テモ家屋ノ修理終リタル時猶其家屋ニ在ル借主ハ貸借ノ契約ヲ取消サント求ム可カラス

第四百五十四條 貸主ハ借主ノ其物件ヲ用フルニ付キ妨ヲ爲ス可カラス又ハ其不動産或ハ其附従物ヲ變更シテ借主ノ之ヲ用フル資益ヲ減ス可カラズ

第四百五十五條 若シ甲者ヨリ乙者ニ賃貸シタル物件ニ付キ丙者之ヲ己レノ有ト爲ス可キノ權アリト述ヘ乙者ノ之ヲ用フル妨害ヲ爲シタル時又ハ乙者ノ其物件ヲ借受ケシ眼目タル資益ノ一ヲ失ハシメシ時ハ乙者其時ノ模様ニ因リ或ハ其賃貸ノ契約ヲ取消シ或ハ賃銀ヲ減セント求ムルヲ得可シ

第四百五十六條 若シ前條ノ乙者丙者ヨリ最初妨ケヲ受ケタル時之ヲ甲者ニ告知セサルニ於テハ前條ニ記シタル權ヲ失フ可シ

第四百五十七條 借主ハ其借タル物件ヲ其當然ノ用法ニ從ヒ己レノ物品ヲ用フル如ク懇切ニ注意シテ用フ可シ又借主ハ貸主ノ承諾ヲ得スシテ其物件ヲ變更ス可カラズ

第四百五十八條 然レモ借主其借タル物件ヲ變更セシ時ハ之ヲ其以前ノ模様ニ復スルニ及ハス但シ其變更ノ爲メ貸主ニ損害ヲ生セシ時ハ格別ナリトス

第四百五十九條 借主ハ其借リシ物件ヲ契約書ニ定メタル所ヨリ更ニ他ノ用法ニ用フ可カラス

第四百六十條 借主ハ契約ノ終リニ至リ其借タル物ヲ現在ノ模様ノ儘ニテ還ス可シ但シ己レノ所爲又ハ僕婢ノ所爲又ハ其借タル不動産内ニ住スル者ノ所爲ニ因リ其物件ヲ毀損シタル時ハ之ヲ償フ可シ尤賃貸ノ契約書ニ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第四百六十一條 借主ハ契約書ニ定メタル期限ニ其貸銀ヲ拂フ可シ
第四百六十二條 別段ノ契約アラサル時ハ物件ヲ使用スル各期限ノ
終リ毎ニ其貸銀ヲ拂フ可シ

第四百六十三條 家屋、倉庫、鋪店、田野ノ小屋ヲ賃借シタル者ハ二年間
ノ貸銀ヲ保證スルニ足ル可キ價ノ家具、商品、穀物、器具等ヲ其借タル
不動産内ニ備ヘ置キ又其賃借ノ期限二年以下ナル時ハ其期限ノ終
リニ至ル迄ノ貸銀ヲ保證スルニ足ル可キ價ノ家具、商品、穀物、器具等
ヲ備ヘ置ク可シ但シ賃銀ヲ前拂ニ爲シタル時ハ此例ニ非ス又其時
ノ模様ニ因リ前ニ記シタル所ニ反セシ契約アルコトヲ思料ス可キ時
ハ格別ナリトス

第四百六十四條 賃貸ノ契約ハ其定メタル期限ニ至テ終ル可シ
第四百六十五條 若シ別段期限ヲ定メサル時ハ賃銀ヲ毎年拂ヒ又ハ

半年毎ニ拂ヒ又ハ一月毎ニ拂フニ從ヒ一年間又ハ半年間又一月間
其契約ヲ爲シタルト看做ス可シ但シ此場合ニ於テハ貸主又ハ借主
ノ意ニテ互ニ左ノ如ク告知ヲ爲スニ因リ其契約右ノ期限ニ於テ終
ル可シ

家屋、鋪店、倉庫ニ付テハ其賃貸ノ期限三月以上ナル時ハ三月前ニ互
ニ告知ヲ爲ス可シ又其期限三月又ハ三月以下ナル時ハ其期限ノ半
ハ前ニ告知ヲ爲ス可シ

房室ニ付テハ一月前ニ其告知ヲ爲ス可シ

土地ニ付テハ少クモ六月前ニ其告知ヲ爲ス可シ但シ此場合ニ於テ
ハ未熟ノ穀物ヲ收納シタル後又ハ退去ノ時種ヲ蒔キタル穀物ヲ收
納シタル後ニ非サレハ其賃貸ノ契約ヲ終フ可カラサルノ定メアル
コトナシ

第四百六十六條 一年又ハ數年間土地ヲ賃貸スル契約アル時ハ穀物
ヲ一回收納シ又ハ數回收納スルニ至ル迄其契約ノ期限ヲ及ホス可
シ

第四百六十七條 賃貸契約ノ期限ヲ其契約書ニ定メタル時ハ別段借
主ニ退去ノ告知ヲ爲スニ及ハス

第四百六十八條 又契約期限ノ終リニ至リ借主貸主ノ承諾ヲ得テ引
續キ借受クル時ハ以前ト同シ約束ヲ以テ習慣ノ期間間更ニ改メテ
賃借ノ契約ヲ爲シタルト看做ス可シ

第四百六十九條 退去スル借主ハ新ナル借主ノ土地ヲ耕シ種ヲ蒔ク
ノ承諾ヲ爲サル可カラス但シ之レカ爲メ已レニ損害ヲ受クル時
ハ格別ナリトス

第四百七十條 賃貸ノ契約ハ雙方其定メタル義務ヲ行ハサルニ因リ

又ハ前數條ニ定メタル義務ヲ行ハサルニ因リ之ヲ解除ス可シ但シ
貸主ハ更ニ其物件ヲ貸渡スニ必要ナル時間ノ賃銀ト以前ノ契約期
限中ニテ猶殘リタル時間ノ賃銀ノ減損高トニ當ル損失ノ償高ヲ得
可シ

第四百七十一條 賃貸契約ノ日附賣買契約ノ日附ノ前ナラサル時ハ
賣買ノ契約ニ因リ賃貸ノ契約ヲ取消ス可シ

第四百七十二條 然レモ買主ハ前ニ記セシ期限内ニ退去ノ告知ヲ爲
シタル後ニ非サレハ強テ借主ヲ退去セシム可カラス

第四百七十三條 右ノ場合ニ於テ契約ニ反キ退去ノ告知ヲ得タル借
主ハ貸主ヨリ其損失ノ償ヲ得ント求ムルヲ得可シ但シ之ニ反シ

タル契約アル時ハ格別ナリトス

第四百七十四條 右借主ハ貸主又ハ貸主ニ代レテ買主ヨリ其償ヲ得

タル後又ハ此等ノ者ヨリ相當ノ保證ヲ立テタル後ニ非サレハ強テ
退去セシメラル、トナカル可シ

第四百七十五條 賃貸ノ契約ハ貸主又ハ借主ノ死去ニ因リ之ヲ解除
ス可カラス但シ貸主土地ノ收納物ノ一部ヲ己レニ分テ得可キノ約
束ヲ以テ土地ヲ貸渡セシ時ノ如ク總テ借主ノ一身ノ勞力又ハ其一
身ノ工技ノミヲ眼目ト爲シ賃渡シタル時ハ格別ナリトス

第四百七十六條 土地ヲ賃借シタル時借主若シ偶然ノ事ニ因リ其收
納物ヲ失フタルト雖モ其賃銀ヲ減セント求ム可カラス

第四百七十七條 若シ貸主 原書ニ貸主トアルハ恐クハ借主ノ偶然ノ
誤ナル可シト雖モ今茲ニ其儘譯ス 偶然ノ
事ニ因リ地ヲ耕シ或ハ種ヲ蒔クノ妨害ヲ受ケ又ハ其蒔キタル種ノ
全部或ハ多分ヲ失フタル時ハ其賃銀ヲ拂フニ及ハス又之ヲ拂フト
雖モ其高ヲ減ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第四百七十八條 土地ノ借主其土地ニ樹木ヲ植タル時ハ培樹場中ニ
アル小樹ヲ除クノ外自ラ其樹木ヲ持去ル可カラス但シ貸主ハ己レ
ノ承諾ナク植ヘタル樹木ヲ借主ノ費用ニテ持去ラシメ或ハ其見積
リ代價ヲ拂フテ之ヲ己レノ有ト爲ス自由ナリトス

第四百七十九條 若シ貸主借主ニテ其樹木ヲ持去ラシムル時ハ其
植易ヲ爲シ得可キ季節ヲ待ツ可シ

第四百八十條 耕耘ス可キ土地又ハ樹木ヲ植ヘタル土地ハ貸主其收
納物ノ一部ヲ己レニ納メシムル約束ヲ以テ之ヲ賃渡ス可キ得可シ

第四百八十一條 右ノ賃渡ハ數年ノ期限間之ヲ契約スル可キ得可シ
但シ此場合ニ於テハ最終ノ年ノ收納ノ遲速ヲ問ハス其收納ノ後其
契約終ル可シ但シ此場合ニ於テハ如何ナル契約アリト雖モ亦同一
ナリトス

第四百八十二條 若シ期限ヲ定メス右貸渡ノ契約ヲ爲シタル時ハ一年ノ收納ヲ得ル間之ヲ契約シタルト看做ス可シ

第四百八十三條 右貸渡ノ契約書ニ別段ノ箇條ヲ記セサル時ハ其契約ヲ結ヒタル時其土地ニ在ル貸主所有ノ器具及ヒ獸類ヲ其貸渡契約中ニ保含ス可シ

第四百八十四條 若シ借受ケタル土地内ニ小屋及ヒ造築アル時ハ借主己レノ費用ニテ之ヲ修理ス可シ又借主ハ懇切ニ注意シテ土地ヲ植附シ可シ但シ借主ハ別段ノ契約アラサル時ハ舊廢シタル器具ニ代ヘ新ナル器具ヲ備フ可シト雖モ自己ノ過失ニ非ラスシテ死シタル獸類ハ増殖シタル獸類ヲ以テ之ヲ償フ可キノミトス

第四百八十五條 貸主ニ收納物ノ一部ヲ分ツ可キ契約ヲ以テ土地ヲ借受ケタル時ハ借主ノ死去又ハ借主ノ耕耘ヲ妨ケラレシ事故ニ因

リ其契約ヲ終フ可ク又貸主ハ借主ニ未ダ却取ラサル收納物ヲ作ル爲メ出シタル費用ヲ償フ可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

○第二款 人身ノ賃貸及ヒ勞力ノ賃貸

第四百八十六條 人身ノ賃貸ハ特ニ定メタル用向ノ爲メ契約書ヲ記スル期限間之ヲ爲シ又ハ別段定メタル工業ノ爲メ之ヲ爲ス可シ

第四百八十七條 總テ使用ヲ受クル者工丁僕婢ノ雇入契約ハ期限アル時間ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラス

第四百八十八條 契約書ニ雇入契約ノ期限ヲ定メタル時雇主若シ其契約ヲ取消スニ於テハ其雇人ノ更ニ他ニ雇ハルヲ得可キニ至ル迄ノ時間ノ雇賃ヲ産主ヨリ償フ可シ又遠地ヨリ其雇人ヲ呼寄セタル時ハ其旅費モ亦之ヲ償フ可シ

第四百八十九條 若シ雇入ノ期限ヲ定メサル時ハ雇主又ハ雇入ノ雙方ニテ何時ニ於テモ其契約ヲ取消ス可シ但シ之レガ爲メニハ其契約ヲ取消ス可シノ時宜ニ適シタルヲ必要トス

第四百九十條 拂ヒ期限ニ至リシ雇賃ノ高又ハ既ニ拂ヒ済ミニナリシ雇賃ノ高ヲ定ムルニ付テハ習慣ニテ許ルシタル証ヲ立ツル可シ得ヘシ

第四百九十一條 特ニ定メタル工業ノ爲メ努力ヲ賃貸スル契約ハ總テノ工業ニ付キ請負ニテ之ヲ爲シ又ハ使用ヲ受クル時間或ハ成就シタル工業ニ准シ定メタル價ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ得ヘシ

第四百九十二條 如何ナル場合ニ於テモ雇主ハ工業ノ起作人ニ其用意ヲ爲スニ付キ出シタル費用ヲ償フテ其工業ヲ止メシムル可シ得ヘシ

第四百九十三條 然レモ雇主特ニ定メタル期限間工丁或ハ起作人ヲ雇ヒ又ハ請負ノ約束ヲ以テ之ヲ雇ヒタル時雇主若シ其雇入ノ契約ヲ取消スニ於テハ其契約ノ執行ヨリ工丁起作人等ノ得可キ諸般ノ利益ヲ償フ可シ

第四百九十四條 建築者ハ圖面及ヒ見積書ヲ作ルニ付テノ雇賃ト工業ヲ監督スルニ付テノ雇賃トヲ得可シ

第四百九十五條 若シ契約ノアラサル時ハ習慣ニ從テ右ノ雇賃ヲ定ム可シ

第四百九十六條 若シ注文シタル圖面ノ如ク執行ハサル時ハ使用シタル時間ト工業ノ種類トニ准シテ右ノ雇賃ヲ定ム可シ

第四百九十七條 若シ造築シタル建造物ノ十年内ニ破壊スル時ハ縱令其土地ノ不良ナルニ因リ且ツ雇主ノ其不良ナル造築ヲ承諾シタ

ル時ト雖モ其起作人及ヒ建築者ハ互ニ連帶シテ其責ニ任ス可シ但シ雇主其不良ナル造築ヲ承諾セシ時雙方ノ意ニテ其建造物ノ存續スル時間十年以下ナル可シト定メタルヲ知リ得可キ場合ハ格別ナリトス

第四百九十八條 工業ヲ監督ス可キ任ヲ受ケサル建築者ハ其作りシ圖面ノ不良ナル責ノミニ任ス可シ

第四百九十九條 勞力賃貸ノ契約ハ雇人ノ死去又ハ其勞動ヲ妨クル偶然ノ事ニ因リ之ヲ解除ス可シ

第五百條 前條ノ場合ニ於テハ雇主己レノ爲メ有益ナル可キ財料ヲ其原價ニテ買入レサルヲ得ス

第五百一條 總テ起作ハ其工業ヲ成就シタル後ニ非サレハ之ヲ規定ス可カラズ故ニ工業ヲ爲ス間ニ規定シタル摸樣書ハ假リノ者トシ

其間ニ拂ヒタル金高ハ内金ト看做ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第五百二條 起作人ハ契約書ニ其工業ヲ更ニ他人ニ任カス可カラサル旨ヲ定タルニ非サレハ其工業ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ任カスルヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ起作人其工業ヲ任カセタル者ノ所爲ヲ己レニ擔當ス可シ

第五百三條 起作人ヨリ工業ヲ任カセラルタル者ハ雇主ノ起作人ニ金高ヲ渡ス可キヲ己レヨリ差留メタル時又ハ其後雇主ノ起作人ニ渡ス可キ高ノミニ付キ其雇主ニ對シテ訴ヲ爲スノ權アリ

第五百四條 起作人ヨリ工業ヲ任カセラルタル數人ハ各其得可キ賃銀ノ割合ヲ以テ前條ニ記シタル金高ニ付キ先取リノ特權ヲ有シ雇主ハ裁判所ノ言渡書ナクシテ右數人ニ直チニ其金高ヲ渡スヲ得

可シ

第五百五條 勞力賃貸ノ契約ヲ爲シタル時ハ其附帶ノ約束トシテ財
料ノ全部又ハ一部ヲ備辦ス可キヲ定ムルヲ得可シ

第五百六條 工丁ヨリ財料ヲ備辦シタル時ハ其工丁其財料ノ損失ヲ
己レニ擔當ス可シ但シ雇主工丁ヨリ其財料ヲ受取ル可キノ催促ヲ
受ケ之ヲ受取リ又ハ其催促ヲ受ケテ其財料ヲ承諾シ又ハ其催促ヲ
受ケテ猶之ヲ受取ラサル時其財料ノ滅盡シタル場合ハ格別ナリト
ス

又請負ノ契約ヲ爲シ雇主ノ財料ヲ備辦セシ場合ニ於テ若シ偶然ノ
事ニ因リ其財料ノ滅盡シタル時ハ雇主ハ其財料ヲ以テ損失ト爲シ
工丁ハ其雇賃ヲ以テ損失ト爲ス可シ

第五百七條 請負ニテ工業ヲ起作スル者ハ辭柄ヲ唱ヘテ代價ヲ増サ

ント求ム可カラズ但シ雇主ノ過失ニ因リ費用ノ増シタル時ハ格別
ナリトス

○第三章 會社ノ契約

○第一款 會社ノ契約

第五百八條 會社ノ契約トハ二人以上ニテ共通ノ業ヲ行フ爲メ互ニ
金高又ハ物件ヲ出シ合セ其業ヨリ得可キ利益ヲ互ニ分タントスル
契約ヲ云フ

第五百九條 社員ヨリ會社ニ供スル物ハ或ハ金高或ハ動産又ハ不動
産或ハ此等ノ物ノ入額所得ノ權タルヲ得ヘシ

又其社員ハ其勞力ノミチ會社ニ供スルヲ得ヘシ

第五百十條 別段ノ契約アラサル時ハ物件所有ノ權ニ至ル迄之ヲ會
社ニ供シタルモノト看做ス可ク其入額所得ノ權ノミチ供シタルモ

ノト看做ス可カラス

第五百十一條 會社ニ供スル物ハ其種類ヲ定ム可ク若シ社員ノ現ニ

所有スル諸般ノ財産ヲ供スル時ハ其財産ノ目錄ヲ記ス可シ

第五百十二條 社員ハ契約シタル期日ニ至リ其物件ヲ會社ニ供ス可シ

第五百十三條 社員ヨリ會社ニ供シタル物件所有ノ權又ハ入額所得

ノ權ハ會社ノ契約ニ因リ之ヲ會社共通ノモノト爲シ會社ニテ之ヲ

擔當ス可シ

第五百十四條 社員ハ其會社ニ供セシ物件ニ付キ之ヲ賣リタル時ト

同シ保證ヲ爲スノ義務アリ

第五百十五條 社員其會社ニ供ス可キ物件ノ引渡ヲ遅延シタル時ハ

其催促書ヲ受ケタルニ因リ會社ニ對シ損失ノ償ヲ爲ス可キ義務アリ

第五百十六條 右遅延ニ因リ會社ノ爲メ損失ヲ生セシ時ハ其社員ヨ

リ其損失ヲ償フ可ク縱令其者會社ノ爲メ別ニ利益ヲ生セシメノ

アリト雖モ其利益ト損失ト相殺ス可カラス

第五百十七條 社員ハ其會社ニ對シ負フタル所ノ債ノ利息ヲ當然拂

フ可ク又會社ニ供セシ金高ノ利息ト正實ノ意ヲ以テ疎失ナク會社

ノ爲メ出シタル費用高ノ償還トヲ得可シ

第五百十八條 社員ハ會社ノ權利ニ注意スルコト自己ノ權利ニ注意ス

ルカ如クナル可シ

第五百十九條 會社ヨリ社員ニ對スル義務ハ各社員ニ之ヲ分配ス可

ク若シ社員中ノ一名其義務ヲ行フ能ハサル時ハ其者ノ擔當ス可キ

部分ヲ他ノ社員ニ割附ク可シ

第五百二十條 各社員ニ利益ヲ分配スル割合ハ契約書ニ之ヲ定ム可

第五百二十一條 若シ契約書ニ右ノ割合ヲ定メサル時ハ各社員ノ會社ニ供セシ高ニ准シテ其割合ヲ定ム可シ

第五百二十二條 勞力ノミチ會社ニ供セシ社員ニ利益ヲ分配スル割合ハ最少ノ高チ會社ニ供セシ社員ノ割合ト同一ナル可シ

第五百二十三條 若シ社員其勞力ト物件トナ會社ニ供シタル時ハ其物件ニ付テハ最少ノ高チ會社ニ供シタル社員ニ同シキ利益ノ割合ヲ得ヘシ

第五百二十四條 若シ期限ニ至ラサル中ニ會社ヲ解キタル時ハ勞力ノミチ會社ニ供セシ社員其會社ノ繼續シタル時間ノミノ割合ヲ以テ會社資本ノ分配ヲ得ヘシ

第五百二十五條 別段ノ契約アラサル時ハ社員ノ損失ヲ擔當ス可キ

割合ヲ利益ヲ分配スル割合ト同一ニ爲ス可シ

第五百二十六條 社員中ノ一人又ハ數人會社ノ利益ニ加ハラヌ又其損失ヲ擔當セサル契約ハ之ヲ爲ス可カラヌ

第五百二十七條 然レモ勞力ノミチ會社ニ供スル社員ハ會社ノ損失ヲ擔當セサル契約ヲ爲スヲ得可シ但シ其社員ノ勞力ニ准シ給料ヲ與フル時ハ此例ニ非ス

第五百二十八條 社員ハ會社ノ支配人一名又ハ數名ヲ任スルヲ得可シ

第五百二十九條 社員ニ非サル支配人ハ何時ニテモ其職ヲ退カシムルヲ得可シ

第五百三十條 社員ニテ支配人トナリシ者ハ會社ノ契約書ヲ以テ之ヲ任シタル時ニ非サレハ其職ヲ退カシムルヲ得可シ

第五百三十一條 又會社ノ契約書ヲ以テ任シタル支配人ト雖モ至重ノ道理アル時ハ其職ヲ退カシムルヲ得又無名會社ニ付テハ至重ノ道理ナシト雖モ其職ヲ退カシムルヲ得ヘシ

第五百三十二條 若シ別段支配人ヲ指定メサル時ハ各社員互ニ支配人タル任ヲ受ケシモノト看做シ一人ニテ支配ノ事務ヲ行フヲ得可シ但シ此事ニ付キ争ノ生スル時ハ社員中多數ノ裁決ニ任カス可シ

第五百三十三條 縱令支配人一致シテ決定ヲ爲シ又ハ社員中ノ多數決定ヲ爲シタル時ト雖モ會社ノ旨趣ト爲ス所ニ非サル所爲ハ之ヲ行フ可カラズ又契約書ニ定メシヨリ更ニ多數ノ金高チ會社ニ供セシム可カラズ但シ共通ノ負債ヲ償ヒ又ハ會社ノ財産ヲ保全スル爲メ其費用ヲ拂フ可キ時ハ格別ナリトス

共通ノ負債ヲ償ヒ又ハ會社ノ財産ヲ保全スル爲メ其費用ヲ拂フ可キ時ト雖モ差金會社ノ社員又ハ無名會社ノ株主ニ付テハ之ヲシテ契約書ニ定メシヨリ更ニ多數ノ金高チ會社ニ供セシム可カラズ
第五百三十四條 支配人ニ非サル社員ハ支配人ヲシテ其支配ノ模様ヲ申立シムルヲ得ヘシ

第五百三十五條 別段ノ契約アラサル時ハ社員其會社ニ於ケル權利ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓ル可カラズ唯其會社外ノ者ニ己レノ得タル利益ヲ分配スルヲ得可キノミトス

第五百三十六條 商業會社ヲ除クノ外總テノ會社ニ於テハ己レノ名ヲ以テ他人ト契約シタル社員己レ一身ニ其契約ノ義務ヲ負フ可シ但シ共分會社ニ於テハ假令商業ノ爲メ會社ヲ結ビタル時ト雖モ亦同一ナリトス

第五百三十七條 又社員ノ名又ハ會社ノ名ニテ他人ト契約ヲ爲スノ委任狀アル時ハ各社員他人ニ對シテ平等ナル義務ノ部分ヲ擔當ス可シ連帶シテ其義務ヲ擔當スルニ及ハス但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第五百三十八條 如何ナル場合ニ於テモ社員ニ非サル者ハ各社員ニ對シ會社ノ所爲ヨリ生シタル利益中其各員ノ部分ニ付キ訴ヲ爲ス可キノ權アリ

第五百三十九條 會社ノ契約ハ左ノ方法ニ因テ終ル可シ

- 第一 會社ヲ契約シタル期限ノ終ル事
- 第二 會社ヲ結ビシ眼目タル事業ノ成就スル事
- 第三 共通ノ資本ヲ全ク失ヒ又ハ其中ノ多分ヲ失ヒ事業ヲ繼續スル能ハサル事

第四 約束通り資本金ヲ供セサル事

第五 別段ノ契約アラサル時社員中一名ノ死去シ又ハ行權ノ禁ヲ受ケ又ハ家資分散ヲ爲シタル事但シ連帶セサル社員ノ死去、行權ノ禁、家資分散ニ因リ解散ス可カラサル商業會社ニ付キ定メタル規則ハ格別ナリトス

第六 諸社員ノ存意

第七 會社ノ期限ヲ契約セサル時其社員中一名ノ退去スル事但シ其退去正實ノ意ニ出テ且ツ時宜ニ適シタルヲ必要トス

第五百四十條 會社ハ社員ノ其義務ヲ執行ハサルニ因リ又ハ會社ノ事業ノ進行ヲ妨シル重大ノ議論ニ因リ又ハ其他至重ナル理由ニ因リ社員中一人ノ求メニ從ヒ裁判所ヨリ之ヲ解散ス可キヲ官渡スヲ得可シ

第五百四十一條 前數條ニ記スル規則ハ諸般ノ會社ニ通シ用フルコトヲ得可シ但シ商業ノ事ニ付キ商法ニ記スル所ハ格別ナリトス

第二款 會社ノ分派及ヒ其他ノ分派

第五百四十二條 會社ノ財産ハ契約書ニ記シタル方法ニ從ヒ之ヲ各社員ニ分派ス可シ

第五百四十三條 若シ契約書ニ財産分派ノ方法ヲ記セサル時ハ民法上ノ會社ニ於テハ各社員ノ世話ヲ以テ其分派ヲ爲シ又商法上ノ會社ニ於テハ社員多數ノ選任シタル算計者一名又ハ數名ノ世話ヲ以テ其分派ヲ爲シ若シ社員ノ多數其算計者ヲ選任スルニ付キ協議セサル時ハ裁判所ヨリ任シタル算計者一名又ハ數名ノ世話ヲ以テ其分派ヲ爲ス可シ

第五百四十四條 右算計者ハ糶賣又ハ通常ノ賣買ニテ會社ノ財産ヲ

賣拂フノ權アリ但シ其選任ヲ得ル證書ニ其者ノ權限ヲ記スル時ハ格別ナリトス

第五百四十五條 會社ノ分派ノ外共通ノ財産ヲ分派ス可キ場合ニ於テ其財産ヲ共通スル數名皆自己ニ爲スヲ得可キ權アル時ハ互ニ協議シテ其好ム所ノ方法ニ循ヒ分派ヲ爲スヲ得可シ

第五百四十六條 若シ右數名ノ者互ニ協議セサル時又ハ其中ニ自己ノ財産ヲ自由ニ爲スヲ得可カラサル者アル時ハ其財産ヲ分派セシト欲スル者他ノ共通者ヲ社中所在ノ地ノ裁判所又ハ財産所在ノ地ノ裁判所ニ呼出シ若シ又動産ニ管スル時ハ被告人中一人ノ住所ハ裁判所ニ之ヲ呼出シ其分派ヲ監督ス可キ掛リ裁判役一名ト評價ヲ爲シ且財産ノ區分ヲ爲ス可キ評價一名又ハ數名ト任ス可キト裁判所ニ求ム可シ

第五百四十七條 評價ハ訴訟法ニ定メタル法式ニ循ヒ之ヲ爲ス可シ
第五百四十八條 若シ財産ヲ品物ノ儘分派シ得キ時ハ裁判所ニ於
テ掛リ裁判役ノ申立ヲ聽キタル上財産ノ區分ニ管シタル争ヲ裁決
ス可シ

第五百四十九條 若シ其訴訟ヲ管シタル者ノ中ニ幼者又ハ行權ノ禁
ヲ受ケシ者アル時ハ必ス裁判所ヨリ其財産區分ヲ允許スル言渡ヲ
受ケサル可カラス

第五百五十條 區分シタル財産ヲ圖引ニ爲シ分配スルコトハ掛リ裁判
役ノ面前ニテ之ヲ爲シ掛リ裁判役其旨ヲ調査ニ記ス可シ

第五百五十一條 若シ財産ヲ品物ノ儘分派スルヲ得サル時ハ訴訟法
ニ記シタル法式ヲ以テ之ヲ賣拂フ可シ

第五百五十二條 財産ヲ品物ノ儘分派シタル時ハ其各共通者ヨリ其

區分セシ財産ヲ得タル者ニ對シ互ニ其財産ヲ賣買シタルト看做シ
之ヲ賣買シタル時ト同一ノ効ヲ生ス可シ

第五百五十三條 共通ノ財産ニ付キ權利ヲ得タル債主ハ其財産分派
ノ前ニ總テノ共通財産ニ付キ其權利ヲ行フ可キノ訴ヲ爲スコトヲ得
ヘシ

第五百五十四條 右債主ハ其債ヲ得ルニ至ル迄ハ共通ノ財産ヲ品物
ノ儘分派スルヲ抗拒スルコトヲ得ヘシ

第五百五十五條 右債主ノ其分派ヲ拒ミタル時及ヒ共通者中甲者ノ
債主他ノ共通者ニ其甲者ニ區分セシ財産ヲ引渡ス可カラサル旨ヲ

告知セシ時ハ財産渡方ノ差留ニ等シキ効アリトス
第五百五十六條 前條ニ記シタル各債主ヲシテ諸般ノ手續ニ立會ハ
シムルニ非サレハ共通ノ財産ヲ賣拂フ可カラス

第五百五十七條 共通ノ財産ニ付キ權利ヲ有スル債主ハ其財産ヲ分派スル時共通者一身ニ付テノ債主ニ先チ其債ヲ得ルノ權アリ

第五百五十八條 若シ共通者中ノ甲者ヨリ其共通セシ財産ノ部分ヲ他人ニ賣リタル時ハ共通者中ノ乙者其分派ヲ爲スニ至ル迄ノ間ニ其買主ニ代價ト貸賃及ヒ其他已ムチ得サル費用トテ償ヒ其賣リタル部分ヲ買戻スヲ得ヘシ

第五百五十九條 各共通者ハ其共通スル財産ノ部分ノ割合ヲ以テ先キ買ヲ爲スノ權アリ若シ又共通者中數名ノ其先キ買ノ權ヲ行ハサル時ハ其中ノ一名其財産ノ全部ニ付キ先キ買ノ權ヲ行フヲ得ヘシ

第五百六十條 共通者ノ中一名ハ共ニ財産ヲ所有スル者財產ヲ共ニ所有スルト雖モ共同ノ社中ニ加ハラサル者ニ對スル時ト雖モ先キ買ノ權ヲ行フヲ得ヘシ

但シ其所有者ハ己レノ部分ニ付テハ引留メノ權ヲ行フヲ得ヘシ

○第四章 貸借ノ契約前ニ記スル貸賃ノ契約及ヒ年金ノ契約

第五百六十一條 貸借ノ契約ニ二種アリ

一ハ耗盡セサル物ノ貸借

一ハ耗盡ス可キ物ノ貸借

第五百六十二條 耗盡セサル物ノ貸借トハ貸主ヨリ借主ニ物品ヲ渡シ之ヲ用ヒシメ借主約定期限ニ至リ其物品ヲ還ス可キ契約ヲ云フ

第五百六十三條 耗盡ス可キ物ノ貸借トハ貸主ヨリ借主ニ物品所有ノ權ヲ移シ借主約定期限ニ至リ其物品ニ代ヘテ之レト同種同量ノ物ヲ還ス可キ契約ヲ云フ

第五百六十四條 契約書ニ貸借ノ種數ヲ記セサル時ハ貸主及ヒ借主ノ摸樣ト物品ノ品質トニ從テ其種類ヲ定ム可シ

四〇二

○第一款 耗盡セサル物ノ貸借

第五百六十五條 耗盡セサル物ノ貸借ハ其本性ヨリ貸銀ヲ要セサルモノトス

第五百六十六條 借主ハ己レノ過失ニ因リ其借入レタル物品ヲ滅盡セシメ又ハ之ヲ毀損シタルノ責ニ任ス可シ但シ其過失如何ニ細小ナル時ト雖モ亦同一ナリトス

第五百六十七條 借主ハ其借入レタル物品ヲ保全スルニ付キ意ヲ用フルコトヲ寧懇切タル可シ

第五百六十八條 借主ハ其借入レタル物品ヲ約束シタル以外ノ用法ニ用フ可カラス

第五百六十九條 若シ借主其借入レタル物品ヲ約束セシ以外ノ用法ニ用ヒ又ハ約束シタル期限ニ至リシ後猶之ヲ用フル時ハ借主其借

賃ニ當ル可キ償ヲ出ス可シ但シ其借入レシ物品ヲ用フルコトノ適度ニ過クルニ因リ其物品ヲ毀損シタル時ハ亦其損害ノ償ヲ爲ス可シ

第五百七十條 若シ借主其借入レシ物品ニ修理ヲ加フ可キ時其旨ヲ貸主ニ報告スルノ暇アラサル時ハ貸主ニ對シ其費用ノ償ヲ得ント要ムルコトヲ得可シ然レモ借主ハ其借入レシ物品ノ小補理ノ費用ヲ己レニ擔當セサルヲ得ス

第五百七十一條 借主ハ約束シタル期限ニ至リ其借入レシ物品ヲ還ス可シ又其期限ニ至ラサル前ニ之ヲ還スニ及ハス

第五百七十二條 別段還ス可キ期限ヲ定メサル時ハ其物品ヲ借入レタル眼目ノ用法ニ用ヒタル後ニ之ヲ還ス可シ

○第二款 耗盡ス可キ物ノ貸借及ヒ年金ノ契約

五〇二

第五百七十三條 耗盡ス可キ物ノ貸借ニ於テハ借主其物品所有ノ權

ヲ得タル時ヨリ其物品ヲ己レニ擔當ス可シ

第五百七十四條 貨幣ヲ貸借シタル時ハ其貸借ノ後其相場ノ如何ヲ變易セシニ管セス其借タル通りノ高ヲ還ス可シ

第五百七十五條 借主ハ約束シタル期限ニ至リ其物品ヲ還ス可シ

第五百七十六條 若シ右ノ期限ヲ定メス又ハ借主ノ都合次第還ス可キノ契約ヲ爲シタル時ハ裁判役其借入品ヲ還ス可キ期日ヲ定ム可シ

第五百七十七條 借主ハ管テ物品ヲ借入レタル場所ニ於テ之ヲ還ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第五百七十八條 耗盡ス可キ物ノ貸借ハ貸銀ヲ要セサルモノトス但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第五百七十九條 契約シタル利息ハ百分ノ十二ニ過シ可カラス

第五百八十條 利息ヲ得テ貸借ヲ爲ス契約ヲ結ヒタル時ハ貸主ハ決

シテ其元金ヲ取還サント求ム可カラス又借主ハ何時ニテモ之ヲ還スヲ得可キ約束ヲ加フルヲ得可シ

第五百八十一條 前條ノ場合ニ於テハ其貸借ノ契約ヲ名ケ年金ヲ設ケ定ムル契約ト云ヒ其利息ヲ名ケテ年金利息ト云フ

第五百八十二條 然レモ借主若シ其義務ヲ行ハス又ハ契約通り保証ヲ立ツルヲ肯セス或ハ保証ノ高ヲ減損シ又ハ家資分散ノ言渡ヲ受

ケタル時ハ貸主裁判所ヨリ其元金ヲ取還ス可キ言渡ヲ得ルノ權アリ

第五百八十三條 年金ハ法律上ニ定メタル利息ヨリ更ニ多數ノ利息ヲ以テ之ヲ設ケ定ムルヲ得可シ但シ其利息ハ特ニ定メタル期限

間之ヲ出シ又ハ貸主ノ畢生間之ヲ出シ又ハ年金ヲ設ケ定メタル時

八〇二

生存セシ者ノ畢生間之ヲ出スヲ得ヘシ

第五百八十四條 前條ノ場合ニ於テハ元金ヲ償還スルヲナク約定セシ期限毎ニ其拂フタル利息ヲ以テ次第ニ其元金ヲ消却ス可シ

第五百八十五條 年金ノ貸主ハ借主其義務ヲ行ハサル時又ハ其保証ヲ立ツルヲ肯セズ或ハ其保証ノ高ヲ減損シタル時又ハ借主ノ家資分散シタル時ハ借主ノ財産ヲ賣拂ヒ其代價中相當ノ金高ヲ年金ノ利息ヲ得ルニ充テ用ルヲ得ヘシ

第五百八十六條 賣買ノ契約ヲ爲スニ付キ又ハ其他ノ契約ヲ爲スニ付キ設ケ定メタル無期ノ年金及ヒ畢生間ノ年金又ハ償ヲ要セサル約束ニテ設ケ定メタル無期ノ年金及ヒ畢生間ノ年金ハ前數條ノ規則ニ循フ可シ

○第五章 附託ノ契約

第五百八十七條 附託ノ契約トハ甲者ヨリ乙者ニ動産ヲ託シ乙者報謝ヲ約スルヲナク其動産ヲ自己ノ動産ト同シシ監守シ甲者ノ求ニ隨ヒ其儘ニテ之ヲ還ス可キ契約ヲ云フ

第五百八十八條 若シ報謝ノ契約アル時ハ附託ノ契約ヲ勞力貸貸契約ノ規則ニ循ヒ之ヲ規定ス可シ

第五百八十九條 附託ヲ受ケシ者ハ契約シタル期限ニ至ラサル前ニ其附託ヲ爲シタル者ヲシテ強テ其物品ヲ取還サシム可カラス

第五百九十條 附託ヲ受ケシ者ハ己ノ重大ナル過失ノ責ニ任シ且ツ契約書ニ定メタル如ク懇切ニ注意ヲ加ヘサルノ責ニ任ス可シ

第五百九十一條 附託ヲ受ケシ者其附託ヲ受ケタル物品ヲ用フ可カラズ若シ之ヲ用フル時ハ附託ヲ爲シタル者ニ其損害ヲ償フ可シ

九〇二

第五百九十二條 附託ヲ受ケシ者ハ附託ヲ爲シタル者又ハ其代權人

ニ其物品ヲ還ス可シ

第五百九十三條 附託ヲ爲シタル者ハ物品ヲ保全スルニ付テノ費用ト其物品ノ爲メノ損害トヲ附託ヲ受ケタル者ニ償フ可シ

第五百九十四條 附託ヲ受ケシ者ハ己レノ得ヘキ金高ノ償ニ充ツル爲メ其物品ヲ引留ムルノ權アリ

第五百九十五條 物品ノ附託ヲ受ケル原由ニ付キ報謝ヲ受ケル者例ヘハ旅舎ノ主人荷物ノ運送人等ノ如キハ其物品ヲ失フタルノ責ニ任ス可シ但シ抗拒ス可カラサル力ノ爲メ之ヲ失フタルノ證アル時ハ格別ナリトス

第五百九十六條 物品ニ付キ争ノ生シタルニ因リ若シ其附託ヲ爲シタル時ハ附託ヲ受ケシ者ヨリ相争フ雙方ニテ指定シタル人又ハ裁判所ニテ指定シタル人ニ之ヲ還ス可シ

第五百九十七條 雙方ニテ相争フ物品又ハ裁判所ニテ預リシ物品ノ附託ヲ受ク可キ者ヲ裁判所ヨリ之ヲ指定スルヲ得ヘシ但シ裁判所ニ於テハ相争フ一方ノ者ヲ其附託ヲ受ク可キ者ト爲スヲ得ヘシ

第五百九十八條 雙方相争フ物品ノ附託ニ付テハ其報謝ヲ定ムルヲ得ヘシ但シ不動産ト雖モ雙方相争フ時ハ之ヲ附託スルヲ得ヘシ

第五百九十九條 如何ナル場合ニ於テモ通常ノ附託ヲ受ケル者又ハ雙方相争フ物ノ附託ヲ受ケル者ハ其物品ヨリ生シタル利益ヲ還ス可シ且之ヲ還ス可キノ催促ヲ受ケタル時又ハ己レノ資益ノ爲メ其物品ヲ用ヒタル時ヨリ其附託ヲ受ケシ金高ノ利息ヲ拂フ可シ

第六百條 若シ附託ヲ受ケシ者ノ代權人正實ノ意ヲ以テ其物品ヲ賣

リタル時ハ其受取リタル代金又ハ買主ニ對シ訴訟ヲ爲ス可キノ權
ヲ其附託ヲ爲シタル者ニ讓リ與フ可シ○若シ右代權人其物品ヲ人
ニ贈遺ト爲シタル時ハ其物品ノ見積リ代價ヲ附託ヲ爲シタル者ニ
渡ス可シ

○第六章 保證ノ契約

第六百一條 保證ノ契約トハ若シ甲者其義務ヲ行ハサル時乙者之ニ
代テ其義務ヲ行フ可キヲ定ムル契約ヲ云フ

第六百二條 義務ヲ行フ可キ者自己ノ權利ヲ行フ能ハサルニ因リ
保證ノ契約ヲ爲シタル時ノ外主タル義務ノ効ナキ時ハ其保證ノ契
約モ亦其効ナカル可シ但シ主タル義務ヲ行フ可キ者ニ告知セスト
雖モ其義務ノ保證ヲ爲スヲ得ヘシ

第六百三條 保證ノ義務ノ高ハ主タル義務ヨリ更ニ多カル可カラス

又保證ノ義務ハ主タル義務ヨリ更ニ重劇ナル可カラス

第六百四條 然レモ保證ノ義務ノ高ハ主タル義務ヨリ更ニ少ナキヲ
得ヘク又保證ノ義務ハ主タル義務ヨリ更ニ輕寛ナルヲ得ヘシ

第六百五條 別段ノ契約アラサル時ハ保證ノ義務ヲ主タル義務ノ附
從タル諸件利息費用等ノニ及ホス可カラス又保證人ヲシテ主タル
義務ヲ行フ可キ者ト連帶セシム可カラス

第六百六條 裁判所ノ言渡ニテ命セラレタル保證ノ義務ハ利息費用
及ヒ附從ノ諸件ニ當然及ホス可ク且ツ主タル義務ト連帶セサル可
カラス

第六百七條 主タル義務ヲ行フ可キ者契約上ノ保證人又ハ裁判上ノ
保證人ヲ立ツ可キヲ約束シタル時若シ最初ノ保證人其義務ヲ行
フ能ハサルニ至ルニ於テハ更ニ他ノ保證人ヲ立テサル可カラス

第六百八條 保證人ヲ立ツ可キ義務ハ訴訟法ニ定メタル法式ニ循ヒ之ヲ行フ可シ

第六百九條 主タル義務ヲ行フ可キ者ト連帶セサル保證人ハ主タル義務ヲ行フ可キ本人ノ財産ヲ以テ其義務ノ全部ヲ行フニ充テ用ヒシムルニ足ル可キ時ハ義務ヲ行ハシム可キ者ヲシテ其義務ヲ行フ可キ者ニ對シ訴訟ヲ爲サシム可キノ要求ヲ爲スヲ得ヘシ但シ保證人其要ヲ爲ス可キ權利ヲ拋棄シタル時ハ格別ナリトス故ニ裁判所ニ於テハ義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ保證人ニ對シ爲シタル訴訟ヲ暫ク停止セシム可キト否トテ裁斷ス可シ但シ其義務ヲ行ハシム可キ者ノ權利ヲ保護ス可キ所爲ヲ行フハ格別ナリトス

第六百十條 主タル義務ヲ行ハシム可キ者ヨリ之ヲ行フ可キ者ニ猶豫ノ期限ヲ許ルシタル時ト雖モ保證人ハ主タル義務ヲ行フ可キ期

限ニ至リ之ヲ行フ可キ者ニ對シ訴訟ヲ爲スノ權アリ但シ主タル義務ヲ行ハシム可キ者保證人ノ義務ヲ釋放シタル時ハ格別ナリトス

第六百十一條 又保證人ハ主タル義務ヲ行フ可キ期限ニ至ラサル前ト雖モ其義務ヲ行フ可キ者若シ家資分散ヲ爲シタル時ハ其者ニ對シテ訴訟ヲ爲スノ權アリ

第六百十二條 若シ同一ノ主タル義務ニ付キ一通ノ證書ヲ以テ保證人數名ヲ立ツルト雖モ其數名ノ互ニ連帶ス可キヲ契約セサル時ハ義務ヲ行ハシム可キ者各保證人ニ對シ其各擔當ス可キ部分ノミニ付キ訴訟ヲ爲スヲ得ヘシ

第六百十三條 若シ保證人數名漸次ニ記シタル證書ヲ以テ其義務ヲ契約シタル時ハ其互ニ連帶セシヲ思料ス可カラズ然レモ其時ノ景狀ニ因リ其數名ヲ互ニ連帶シタルモノト定ムルヲ得ヘシ

第六百十四條 保證人主タル義務ヲ其期限ニ至リ行フタル時ハ其義務ヲ行フ可キ本人ニ對シ訴訟ヲ爲スノ權アリ但シ保證人ハ義務ヲ行ハシム可キ者ノ權ニ代ハルコトヲ得ヘシト雖モ其者ヨリ後ニ非サレハ其權ヲ行フヲ得ス

第六百十五條 連帶シタル保證人數名アリテ其中ノ一名主タル義務ノ全部ヲ其期限ニ至リ行タル時ハ他ノ各保證人ヲシテ各其擔當ス可キ部分ヲ己ノニ償ハシメ若シ其保證人中ニ義務ヲ盡クス能ハサル者アル時ハ其者ノ部分ヲ他ノ者ニ分配ス可キコトヲ要ムルヲ得ヘシ

第六百十六條 保證人ハ主タル義務ヲ行フ前又ハ之ヲ行フ可キノ訴ヲ受ケタル時其義務ヲ行フ可キ者ニ其旨ヲ告知ス可シ若シ其告知ヲ爲サスニテ主タル義務ヲ行フ可キ者自カラ之ヲ行フタル時又ハ其義務ノ効ナカル可キ言渡ヲ得ヘキ證ヲ立テタルニ於テハ保證人

其者ニ對シテ訴訟ヲ爲スノ權ヲ失フ可シ

第六百十七條 主タル義務ヲ行フ可キ者ヲ其期日ニ至リ出席セシム可キコトヲ保證スル者ハ主タル義務ヲ行フ可キ者若シ其日ニ出席セサル時ハ自カラ其義務ヲ行フ可シ

第六百十八條 若シ右期日ニ至リ主タル義務ヲ行フ可キ者出席シタル時ハ保證人其義務ノ釋放ヲ得ヘシ

第六百十九條 保證人ハ主タル義務ヲ行フ可キ者ト同時ニ義務ノ釋放ヲ得且ツ其者ト同シク義務ヲ行ハシム可キ者ノ訴ニ抗拒スルノ權アリ但シ主タル義務ヲ行フ可キ者ノ一身ニ限リタル權利ハ格別ナリトス

第六百二十條 保證人ハ主タル義務ヲ行ハシム可キ者ノ自己ノ過失ニ因リ失フタル保證ノ價高ニ至ル迄其保證ノ義務ノ釋放ヲ得ヘシ

八一二

第六百二十一條 若シ主タル義務ヲ行ハシム可キ者其義務ヲ行ハシムルコト代ヘ一箇ノ物品ヲ受取リタル時ハ假令外ニ其物品ヲ己レノ所有ナリト述フル者アリト雖モ保証人ハ其義務ノ釋放ヲ得ヘシ

○第七章 名代ノ契約

第六百二十二條 名代ノ契約トハ甲者乙者ノ名目ヲ以テ乙者ノ爲メ事ヲ爲ス可キノ任ヲ受クル契約ヲ云フ

第六百二十三條 名代ノ事業ヲ執行ヒ始メタル時ハ名代ノ契約ヲ承諾シタルト看做スヲ得ヘシ

第六百二十四條 名代ノ契約ハ報謝ナク之ヲ爲シタルモノト看做ス可シ但シ之ニ反シタル契約アル時又ハ其契約ナシト雖モ名代人ノ模様ニ因リ報謝ヲ授受ス可キ定ヲ爲シタルヲ知リ得ヘキ時ハ格別ナリトス

第六百二十五條 契約シタル報謝ノ高ハ常ニ裁判役ノ裁決ニ任カス可シ

九一二

第六百二十六條 名代ノ契約ハ特別ノモノアリ又ハ一般ノモノアリ

第六百二十七條 特別ノ名代ノ契約ハ特ニ定メタル事ト已ムヲ得サ
ル其引續キノ事トニ付キ本人ニ代リ處置ヲ爲スノ權ヲ授タルノミ
トス

第六百二十八條 一般ノ名代ノ契約ヲ爲シタル時ト雖モ唯其支配ノ
所務ヲ爲ス可キノ權ヲ授クルノミトス

第六百二十九條 名代人自認ヲ爲シ又ハ誓ヲ爲シ或ハ人ニ誓ヲ爲ス
ヲ求メ又ハ裁判所ニ於テ訴訟ノ本案ヲ論辨シ又ハ判斷人ノ裁斷ニ
任カセ又ハ權利ノ和解ヲ爲シ又ハ不動産或ハ不動産ニ付テノ權利
ヲ讓リ又ハ人ヲシテ行ハシム可キ義務ノ未タ消散セサル中ニ其義
務ノ保證ヲ拋棄シ又ハ何事ニ因ラス償ヲ契約セサル證書ヲ承諾ス
ルニハ特別ノ名代ノ契約書アルヲ又ハ一般ノ名代ノ契約書中ニ記
スル別段ノ權アルヲテ證セサル可カラス

第六百三十條 本人ノ不動産ヲ讓渡ス可キ名代ノ契約書アル時ハ特
ニ指定メサル總テノ不動産ヲ讓渡スノ權ヲ包含シ又本人ノ權利ニ
付キ判斷人ノ裁斷ニ任カセ或ハ其權利ニ付キ和解ヲ爲ス可キ名代
ノ契約書アル時ハ特ニ指定メサル權利ト雖モ裁判人ノ裁斷ニ任カ
セ又ハ其和解ヲ爲ス可キノ權ヲ包含ス可シ故ニ概シテ之ヲ言ヘハ
一種ノ事業ニ付キ一般ノ名代ノ契約書アル時ハ縱令其事業ヲ特ニ
指定メスト雖モ其名代ノ契約ノ効アル可シ但シ償ヲ契約セサル証
書ニ管シタル時ハ格別ナリトス

第六百三十一條 名代人ト契約ヲ爲サントスル者ハ常ニ其名代ノ契
約書ノ公正ナル寫ヲ檢視セント要ムルノ權アリ

第六百三十二條 若シ一箇ノ契約書ヲ以テ名代人数名ヲ任シ各自ニ
事ヲ爲ス可キノ權ヲ授クル旨ヲ記セサル時ハ其數名合同シテ事ヲ

爲サ、ルヲ得ス

第六百三十三條 名代人更ニ己レニ代テ事ヲ爲ス可キ者ヲ任スルノ
權ハ本人ヨリ別段之ヲ受ク可シ

若シ本人ヨリ名代人ニ代リ事ヲ爲ス可キ者ヲ特ニ指定メサル時名
代人ノ擇ミタル者其義務ヲ行フ能ハサルニ至リ又ハ事ヲ爲スノ能
力ナク又ハ著シク怠惰ナルニ於テハ名代人其責ニ任ス可シ

第六百三十四條 如何ナル場合ニ於テモ名代人ニ代リシ者ハ直チニ
本人ニ對シ責ニ任ス可シ

第六百三十五條 名代人ハ己レノ大ナル過失ト己レノ意ヲ以テ名代
ノ契約ノ如ク執行ハサルコトノ責ニ任ス可シ

第六百三十六條 名代人若シ報謝ヲ得ル時ハ瑣小ノ過失ト雖モ其責
ニ任ス可シ

第六百三十七條 名代人ハ時宜ニ適セズ其名代ノ權ヲ拋棄ス可カラ
ス又名代人ハ其權ノ終ル可キ方法如何ヲ問ハズ其既ニ取掛リシ事
業ノ妨害トナラサル様之ヲ修整ス可シ但シ本人ヨリ特ニ其名代人
ヲ廢シタル時ハ格別ナリトス

第六百三十八條 又名代人ノ遺物相續人其名代ノ事ト既ニ取掛リシ
事業トヲ知リタル時ハ前條ニ記スル所ト同一ナリトス

第六百三十九條 若シ名代人其名代ノ事ヲ人ニ知ラシメズ本人ノ爲
メ事ヲ爲シタル時ハ其義務ヲ己レ一身ニ負フ可シ

第六百四十條 名代人本人ノ名目ニテ且其本人ノ爲メ事ヲ爲ス旨ヲ
人ニ知ラシメタル時ハ名代ノ契約アルヲ證スルコトノ外己レ一身ニ
義務ヲ負フコトナル可シ

第六百四十一條 名代人其名代ノ權限ヲ人ニ知ラシメタル時ハ縱令

其權外ノ事ヲ爲スト雖モ其責ニ任スルコトナシ

第六百四十二條 名代人ハ其所爲ヲ本人ニ報告シ且本人ノ爲メ受取
リタル金高ヲ本人ニ算計ス可シ

第六百四十三條 名代人ハ本人ヨリ金高ヲ渡ス可キ催促ヲ受ケシ日
ヨリ其金高ノ利息ヲ負擔ス可シ又本人ノ爲メ受取リシ金高ヲ己ノ
ノ資益ノ爲メ用ヒタル日ヨリ其金高ノ利息ヲ負擔スヘシ

第六百四十四條 名代人ハ本人ノ爲メ金高ヲ立替ヘタル日ヨリ其利
息ヲ得ルノ權アリ

第六百四十五條 本人ハ己ノ名目ニテ名代人ノ其契約書ニ因リ負
フタル義務ヲ行フ可シ又名代人ノ其權外ニ爲シタル事ハ之ヲ許認
スルト否ト相相當ノ期限間ニ告知ス可シ

第六百四十六條 本人ハ名代人ニ任カセタル事業ノ成就シタルト否

トチ問ハス名代人ノ正當ニ出セシ費用ヲ償フ可シ但シ名代人ニ過
失アル時ハ格別ナリトス

第六百四十七條 名代ノ權ハ左ノ諸件ニ因テ終ルヘシ

名代人ヲ廢スル事

名代ノ權ヲ授ケシ事業ノ成就シタル事

名代人其權ヲ拋棄シテ本人ニ其旨ヲ告知シタル事

名代人又ハ本人ノ死去シタル事

第六百四十八條 縱令本人ノ死去シ又ハ名代人ヲ廢シタル時ト雖モ
此等ノ事ヲ知ラサル者ニ對シ之ヲ申立ルキハ其訴ニ抗拒ス可カラズ

第六百四十九條 名代人ハ其名代權ノ終ルニ至リ其委任ノ契約證書

ヲ本人ニ還スヘシ

○第八章 和解ノ契約

第六百五十條 和解ノ契約トハ雙方ノ間ニ既ニ生シタル争ヲ了シ又ハ生セントスル争ヲ預メ防シ可キ爲メ雙方互ニ其權利ノ一部ヲ拋棄スル契約ヲ云フ

第六百五十一條 國ノ大事ニ管係シタル條件又ハ公ケノ安寧ニ管係シタル條件ニ付テハ和解ノ契約ヲ爲ス可カラス然レモ國ノ大事又ハ犯罪條件ノ引續キタル金高ヲ得ル權利ニ付テハ和解ノ契約ヲ爲ス可キ得ヘシ

第六百五十二條 己レノ權利ヲ隨意ニ爲ス可キ得ヘキ者ニ非レハ其權利ニ付キ和解ノ契約ヲ爲ス可カラス

第六百五十三條 和解ヲ爲シ權利ヲ拋棄シタル時ハ特ニ其和解ノ契約書ニ記スル所ノ權利ノミチ拋棄シタルト看做シ且其契約書ノ文詞如何ナルヲ問ハス其和解ヲ爲セシ事ノ目的タル權利ノミチ拋棄

シタルト看做ス可シ

第六百五十四條 和解ノ契約ハ一方ノ詭欺ヲ行ヒ又ハ人或ハ物ヲ錯誤シタル時又ハ和解ノ後ニ至リ其和解ヲ爲シタル證書ノ贗造タルヲ識認シタル時ニ非レハ之ヲ取消サント訴フ可カラス

第六百五十五條 算計ノ錯誤ハ之ヲ改正ス可シ

第六百五十六條 和解ヲ爲シタル權利ニ付テノ保証ハ和解ノ契約ノ如ク執行ハシムルニ付テモ亦存續ス可ク然レモ其保証人又ハ保証人爲メ損失ヲ受ク可キ者ハ嘗テ其和解ノ前右ノ權利ヲ行フニ抗拒スヘキ總テノ憑據ヲ申立テ其權利ヲ行フ者ノ訴ニ抗拒スルコト得ヘシ

第六百五十七條 和解ヲ爲シタル事業ニ付キ共ニ管係セシ者アル時ハ和解ノ旨ヲ申立テ其者ノ權利ニ抗拒ス可カラス又其者ヨリ和解

ノ旨ヲ申立テ和解ヲ爲シタル雙方ノ權利ニ抗拒ス可カラス
第六百五十八條 縱令契約書ニ和解ノ契約書タル名義ヲ附スルト雖
モ其實賣買又ハ贈遺ノ契約又ハ何ノ種類ニ限ラス總テ其他ノ契約
書タル時ハ右假稱ヲ附シタル契約書ノ其名ノ本義ト齟齬セサルモ
ノヲ除クノ外前數條ニ記シタル規則ヲ右ノ契約書ニ通シ用フ可カ
ラス

○第九章 質入ノ契約

第六百五十九條 質入ノ契約トハ負債者其負債ヲ償フノ保證トシテ
其債主又ハ雙方協議シテ定メタル者ニ物件ヲ渡シ債主ヲシテ全ク
其債ノ償ヲ得ルニ至ル迄其物件ヲ引留メ且其物件ノ代價ヲ以テ他
ノ債主ニ先ヲ償ノ償ヲ得ルノ特權ヲ得セシムル契約ヲ云フ
第六百六十條 若シ質物其質入人ノ手ニ戻ル時ハ質入契約ノ効ナカ

ル可シ

第六百六十一條 一箇ノ質物ヲ以テ相繼テ數箇ノ負債ヲ保證スルコ
ト得ヘシ但シ之カ爲メニハ其質物ヲ保有スル者債主數名ノ算計ノ
爲メ之ヲ保有ス可キコト承諾シタルヲ必要トス

第六百六十二條 負債者若シ其債ヲ償ハサル時ハ其質物ヲ債主ノ所
有物ト爲ス可キコト契約ス可カラス唯其債主ハ總テ其他ノ債主ト
同シク其質物ヲ賣ラント要スルノ權アルノミトス

第六百六十三條 質物ヲ保有スル者ハ之ヲ監守ス可ク若シ偶然ノ事
ニ因リ之ヲ失フ時ハ質入人ノ損失タルヘシ

第六百六十四條 質物ヲ預リタル債主ハ其質物ヨリ一身ノ利益ヲ得
ヘカラス

第六百六十五條 質物ヲ預リタル債主ハ其質物ヨリ生ズヘキ總テノ

利益ヲ生セシム可ク且其利益ヲ以テ先ツ負債ノ利息ヲ償フニ充テ
用ヒ次ニ其元金ヲ償フニ充テ用ユ可シ但シ負債ノ未タ償還期限ニ
至ラサル時ト雖モ亦同様ナリトス

第六百六十六條 質物ノ全部ヲ以テ負債ノ各部ヲ保證ス可シ

第六百六十七條 質物ハ動産又ハ不動産タルコトヲ得ヘシ

第六百六十八條 他人ノ負債ヲ保證スル爲メ物件ヲ質入スルコトヲ得
ヘシ

第六百六十九條 動産ノ質入ハ日附ノ儘カナル證書ヲ以テ之ヲ證シ

且其證書ニ負債高ト質入物ト十分明カニ指定スルニ非レハ他人

ニ對シテ其質入ノ効ナカル可シ

第六百七十條 義務ヲ行ハシム可キ權利ヲ質物ト爲スニハ其權利ノ

證書ヲ渡シ且其權利ヲ移ス爲メ必要ナル法式ヲ行フコトヲ必要トス

但シ商業ニ管シタル規則ハ格別ナリトス

第六百七十一條 不動産ノ質入ハ其證書ヲ不動産書入質役所ノ簿冊

ニ登記スルニ非サレハ他人ニ對シテ其効ナカル可シ

第六百七十二條 不動産ヲ質入ニ爲スト雖モ其證書ヲ不動産書入質

役所ノ簿冊ニ登記スル前ニ法ニ適シテ其不動産ニ付キ得タル物權

ヲ害ス可カラズ

第六百七十三條 不動産ヲ質トシテ得タル債主ハ其不動産ヲ補理シ

及ヒ之ヲ保全スルニ必要ナル費用ヲ出シ且其租稅ヲ納ムヘシ但シ

其債主ハ其不動産ノ利益ヲ以テ右ノ出銀ヲ償ヒ又ハ其不動産ノ代

價ヲ以テ他ノ債主ニ先チ右出銀ノ償ヲ受クルヲ得ヘシ

第六百七十四條 前條ノ債主ハ其質物ヲ得ル權ヲ拋棄スルニ因リ右

ノ義務ヲ免カル、コトヲ得ヘシ

○第四篇 債主ノ權利

○第一章 債主ノ種類

第六百七十五條 債主ノ種類ニ四箇アリ

第一 通常ノ債主、但シ此債主ハ各、其貸高ニ准シ負債者ノ諸般ノ財産ヲ以テ償ヲ得ヘキ者ナリ

第二 不動産書入質ノ權アル債主、但シ此債主ハ特ニ定メタル法式ヲ行フタルニ因リ其負債者ノ不動産一箇又ハ數箇ノ何人ノ手ニ移ルヲ問ハス其代價ヲ以テ通常ノ債主ニ先テ償ヲ得ヘキノ特權ヲ有スル者ナリ

第三 先取ノ特權アル債主、但シ此債主ハ其權利ノ本性ニ因リ特ニ定メタル負債者ノ不動産又ハ不動産ノ代價ヲ以テ總テ他ノ債主ニ先テ償ヲ得ルノ特權ヲ有スル者ナリ

第四 引留ノ權アル債主、但シ此債主ハ他ノ債主ニ勝リ全ク其償ヲ得ルニ至ル迄其負債者ノ或ル財産ヲ己レニ引留ム可キ特權ヲ有スル者ナリ

○第一款 通常ノ債主

第六百七十六條 通常ノ債主ハ法律上ニ定メタル法ニ循ヒ其負債者ノ諸般ノ財産ヲ以テ償ヲ得ヘキノ權アリ

第六百七十七條 負債者代價ヲ得テ己レノ財産ヲ賣拂フト雖モ債主ノ權利ヲ害スル爲メ之ヲ爲シタル時ニ非サレハ債主其故障ヲ述フ可カラス

○第二款 不動産書入質ノ權アル債主

第六百七十八條 不動産書入質ノ權ハ債主ト不動産ノ所有者ト裁判ノ書記局ニ於テ公正ノ證書ヲ記シ其契約ヲ爲シタル時ニ非サレハ

之ヲ得ヘカラス

第六百七十九條 己ノ財産所有ノ權ヲ人ニ移スノ權ナキ者ハ不動産ノ書入質ヲ承諾ス可カラス

第六百八十條 糶賣ニ爲ストテ得ヘキ本性ノ不動産ニ非サレハ書入質ニ爲ス可カラス

第六百八十一條 書入質ト爲シタル不動産ニ付テハ其本性ト其所在ノ場所トヲ詳カニ指示ス可ク且負債ノ高チ證書ニ指定ム可ク若シ此等ノ事ヲ詳カニ爲サル時ハ書入質ノ効ナカル可シ

第六百八十二條 一ノ資本金中ヨリ時々金高チ拂フテ保証スル爲メ又ハ商賣取引ノ渡金ヲ保證スル爲メ不動産ヲ書入質ニ爲シタル時其時々ノ拂金又ハ取引ノ渡金ノ最大數幾許ナルヤヲ定メ得ヘキニ於テハ其書入質ノ効アリトス

第六百八十三條 若シ書入質ト爲シタル不動産偶然ノ事ニ因リ滅盡又ハ毀損シ保證ノ用ヲ爲スニ足ラサルニ至ル時ハ負債者他ノ不動産ヲ書入質ト爲シ又ハ償還期限ニ至ラサル前ニ其負債ヲ償フテ自由タルヘシ○若シ負債者又ハ書入質ト爲シタル不動産ノ保有者ノ過失ニ因リ其不動産ヲ滅盡シ又ハ毀損シタル時ハ債主右二件中ノ一ヲ擇ムトテ得可シ

第六百八十四條 將來所有ト爲サントスル不動産ノ書入質ハ其効ナカル可シ

第六百八十五條 不動産ヲ書入質ニ爲シタル時ハ其不動産ハ勿論之ト分別ス可カラサル附從ノ不動産ト其所有者ノ資益タル可キ手入レ並ニ造築ヲモ亦其書入質中ニ包含ス可シ

第六百八十六條 不動産書入質ノ權ハ其所有者他人ノ爲メニ其所有

ノ權ヲ奪ハル、コナキ中ニ其不動産所在ノ地ノ書入質役所ノ簿冊
ニ書入質ノ證書ヲ記入シタルニ非サレハ之ヲ行フ可カラズ但シ家
資分散ノ事ニ付キ定メタル規則ハ格別ナリトス

第六百八十七條

不動産書入質ノ證書ノ記入ハ二通ニ記シタル
目録
即チ
ホルテロニ據テ之ヲ爲ス可シ但シ此目録ニハ左ノ諸件ヲ記スヘ
シ

第一 債主ノ姓名職業居所及ヒ裁判所ノ管轄地内ニ特ニ其住所
ヲ擇ミ定メタル事但シ特ニ住所ヲ擇ミ定メタルコトヲ記セサル
時ハ相手方ヨリ裁判所ノ書記局ニ諸書類ヲ送達シ其債主ヲ住
所ニ之ヲ送達シタルト同シキ効アリトス

第二 負債者又ハ不動産ヲ書入質ニ爲スコトヲ承諾シタル其所有
者ノ姓名職業居所

第三 書入質ノ契約書ノ日附及ヒ其契約書ヲ記シタル書記局ノ
名

第四 書入質ノ契約書ニ記シタル負債ノ高及ヒ負債ノ償還期限
第五 書入質ト爲シタル不動産ノ詳細ナル記載

第六百八十八條 債主数名縦令同日ニ其不動産書入質ノ證書ヲ記入
シタル時ト雖モ其記入ノ順序ニ從ヒ不動産ノ代價ヲ以テ其償還ヲ
得又火災ノ時ハ火災受合ノ高ヲ以テ其償還ヲ得ヘシ

第六百八十九條 債主其不動産書入質ノ證書ヲ記入シタル時ハ負債
元金ノ外其二年間ノ利息ノ保證ヲ得ヘシ但シ之カ爲メニハ其不動
産ノ代價ヲ分配スル時ニ當リ其利息ノ拂期期ニ至リシコトヲ必要ト
ス

第六百九十條 十年ノ後ニ至リ更ニ改メテ記入ヲ爲サル時ハ其記

入ノ効ヲ失フ可シ但シ債主一旦其記入ノ効ヲ失ヒシ後猶法ニ適シテ記入ヲ爲シ得ヘキ時ハ更ニ其記入ヲ爲シ其記入ノ時ヨリ其書入質ノ權ノ順序ヲ定ム可シ

第六百九十一條 不動産ヲ雜賣ニ爲ス可キ時ハ其期限ノ終リタル後又通常ノ賣買ノ時ハ買主其不動産ノ代價ニ增高ノ有無ヲ問ハス現ニ其代價ヲ提供シテ債主之ヲ承諾シタル後ハ債主其書入質ノ記入ヲ改メ爲スニ及ハス

第六百九十二條 書入質ノ記入ヲ塗抹スルニハ控訴ス可カラサルニ至リシ裁判言渡アルコト又ハ債主ヨリ書記局ニ承諾ノ證書ヲ出シタルコトヲ必要トス

第六百九十三條 記入ノ塗抹ヲ要ムル訴ハ不動産所在ノ地ノ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ但シ負債ニ管スル訴ニ附帶シテ右塗抹ノ訴ヲ爲ス時ハ格別ナリトス

第六百九十四條 負債ノ償還期限ニ至リ書入質ノ權アル債主ハ負債者ニ要決ノ書ヲ送リタル上ニテ訴訟法ニ記スル法式ト期限トニ循ヒ其書入質ノ不動産ヲ差押ヘ之ヲ賣拂フノ手續ニ取掛ルヲ得ヘシ但シ其書入質ノ權アル債主ヨリ負債者ニ對シテ訴ヲ爲ス可キ一身ノミニ限リタル權利ヲ行フハ格別ナリトス

第六百九十五條 然レモ若シ其書入質ノ不動産ヲ外ニ保有スル者アル時ハ債主訴訟法ニ記シタル法式ニ循ヒ其保有者ニ負債ノ償又ハ其不動産ヲ抛棄ス可キ要決ノ書ヲ送リシ後ニ非レハ其差押ニ取掛ル可カラス

第六百九十六條 書入質ノ不動産ヲ保有スル者ハ負債ヲ償フテ債主ノ權利ニ代リ又ハ其負債ヲ償フニ代ヘ其不動産ノ買入代價ヨリ少

ガラサル可キ見積リ代價ヲ提供シ又ハ其不動産ヲ抛棄シ又ハ不動
産差押ノ訴訟手續ヲ受クル自由ナリトス

第六百九十七條 保有者ノ負債ヲ償フ權及ヒ不動産ヲ抛棄スル權ハ
差押ノ上糶賣ヲ爲ス時ニ至ル迄存在ス可シ

第六百九十八條 保有者ハ不動産差押ニ付テノ費用及ヒ差押後ノ費
用ヲ提供ス可シ但シ保有者ハ負債者及ヒ以前ノ所有者ニ對シ其償
ヲ得ヘキ訴ヲ爲スノ權アリ

第六百九十九條 負債ヲ償フニ代ヘ不動産ノ見積代價ヲ提供スル權
ハ其差押ニ至ル迄存在ス可シ

第七百條 負債ヲ償フタル保有者債主ノ權ニ代リ其債主ノ書入質記
入ノ資益ヲ己レニ得タル時ハ當テ保有者ノ其不動産買入ノ證書ヲ
役所ノ簿冊ニ登記セシ時存在シタル總テノ書入質ノ記入ヲ塗抹ス

ルニ至ル迄己レノ書入質ノ記入ヲ保チ置キ改メテ之ヲ記入ス可シ
第七百一條 保有者ハ其不動産ノ見積リ代價ヲ提供スト雖モ債主ノ
之ヲ承諾シタル時ニ非レハ其義務ヲ免カル可カラス

第七百二條 保有者ハ催促書ヲ受クルコトナシト雖モ提供ヲ爲スコト
得可シ

第七百三條 代價ノ見積ハ書入質ト爲シタル不動産ノ各部ニ付キ各
自ニ之ヲ爲ス可シ

第七百四條 負債ヲ償フ可キ期限ノ如何ナルヲ問ハズ現金ニテ提供
ヲ爲ス可ク其他ノ方法ニテ之ヲ爲ス可カラス

第七百五條 其提供ノ書面ハ書入質ノ權ヲ記入シタル各債主ノ其記
入ノ文中ニ指定メタル住所ニ送達シ且其書面ニ添ヘテ左ノ諸件ヲ
報告ス可シ

第一 不動産買入ノ契約書但シ其契約書ニハ契約ヲ爲ス者ノ姓名契約シタル代價及ヒ其契約ノ費用並ニ不動産所在ノ地

第二 買入ノ契約書ヲ役所ノ簿冊ニ登記シタル日附及ヒ番號

第三 書入質證書ノ日附及ヒ其證書ヲ記入シタル日附及ヒ債主ノ姓名ヲ記載シタル現存ノ書入質記入ノ目錄

第七百六條 各債主最終ノ提供ノ書面ヲ受取リタル時ヨリ六十日内ニ訴訟法ニ記シタル法式ニ循ヒ書記局ニ糶賣ヲ爲スノ届書ヲ出ササル時ハ其提供ヲ承諾シタルト看做ス可シ

第七百七條 右六十日ノ期限ハ債主ノ眞ノ住所ト其特ニ擇ミ定メシ住所トノ間ノ距離ニ准シ更ニ猶豫ヲ加フヘシ然レモ其猶豫ノ期日ハ六十日ヨリ多カル可カラズ

第七百八條 不動産ノ糶賣ニ付キ各債主ノ管係スル所ハ其得可キ高

ノ償還ニ充テタル其不動産ノ一部ノミニ限ル可シ

第七百九條 糶賣ノ届ヲ爲シタル時ハ書入質ノ記入セシ總テノ債主ノ承諾スルニ非レハ之ヲ止ム可カラズ

第七百十條 一旦届出シタル糶賣ヲ止ムルニハ不動産所在ノ地ノ裁判所ノ書記局ニ其旨ヲ届ク可シ

第七百十一條 債主中何人ニテモ至急吟味掛リ裁判役ニ不動産ノ附託ヲ受クヘキ者ヲ任ス可キ訴ヲ爲シ其者ニ對シテ不動産差押ノ手續ヲ爲ス可シ

第七百十二條 不動産ノ保有者自カラ其附託ヲ受ケント願出ル時ハ之ヲ其者ニ附託ス可シ

第七百十三條 不動産ノ保有者之ヲ抛棄シ又ハ其差押ヲ受クル時ハ嘗テ負債ヲ償ヒ又ハ不動産ヲ抛棄ス可キ催促ヲ受ケシ以來其不動

産ヨリ生シタル總テノ利益ヲ還ス可シ但シ債主其催促ノ効ヲ失フ
タル時ハ格別ナリトシ且三年ノ後ニ至レハ當然其催促ノ効ヲ失フ可シ
第七百十四條 保有者ノ出シタル費用ハ糶賣代價中ニ加フ可シ
第七百十五條 不動産ヲ糶ニテ買入ル、者ハ代價ノ外已ムヲ得サル
費用ヲ其保有者ニ償ヒ且ツ有益ナル費用ヲモ亦不動産ノ増價ニ至
ル迄其保有者ニ償フ可シ

第七百十六條 保有者ハ己レノ所爲又ハ過失ニ因リ其不動産ヲ毀損
シタルノ責ニ任ス可シ

第七百十七條 保有者嘗テ不動産ヲ買入ル、前ニ其不動産ニ付キ有
シタル土地ノ權利及ヒ物權ハ更ニ之ヲ復スヘク又其者ノ嘗テ有シ
タル書入質ノ權モ亦之ヲ復ス可シ然レモ其書入質ノ記入ノ効ヲ失
フコトナク又之ヲ塗抹スルコトナキ時ニ非レハ其書入質ノ權ヲシテ以

前ノ順序ヲ保クシム可カラズ

第七百十八條 若シ糶賣ノ代價書入質ノ記入ヲ爲シタル各債主ニ償
還ス可キ高ニ過クル時ハ保有者ヨリ其不動産ヲ書入質ニ取リタル
債主以前ノ所有者ノ債主ニ次キ其代價ノ餘分ヲ以テ其得ヘキ高ノ
償還ヲ受ク可シ

第七百十九條 不動産ノ保有者代價ヲ出シテ之ヲ買入シタル時其所
有ノ權ヲ奪ハレ又ハ之ヲ拋棄シタルニ於テハ以前ノ所有者ニ對シ
其償ヲ得ルノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ又其保有者ハ如何ナル場合ニ於
テモ名義ノ如何ヲ問ハス其拂出シタル金高ノ償還ヲ負債者ニ要ム
ルノ權アリ

第七百二十條 又不動産ノ保有者之ヲ保ツコトヲ得又ハ糶シテ之ヲ買
入レタル時ハ名義ノ如何ニ問ハス其以前ノ買入契約書ニ定メタル

高ノ外其拂出シタル金高ノ償還ヲ負債者ニ要ムルノ權アリ

第七百二十一條 裁判所ノ命ニテ不動産ヲ糶賣ニ爲シタル時之ヲ買入レシ者ハ後ニ之ヲ拋棄ス可カラス○其者ハ書入質ノ記入ヲ爲シタル各債主ニ其買入代價ヲ拂フ可ク更ニ餘分ヲ拂フコ及ハス但シ訴訟法ニ記シタル糶賣ノ規則ハ格別ナリトス

第三款 先取リノ特權アル債主

第七百二十二條 左ノ諸件ニ付テハ債主先取ノ特權ヲ行フコトヲ得可シ

第一 負債者ノ財産ヲ保全シ及ヒ人ヨリ其財産ヲ取戻ス爲メノ裁判所費用但シ此費用ヲ出シタル者ハ之ノカ爲メ資益ヲ受ル債主ニ先タテ右財産ノ代價ヲ以テ其償還ヲ得ヘシ

第二 財産ノ賣拂又ハ其差押又ハ家資分散ノ前一年間ノ雇人給

料及ヒ六月間ノ工丁又ハ手代ノ給料但シ此給料ハ裁判所費用ニ次キ其償還ヲ得可シ

此先取リノ權ハ負債者ノ動産及ヒ不動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得可シ

第三 本年ノ收納物ニ付テノ費用及ヒ其收納ヲ生シタル種子ニ付テノ費用ハ此順序ニ從ヒ前ニ記シタル二種ノ特權ニ次キ其收納物ノ代價ヲ以テ其償還ヲ得ヘシ
此三種ノ特權ハ之ヲ記入シタルト否トニ管セス之ヲ行フコトヲ得ヘシ

第四 負債者ノ現ニ保有スル農業器具ニ付キ得ヘキ金高但シ其金高ハ裁判所費用及ヒ雇人等ノ給料ニ次キ右器具ノ代價ヲ以テ其償還ヲ得ヘシ

第五 家屋又ハ土地ノ貸賃及ヒ總テ此等ノ名義ヲ以テ貸主ノ得可キ金高但シ此等ノ金高ハ右ニ記スル四種ノ特權ニ次キ賃借シタル家屋ニ備ヘシ總テノ動産又ハ土地ノ賃借人ニ屬スル本年ノ收納物ノ代價ヲ以テ其償還ヲ得可シ但シ其收納物ヲ右賃借シタル土地外ニ貯ヘタル時ト雖モ亦同様ナリトス

第六 負債者ニ物件ヲ賣リタル者ヲ得可キ金高又ハ負債者ノ人ヨリ物件ヲ買入ル、其代價ニ供スル者ヲ日附ノ儘ナル證書ニ別段記入シ負債者ニ金額ヲ貸シタル者ノ得ヘキ金高但シ此等ノ金高ハ賣買シタル動産ニ付テハ商業上ノ規則ヲ除クノ外買主即チ負ノ之レヲ保有スル間其動産ノ代價ヲ以テ其償還ノ特權ヲ得又不動産ニ付テハ賣買ノ證書ヲ法ニ適シテ役所ノ簿冊ニ登記シタル時其不動産ノ代價ヲ以テ其償還ノ特權ヲ得ヘシ

此不動産ニ付テノ特權ハ登記ノ日附ノ順序ニ從フ可シ

第七 旅舎ノ主人ノ得可キ金高但シ此金高ハ旅客ノ荷物ヲ以テ其償還ヲ得ヘシ

第七百二十三條 不動産ヲ共通シテ之ヲ分派スル者ハ其不動産ニ付キ先取リノ特權ヲ有ス可シ但シ其特權ハ別段ノ契約ナシト雖モ書入質役所ノ簿冊ニ之ヲ記入シタルニ因リ其記入ノ順序ニ從テ之ヲ保有ス可シ若シ其不動産ノ分派ニ付キ其共通者中ノ一人ニ損害ヲ生スル時ハ其一人ヨリ之ヲ訴フルヲ得可シ

第七百二十四條 負債者ノ動産ヲ保全スル爲メ裁判所費用ヲ出シタル者ノ權ハ總テ其他ノ債主ニ先ヲ及又其費用ヲ出シタル數人中ニ於テハ其證書ノ日附ニ反對シタル順序ニ從ヒ右動産ノ代價ヲ以テ其償還ヲ得可シ

第七百二十五條 前條ニ記シタル以外ノ動産ニ付テノ特權ハ他ノ律例又ハ特別ナル法律之ヲ規定ス

〇第四款 財産引留ノ權アル債主

第七百二十六條 特別ナル場合ニ於テ法律上ニ定ムル財産引留ノ權ノ外左ノ各人ハ其引留ノ權ヲ有ス可シ

第一 財産ヲ質ニ取リタル先取リノ特權アル債主

第二 財産ヲ良好ニ爲スタメ費用ヲ出シタル者

第三 財産ニ付キ已ムヲ得サル費用又ハ財産ヲ保全スル爲メノ費用ヲ出シタル者

〇第二章 物權ノ證

第七百二十七條 何事ニ限ラス財産所有ノ權及ヒ財産ニ付テノ物權ハ以前ノ所有者ニ對シテハ所有ノ權又ハ物權ヲ移ス契約書ニ因リ

又ハ法律上ニテ此等ノ權ヲ移ス可キ効アリト定ル諸件ノ契約書ニ因リ之ヲ證ス可シ

第七百二十八條 動産ニ付テハ其所有者タルノ名義ヲ以テ正實ニ之ヲ保有スルニ因リ如何ナル人ニ對スルト雖モ其所有ノ權アルノ證ト爲ス可シ

第七百二十九條 現ニ動産ヲ保有スル時ハ其所有者タルノ名義ヲ以テ正實ニ之ヲ保有スルモノト看做ス可シ但シ之ニ反シタル證アル時ハ格別ニシテ又遺失盜奪ノ場合ハ例外ナリトス

第七百三十條 不動産ニ付テハ之ヲ得可キ權アリト述フル者ニ對シ後條ニ記スル左ノ規則ニ循ヒ其物權ノ證ヲ立ツ可シ

第七百三十一條 遺物相續ニ因リ得タル不動産所有ノ權又ハ其不動産ノ分派ハ如何ナル人ニ對スルモ其證書ヲ以テ證ト爲ス可シ

第七百三十二條 書入質ト爲スヲ得可キ不動産所有ノ權又ハ物權ヲ移ス生存中ノ證書ヨリ生スル權利又ハ土地ノ權「ユザーシユ」ノ權「アビタシヤン」ノ權不動産質入ノ權ヲ設ケ定ムル生存中ノ證書ヨリ生スル權利又ハ此數種ノ權ヲ拋棄スル生存中ノ證書ヨリ生スル權利ハ不動産ニ付キ物件ヲ得可シト述フル者ニ對シテハ不動産所在ノ地ノ書入質役所ノ簿冊ニ右ノ證書ヲ登記シタルニ因リ其證アリトス」

第七百三十三條 前條ニ記シタル各種ノ權ヲ確定シ又ハ之ヲ設ケ定ムル裁判言渡書ハ亦之ヲ役所ノ簿冊ニ登記ス可シ

第七百三十四條 不動産糶賣ノ言渡書及ヒ不動産ヲ分派スル證書又ハ言渡書ハ亦前條ニ記スル如ク之ヲ登記ス可シ

第七百三十五條 九年以上ノ不動産貸貸ノ證書及ヒ其貸貸三年分以

上ノ前拂ノ證書ハ不動産ニ付キ物件ヲ得ヘシト述フル者ニ對シ證

ト爲サントスルニハ役所ノ簿冊ニ之ヲ登記ス可シ

第七百三十六條 裁判所費用及ヒ雇人手代工丁ノ給料ヲ除ノ外不動産ニ付キ債主ノ先取リノ特權並ニ不動産書入レ質ノ權ハ後ニ記スルハ法式ヲ以テ亦之ヲ書入質役所ノ簿冊ニ記ス可シ

第七百三十七條 登記又ハ記入ヲ爲ス可キ時若シ之ヲ爲サハルニ於テハ不動産ニ付キ物權ヲ有シ且法律ニ循ヒ其物權ヲ保全シタル者ニ對シテハ前數條ニ記列シタル各種ノ權ノ効ナシト看做ス可シ

第七百三十八條 然レモ不動産ニ付キ物權ヲ有シ且ツ法律ニ循ヒ其物權ヲ保有シタル者ハ九年以上ノ貸貸ノ契約ヲ九年ニ減シ又三年以上前拂金ヲ三年分ニ減シ其餘分ヲ償還セシムルノ權アルノミトス

第七百三十九條 前數條ノ規則外ニ於テ己レノ證書ヲ役所ノ簿冊ニ

登記セシ生存中ノ贈遺ヲ受ケタル者又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル者
ハ其登記ヲ爲ス前ニ日附ノ儘ナル證書ニ因リ書入質ト爲ス可キ
不動産所有ノ權ヲ代價ヲ出シテ買入レタル者又ハ「ユザージ」或ハ「ア
ゼンチン」ノ權ノ入額所得ノ權ヲ代價ヲ出シテ買入レタル者ニ對シ
其賣買證書ヲ役所ノ簿冊ニ登記セサル旨ヲ述ヘ其者ノ權利ニ抗拒
ス可カラス

第七百四十條 又右ノ贈遺ヲ受ケタル者ヨリ代價ヲ出シテ其權ヲ買
入レタル者自カラ其證書ヲ役所ノ簿冊ニ登記シ又ハ其特權ヲ其簿
冊ニ記入シタルニ於テハ前條ニ記シタル買入人ノ權利ニ抗拒スル
ヲ得ヘシ

第七百四十一條 所有者數人ニ引續ヒテ其所有ノ權ヲ移ス契約書數
通アル時ハ其中最終ノ契約書ノミチ登記スルヲ以テ足レリトス

第七百四十二條 物件ノ賣主ハ其賣買ノ證書ヲ簿冊ニ登記スル前ニ
其買主又ハ其代權人ヨリ得タル物權ヲ法ニ適シテ公ケニ爲シタル
者ニ對シ其賣買ノ契約ヲ解除ス可キ權アル旨ヲ述ヘ其者ノ權利ニ
抗拒ス可カラス

第七百四十三條 物件ノ賣主ハ其保有者ノ家資分散公告ノ裁判言渡
アル前ニ其賣買ノ契約ヲ解除ス可キ權アル旨ヲ役所ノ簿冊ニ登記
セサル時ハ其權ヲ失フ可シ

第七百四十四條 此章ノ規則ハ新ナル裁判所ヲ設ケタル後ニ非サレ
ハ之ヲ適用ス可カラス

○第三章 不動産書入質ノ書記局

第七百四十五條 各裁判所ノ書記局ニ於テ各紙面毎ニ裁判役ノ記號
ヲ記シ及ヒ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫シタル簿冊ヲ設ケ置キ

書記官其順序ノ番號ヲ定メテ此篇ニ記スル如ク此簿冊ニ登記及ヒ記入ヲ爲ス可シ

第七百四十六條 又書記官ハ前條ニ記スル如ク記號ヲ附シ及ヒ横線

ヲ畫シタル簿冊ヲ設ケ置キ登記及ヒ記入ノ證書又ハ目錄ヲ其受取

リタル順序ニ從ヒ其簿冊ニ記ス可シ

第七百四十七條 其簿冊ハ毎日之ヲ修整ス可シ

第七百四十八條 其簿冊ニ記スル順序ノ番號ハ第七百四十五條ニ記

スル所ト同一ナル可シ

第七百四十九條 登記又ハ記入ニハ證書又ハ目錄ヲ受取リタル日附

ヲ附記ス可シ

第七百五十條 登記又ハ記入ハ證書又ハ目錄ヲ受取リタルヨリ遅ク

モ八日內ニ之ヲ爲ス可シ

第七百五十一條 裁判所ニ於テハ其時ノ都合ニ因リ奇數ノ日ト偶數

ノ日トニ登記又ハ記入ヲ爲ス簿冊二箇又ハ數箇ヲ設クルヲ許ス

ヲ得ヘシ

第七百五十二條 登記ヲ爲スタメノ證書又ハ記入ヲ爲スタメノ書入

質ノ目錄ヲ受取リタル時其差出人ニ與フ可キ受取書ニハ簿冊ノ番

號ト之ヲ受取リタル日時トヲ記ス可シ

第七百五十三條 證書ヲ受取リタルノ記載及ヒ登記或ハ記入ヲ爲ス

ニハ剃白塗抹書入摩削等ヲ爲ス可カラズ○若シ端書ノ符號又ハ塗

抹シタル文字アル時ハ裁判官其日ニ之ヲ允諾シ本人ヨリ差出シタ

ル證書ト照合セシ後允諾ノ文ニ其日附ヲ附記ス可シ

第七百五十四條 法律上ニ書記官其公務ヲ以テ自カラ登記人ノ記入

ヲ爲ス可キヲ定メタル時ノ外ハ本人ノ願ニ因テ其登記又ハ記入

ヲ爲ス可シ

第七百五十五條 登記トハ證書中財産所有ノ權ヲ移スニ管シタル部
分ノ文面ヲ記スルヲ云フ

第七百五十六條 本人ノ差出シタル證書ニハ其登記ノ旨ト其登記ノ

日附其番號及ヒ簿冊ノ紙面ノ番號ヲ附記シテ之ヲ本人ニ還ス可シ

第七百五十七條 記入トハ第六百八十七條ニ記シタル諸件ヲ記列セ

シ本人ノ差出セシ目錄ノ文面ヲ記スルヲ云フ

第七百五十八條 本人ノ差出シタル目錄ニハ之ヲ記入シタル旨ト其

記入ノ日附其番號及ヒ簿冊ノ紙面ノ番號トヲ附記シテ之ヲ本人ニ

還ス可シ

第七百五十九條 書記官ハ登記及ヒ記入ノ旨ヲ附記シタル所ニ其姓

名ヲ手署ス可シ

第七百六十條 書記官ハ帳簿二冊ヲ設ケ置キ其一冊ニハ「アベセ」ノ順

序ヲ以テ所有ノ權ヲ移セシ以前ノ所有者ノ姓名及ヒ不動産ヲ書入

質ニ爲シタル負債者ノ姓名ヲ記列ス可シ又一冊ニハ「アベセ」ノ順序

ヲ以テ登記ノミヲ記列ス可シ

第七百六十一條 登記ノミヲ記スル帳簿ニハ登記ス可キ證書ニ指示

シタル以前ノ所有者ノ姓名ヲ附記ス可シ但シ既ニ一旦其所有ノ權

ヲ移セシ旨ヲ登記セシ以前ノ所有者ノ姓名ハ更ニ之ヲ附記スルニ

及ハス

第七百六十二條 書記官ハ願人ノ求ニ從ヒ記入及ヒ登記ノ總目錄又

ハ別個ノ目錄ニ據リ其登記シタル證書ノ寫又ハ現存スル記入文面

ノ寫ヲ渡シ或ハ其登記及ヒ記入ノアラサル旨ヲ記スル受合書ヲ渡

ス可シ

第七百六十三條 又書記官ハ願人ノ求メニ從ヒ帳簿ノ寫ヲ渡ス可シ
第七百六十四條 書記官ハ若シ己ノ過失又ハ其指令スル者ノ過失
ニ因リ文字ヲ脱落シ又ハ誤謬シテ之カ爲メ本人ノ損害ヲ生スルコ
於テハ之ヲ償フ可キノ責ニ任ス可シ

第七百六十五條 若シ債主書記官ヨリ受取リタル誤謬アル受合書ノ
爲メ其權ヲ失ヒ又ハ其誤謬アル受合書ニ據リ買入ノ契約ヲ爲シタ
ル者之カ爲メ損害ヲ受ケタル時ハ其書記官ニ對シテ訴テ爲ス可
得ヘシ

第七百六十六條 書記官ハ其公務ヲ以テ不動産糶賣ノ裁判言渡書ヲ
登記ス可シ若シ之ヲ登記セサル時ハ五百[ピヤストル]ノ罰金ヲ言渡
サル可シ

第七百六十七條 其登記ノ費用ハ糶ニテ買入レタル者之ヲ負擔ス可

シ

第七百六十八條 書記官ハ其公務ヲ以テ記入及ヒ登記ノ端ニ其登記
シタル證書ヲ取消シ又ハ其證書ノ義務ヲ解除スル裁判言渡書ヲ附
記シ其此法律ノ適用スル前ニ日附ノ儘カニシテ未タ登記セサル所
有ノ權ヲ移ス證書ニ付テノ裁判言渡書ヲ登記ス可シ若シ之ヲ登記
セサル時ハ五百[ピヤストル]ノ罰金ヲ言渡サル可シ

第七百六十九條 第七百六十六條及ヒ第七百六十八條ノ場合ニ於テ
ハ書記官此二條ニ掲クル附記及ヒ登記ヲ求ムルノ權アリテ之ヲ求
メサル者ニ對シ償ヲ爲ス可キノ責ニ任スルコトナシ

及海上商法草案

○第一章 船舶ノ事

第一條 何人ニ限ラス土耳其國臣民ニ非サレハ土耳其ノ旗章ヲ立ツル船舶ノ全部又ハ一部ノ持主トナル可カラス又右船舶ニ因テ資益ヲ得ル爲メ取結ヒタル會社中ニ加ハル可カラス

第二條 土耳其國臣民ハ外國船ノ所有ノ權ヲ得テ之ニ土耳其ノ旗章ヲ立テ本國船ト同シキ約束ニテ航海ヲ爲サシムルヲ得ヘシ然レモ其外國船買入ノ契約書ニ外國人ヲ資益スル爲メ前條ノ規則ニ背キシ箇條ヲ記ス可カラス若シ此規則ニ背ク時ハ其船ヲ官ニ沒收ス可シ

三六二

第三條 船ノ全部又ハ一部ノ隨意ノ賣拂ハ航海前ト航海中トヲ問ハス土耳其帝國内タルハ商法裁判所又ハ商業統括局ニ於テ公正ノ証

シヤンセルリ、コムメルシヤ

書ヲ記シ之ヲ爲シ又外國タルハ土耳其領事官ノ面前ニ於テ公正ノ
 證書ヲ記シ之ヲ爲スヘシ○若シ土耳其帝國內右船賣拂ノ地ニ商法
 裁判所又ハ商業統括局ノアラサル時ハ其地ノ鎮台ノ面前ニ於テ右
 賣拂ノ契約書ヲ記シ最近ノ商法裁判所又ハ商業統括局ニ其旨ヲ報
 告ス可ク又外國中土耳其領事官ノ在ラサル地ニ於テハ其地ノ相當
 ナル官吏ノ面前ニ於テ右賣拂ノ契約書ヲ記シ最近ノ土耳其領事官
 ニ其旨ヲ報告スヘシ

第四條 船舶ハ固ト動産ナリト雖モ債主ハ不動産ト同シク負債者ニ
 リ之ヲ買入レタル者ニ對シ其船舶ヲ差押ユルヲ得ヘシ故ニ船舶
 ニ付テノ負債者其船舶ヲ賣拂フタル時ハ債主其買入人ニ對シ之ヲ
 差押ヘ其債ノ償還ヲ得ル爲メ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ○右ノ道理ニ
 由リ其船舶ハ賣主負債ノ抵當品ニシテ殊ニ法律上ニテ特權アリト

定メシ債ノ抵當品ナリトス

第五條 左ニ記列スル諸件ハ其記列ノ順序ニ從ヒ海船ニ付テノ債主
 ノ特權ナリトス

- 第一 船ヲ抵償トシテ差押ヘ之ヲ賣拂フテ其代金ヲ分派スルニ
 付テノ裁判所費用及ヒ其他ノ費用
- 第二 水先案内税、噸税、波戶場税、碇泊税、繫リ場税
- 第三 船ノ港内ニ入リタル時ヨリ抵償トシテ之ヲ賣拂フ時ニ至
 ル迄其船ヲ預カリシ者ノ謝金及ヒ之ヲ預カルニ付テノ費用
- 第四 船ニ備ヘタル諸器具ヲ藏ムル倉庫ノ賃賃
- 第五 最終ノ航海以來及ヒ港内ニ入リタル以來其船ヲ修復シ又
 ハ其器具ヲ修復スルニ付テノ費用
- 第六 最終ノ航海中^{カゼイン}使用セラレシ船長及ヒ乗組人^{エキパイ}ノ給料、雇賃

第七 最終ノ航海中船ノ入用ノ爲メ船長ニ貸シタル金高并ニ其入用ノ爲メ船長ノ其積荷ヲ賣リタル代金ノ取戻

第八 船ノ賣主船ニ具フル諸品ヲ供給シタル者船ノ造立ニ使用ヲ受ケシ工丁ノ得ヘキ金高但シ此レ其船ノ未タ航海ヲ爲サハル時ニ限ルヘシ航海ヲ爲シタル後船ノ出帆前食料及ヒ器具ヲ供給シ又ハ其出帆前修復ヲ爲セシ者其船ノ歸着後ニ得ントスル代金又ハ雇賃

第九 船ノ出帆前其修復ノ爲メ又ハ食料及ヒ器具ヲ備フル爲メ其船并ニ其器具ヲ抵當トシテ貸シタル金高第四百九條以下見合

第十 最終ノ航海中船并ニ諸器具及ヒ附屬品ニ付テノ海上受合ノ利金第七十三條以下見合

第十一 船ノ借主即チ船ヲ借リテ荷物ノ積入レタル商品ヲ先方積込ム人ヲ云フ

ニ引渡ス可キニ之ヲ渡サ、ルニ付キ其借主ノ得ヘキ償高又ハ船長及ヒ乗組人ノ過失ニ因リ其商品ニ損害ヲ加ヘタルニ付キ其借主得可キ償高

此條ノ毎項ニ記スル債主數人ハ皆互ニ同一ノ特權ヲ有シ船ノ賣拂金高不足ナル時ハ各々其得ヘキ高ノ割合ヲ以テ平等ニ其償還ヲ得ヘシ

第六條 前條ニ記シタル諸件ニ付キ得ル所ノ債主ノ特權ハ左ノ方法ニ因リ其證アル時ニ非サレハ之ヲ行フ可カラス

第一 裁判所費用ハ掛リ裁判所ニテ許可シタル費用目錄ヲ以テ之ヲ證ス可シ

第二 噸稅及ヒ其他ノ稅ハ稅官ノ眞正ナル受取書ヲ以テ證ス可シ

- 第三 前條ノ第一第二第三第四第五ニ記シタル權利ハ商法裁判所長ノ許可シタル目錄ヲ以テ證ス可シ
- 第四 乗組人ノ給料及ヒ雇賃ハ港役所ニテ許可シタル艤裝帳及ヒ船具整理帳ヲ以テ證ス可シ若シ港役所ノアラサル時ハ商業統括局ニテ許可シタル右等ノ帳面ヲ以テ證ス可シ
- 第五 最終ノ航海中船ノ入用ノ爲メ船長ノ借入レシ金高并ニ賣拂ヒシ積荷ノ代金ハ船長ト乗組人中重立チタル者トニテ記セシ目錄ヲ以テ證ス可シ但シ其目錄ニハ其借入又ハ賣拂ヲ爲シタル事ノ船ノ爲メニ必要タル旨ヲ記スヘシ
- 第六 船ノ全部又ハ一部ノ賣拂代金ハ第三條ニ記スル公正ノ證書ヲ以テ證ス可シ又船ヲ造立スル財料食料器具ヲ供給シタル代金ハ船長ノ檢印ヲ爲シ該船持主ノ承諾シタル記念書又ハ勘

- 定書又ハ目錄ヲ以テ證ス可シ但シ船ノ出帆前又ハ遅クモ出帆ヨリ十日内ニ其記念書又ハ勘定書又ハ目錄ノ寫ヲ商法裁判所ノ書記局又ハ商業統括局ノ書記局ニ差出ス可シ
- 第七 船ノ出帆前船并ニ諸器具及ヒ附屬品ヲ抵當トシテ貸シタル金高ハ公正ノ契約書又ハ私ノ契約書ヲ以テ證ス可シ但シ其契約書ヲ記シタルヨリ十日内ニ其寫ヲ商法裁判所ノ書記局又ハ商業統括局ノ書記局ニ差出スヘシ
- 第八 海上受合ノ利金ハ受合ハ契約書又ハ受合會社ノ法ニ適シタル帳面ノ寫ヲ以テ證ス可シ
- 第九 船ノ借主ノ得ヘキ償高ハ商法裁判所ノ裁判官渡書ヲ以テ之ヲ證シ又雙方本人判斷人ノ判斷ヲ受ク可キヲ承諾シタル時ハ其判斷官渡書ヲ以テ之ヲ證ス可シ

第七條 債主ノ特權ハ契約上ノ權利ノ消散スル通常ノ方法ノ外更ニ

左ノ諸件ニ因リ消散ス可シ

第二章ニ記シタル法式ヲ以テ裁判手續ヲ經タル上船ヲ抵償トシ
テ賣拂フ時債主ノ出テ來ラサル事

船ノ持主隨意ニテ船ヲ賣拂フタル後其債主故障ヲ述フルコトナク
買主ノ名前ニテ其船航海ヲ爲シタル事

右ノ場合ニ於テ債主法式ニ循ヒ故障ヲ述フル時ハ其故障ヲ述ヘ
シ本人ノミノ資益トナル可シ

第八條 船ハ左ノ場合ニ於テ航海ヲ爲シタルト看做ス可シ

此港ヲ出帆セシ證アリテヨリ三十日ノ後ニ至リ彼港ニ到着シタ
ル證アル時

此港ヲ出帆シ彼港ニ至ラスト雖モ六十日以上ノ時間ヲ經タル後

以前ノ港ニ歸リ來リシ時又ハ遠路ノ航海ノ爲メ出帆シ既ニ六十
日以上ノ時間ヲ經テ猶積主ヨリ訴へ出ルコトナキ時

第九條 航海中賣主ノ隨意ヲ以テ船ヲ賣拂フト雖モ之カ爲メ賣主ノ
債主ノ權ヲ害スルコトナカル可シ○故ニ船ヲ賣ルト雖モ其船又ハ其
代金ハ猶賣主ノ債主ノ質物ト看做シ若シ其債主訴訟ヲ爲スナキ相當
ナリト思料スル時ハ詐偽ヲ以テ原由ト爲シ其賣拂ヲ取消サント訴
フルコトヲ得ヘシ

○第二章 船ヲ抵償トシテ差押ヘ之ヲ賣拂フ事

第十條 總テ海船ハ裁判所ノ言渡ニ因リ之ヲ差押ヘテ賣拂フコトヲ得
ヘシ又其船ニ付キ債主ノ特權ヲ解除スル方法ハ後ニ記スル所ノ如
クタル可シ

第十一條 債主負債者ニ要決ノ書ヲ送リシヨリ二十四時ノ後ニ非サ

カレハ其船ノ差押ニ取掛ル可カラス

第十二條 債主負債者ノ船ニ管スル特權ヲ得ントスルニ非スレテ他ノ權利ヲ得ントスル時ハ其要決ノ書ヲ負債者又ハ其住所ニ送ル可

又第五條ニ循ヒ船ニ管スル特權ヲ得ヘキ權利ヲ得ントスル時ハ其要決ノ書ヲ船長ニ送ルコトヲ得ヘシ

第十三條 使吏ハ證人二名ノ立會ヲ得テ船中ニ赴キ差押ノ調書ヲ記ス可シ

其調書ニハ左件ヲ記ス可シ

債主ノ姓名、職業、住所

債主ノ證書

償還ヲ訴フル金高

船ノ差押ヲ訴フル裁判所々在ノ地及ヒ其船ノ碇泊スル地ニ債主ノ擇ミタル住所

船ノ持主即チ負債者及ヒ船長ノ姓名

船ノ名號、種類、噸數

又其調書ニハ船ニ屬スル小艇、器具、兵器、彈藥、食料ノ大略ヲ記ス可シ

又其調書ニハ船ノ預リ人ヲ設ケタル旨ヲ記ス可シ

第十四條 船ノ持主其差押ヲ受ケシ地ノ裁判所々在ノ府邑内ニ住スル時ハ債主其差押ヲ爲シタルヨリ三日内ニ差押調書ノ寫ヲ其持主ニ送達シ且船ノ賣拂手續ニ際シ立會ヲ爲サシムル爲メ之ヲ裁判所ニ呼出ス可シ○若シ船ノ持主更ニ遠キ場所ニ住スル時ハ其持主ノ爲メ船長ニ其調書ノ寫及ヒ呼出狀ヲ送達シ又船長ノアラサル時ハ持主ノ名代人又ハ船長ノ名代人ニ之ヲ送達ス可シ但シ此場合ニ於

テ持主ヲ呼出ス可キ期限ハ持主帝國ノ領地内ニ住スル時ハ通常ノ時間ノ外裁判所ヨリ其住所ニ至ル距離ニ准セシ猶豫ヲ加ヘ又其持主帝國外ニ住スル時ハ其場所ニ從ヒ訴訟法ニ定メシ猶豫ヲ加フ可シ

第十五條 右船ノ糶賣ハ執行ノ文詞ヲ記シタル證書ニ據リ商法裁判所長ノ任シタル掛リ裁判役ノ面前ニ於テ之ヲ爲ス可シ但シ其糶賣ヲ爲スコハ呼上并ニ公布及ヒ貼附ヲ爲シタル上ニテ後ノ數條ニ記スル如ク處置ス可シ

第十六條 十噸(即チ一萬キログラム)以上ノ船ヲ差押ユル時ハ賣拂フ可キ諸件ノ目錄ヲ三次喚讀シ之ヲ公ケニ爲ス可シ
其喚讀及ヒ公布ハ港ノ近傍ノ地ト船ノ碇泊場ノ著ルキ場所ト裁判所ノ官渡書ニ指定メシ場所トニ於テ八日ヲ隔テ之ヲ爲ス可シ

又其賣拂ノ旨ハ差押ノ訴ヲ爲ス裁判所々在ノ地ニテ出版スル新聞紙ニ之ヲ掲載ス可シ若シ其地ニテ出版スル新聞紙ノアラサル時ハ其近傍ノ地ニテ出版スル新聞紙ニ之ヲ掲載ス可シ

第十七條 喚讀シテ之ヲ公ケニ爲ス時ヨリ二日内ニ之ヲ左ノ場所ニ貼附ス可シ

船ノ大櫓

裁判所ニ在ル公布ノ懸帖

碇泊場ノ著ルシキ場所及ヒ波戶場

商人集會場若シ其集會場アラサレハ地方官廳ノ門
ブルス、ド、コム、ムス

第十八條 喚讀ノ書付、公布書、貼附書ニハ左件ヲ記ス可シ

差押ノ手續ヲ爲ス債主ノ姓名、職業、住居

其債主ノ有スル證書

其債主ノ得ヘキ金高

其債主裁判所々在ノ地ニ擇ミタル住所及ヒ船ノ碇泊場ニ擇ミタル住所

船ノ持主即チ債者ノ姓名住所

船ノ名又既ニ船ヲ艦装シ又ハ艦装セントスル時ハ船長ノ姓名、

噸數

繫リ場又ハ碇泊場

掛リ裁判官及ヒ差押ヲ爲シタル使吏ノ姓名

債主ノ附直段

糶賣ヲ爲ス可キ裁判席ノ期日

第十九條 掛リ裁判官ハ最初喚讀ヲ爲シタル後貼附書ニ記スル期日ニ糶賣ヲ爲ス可シ○其後掛リ裁判官ハ喚讀ヲ爲シタル度毎ニ別段

其言渡書ニ定メタル八日ヲ隔テシ期日ニ至リ更ニ糶賣ヲ爲ス可シ

第二十條 第三次ノ喚讀ノ後蠟燭ノ燃ヘ盡キタル時最モ高價ヲ附ケ

シ者ニ賣渡ス可シ○然レモ掛リ裁判官ハ更ニ其價ヲ貴カラシムル爲メ更ニ八日ノ間糶賣ヲ延ハシ又ハ其上猶八日ノ間糶賣ヲ延ハス

トナ許ルヌヲ得ヘシ但シ其糶賣ノ期日ヲ延ハシタルトハ之ヲ公布シテ且之ヲ貼附ス可シ○然レモ右ノ如ク糶賣ノ期日ヲ延ハスト雖

モ更ニ高價ヲ附クル者アラサル時ハ最終ノ高價ヲ附ケタル者ヲ其買主ト定ム可シ

第二十一條 十噸以下ノ船ヲ差押ヘタル時ハ前數條ニ記シタル法式

ヲ行フニ及ハス波戸場ニ於テ三日ノ間引續テ三次喚讀ヲ爲シ且檣

上ニ貼附ヲ爲シ又檣ノアラサル時ハ其他船中ノ著ルシキ場所ニ貼

附ヲ爲シ并ニ裁判所ニ在ル公布ノ懸帖ニ貼附シタル上ニテ裁判所

ニ於テ糶賣ヲ爲ス可シ○差押調書ノ寫ヲ送達シタルヨリ糶賣ヲ爲スニ至ル迄八日ヲ隔ツ可シ

第二十二條 船ヲ糶賣ニ爲シタル上ハ船長ノ職ヲ止ム可シ但シ船長ハ其持主、持主ノ保證人及ヒ其他ノ義務ヲ負フタル者ニ對シ損失ノ償ヲ得ント訴フルヲ得ヘシ

第二十三條 噸數ノ多少ヲ問ハス總テ糶賣ニテ船ヲ買入レタル者ハ二十四時内ニ其代金ノ三分一ヲ拂ヒ然ラサレハ其三分一ヲ裁所判ノ銀篋ニ納メ且埃及國內ニ住所アル己レノ義務ヲ盡クヌヲ得ヘキ保證人ヲ立テ、其餘ノ三分二ヲ保證シ其保證人ハ買入人ト共ニ契約書ニ姓名ヲ手署ス可シ但シ買入人ト其保證人トハ買入ノ日ヨリ十一日内ニ右代金ノ三分二ヲ拂フ可キノ義務ヲ連帶シテ負フ可シ右買入人代金ノ三分一ヲ拂ヒ且ツ保證人ヲ立テタル上ニ非サレハ

船ヲ其買入人ニ渡ス可カラヌ又糶賣ノ調書ハ買入人定期内ニ其餘ノ三分二ヲ拂フタル上ニ非サレハ之ヲ買入人ニ渡ス可カラヌ買入人代金ノ初メノ三分一ヲ拂ハス又ハ其餘ノ三分二ヲ拂ハス又ハ保證人ヲ立テサル時ハ更ニ一次ノ喚讀及ヒ貼附ヲ爲シ其日ヨリ三日ノ後ニ買入人ト保證人トノ引受ニテ更ニ糶賣ヲ爲ス可シ保證立テ代金ヲ全ク拂フ但シ其買入人及ヒ保證人ハ再度ノ糶賣ノ附直段ハサル場合ヲ云フ以前ノ附直段ニ足ラサル高ヲ連帶シテ償フ可キ義務ヲ負ヒ又既ニ拂フタル代金ノ三分一ニテ債主ノ損失高及ヒ裁判費用ヲ償フニ足ラサル時ハ此等ノ高ヲ償フ可キ義務ヲ負フ可シ若シ再度ノ糶賣ヲ爲シタル上ニテ右債主ノ損失高及ヒ裁判費用高ヲ償フニ餘リアル時ハ其餘分ヲ以前ノ買入人ニ還ス可シ

第二十四條 船ト其附屬品ト持主ノ異ナル時其附屬品ノ持主船ノ賣

渡前ニ附屬品ヲ船ト分別ス可キ訴訟狀及ヒ其他總テ附帶ノ訴訟狀
ハ裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

若シ船及ヒ其附屬品ヲ既ニ糶賣ニ爲シタル後ニ同上ノ訴訟ヲ爲ス
時ハ其附屬品ノ持主糶賣代金ノ一部ヲ買主ヨリ賣主ニ渡スニ付キ
故障ヲ述フルヲ得ヘシ

第二十五條 原告人 即チ附屬品ノ 持主ヲ云フ

被告 人 即チ差押ヲ爲ハ三日内ニ其憑據ニ付キ故障ヲ申述フ可シ

然ル上ニテ一方本人ヨリ相手方ニ招狀ヲ送リテ裁判ヲ受ク可シ

第二十六條 船ノ賣渡ヨリ三日ノ間ハ差押ヲ爲シタル以外ノ債主船
代金ノ一部ヲ己レニ得ント訴出ルヲ得ヘシ其三日ノ期限ノ後ニ
至テハ差押ヲ爲シタル債主ノ得可キ金高ノ餘額アルニ非サレハ右
ノ訴ヲ爲スヲ許ルサス

第二十七條 前條ニ記シタル訴ヲ爲ス債主ハ差押ヲ爲ス債主又ハ負

債者或ハ其名代人ヨリ其證書ヲ出ス可キヲ要ムル書面ヲ受取リ

シ後三日内ニ其證書ヲ裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ若シ三日内ニ

其證書ヲ出サレ時ハ其訴ヲ爲シタル債主ヲ參加セシムルヲナシ

其代金ヲ分派ス可シ

第二十八條 特權アル債主數人ニ代金ヲ分派スル順序ハ第三條ニ記

シタル所ニ循フ可シ又其他ノ債主ハ其得ヘキ高ノ割合ヲ以テ平等

ニ其分派ヲ得ヘシ

〇特權アル債主ハ各其順序ニ從ヒ元金、利金費用
高等ノ債ヲ得ヘシ

第二十九條 出帆ノ用意ヲ爲ス船ハ其航海ヲ爲サントスルニ付キ負

フタル債ノ爲メニ非サレハ差押ヲ受クルヲナカルヘシ但シ其債ノ

爲メト雖モ之ヲ拂フ可キノ保證ヲ立ツル時ハ其差押ヲ免ル可シ

船長既ニ航海ノ爲メ必要ナル書類ヲ受取リタル時ハ出帆ノ用意ヲ爲シタルト看做ス可シ

○第三章 船ノ持主ノ事

第三十條 總テ船ノ持主ハ船長ノ所爲ヲ己レニ擔當シ且其船又ハ其艤裝ノ爲メ船長ノ結ヒタル契約ノ義務ヲ執行フ可シ

船ノ持主ハ如何ナル場合ニ於テモ船ト船賃トヲ拋棄スルニ因リ其義務ヲ免ル、コトヲ得ヘシ但シ特ニ其持主ノ命ニテ其義務ヲ契約シタル時ハ格別ナリトス○然レモ持主船長ノ職ヲ兼有シタル時ハ船ト船賃トノ拋棄ニ因リ其義務ヲ免ル、コトヲ得ス

又船ノ持主數人アリテ其中ノ一人船長ノ職ヲ兼有シタル時ハ船及ヒ其艤裝ノ爲メ負フタル債ノ償ヲ其分前船ノ中ニテ幾分ヲ所ノ割有スル分前ヲ云フ合テ以テ擔當ス可シ

第三十一條 政府ノ允許ヲ得テ戰闘ノ爲メ艤裝シタル船ノ持主ハ其船中ニ在ル士卒又ハ乗組人ノ海上ニ於テ爲シタル暴行及ヒ罪犯ノ償ニ付キ其嘗テ立テタル保證ノ高ニ至ル迄ノ外義務ヲ擔當スルニ及ハス但シ持主自カラ其暴行及ヒ罪犯ニ加ハリタル時ハ格別ナリトス

右保證高ハ士官伍隊及ヒ兵士ヲ合算シテ乗組人ノ員數五十名以下ナル船ニ付テハ二十萬「ピアストル」タル可ク其他ノ船ニ付テハ四十萬「ピアストル」タル可シ

第三十二條 船ノ持主ハ何時ニテモ船長ニ暇ヲ與フルコトヲ得ヘシ但シ契約書ニ其權ヲ行フ可カラサル旨ヲ記スル時ト雖モ亦之ト同シ○暇トナリタル船長ハ別段ノ契約書アルニ非サレハ持主ヨリ償ヲ得ルノ權ナシ然レモ其雇入レラレタル以外ノ國ニ於テ暇トナリタ

ル時ハ其販國ノ旅費ヲ得ルノ權アリ○裁判所ニ於テ何時ニテ契約書ニ記シタル價高ヲ其理ナシトシテ減セシムルコトヲ得ヘシ

第三十三條 若シ暇ヲ得タル船長船ノ持主中ノ一人タル時ハ其所有ノ權ヲ棄テ其分前ノ金高ヲ他ノ持主ヨリ受取ラント要ムルコトヲ得ヘシ○其分前高ハ持主ト船長ト協議ノ上指定メタル評價人又其協議セサル時ハ裁判所ヨリ任シタル評價人之ヲ定ム可シ

第三十四條 總テ船ノ持主全員ニ管シタル處置ニ付キ其全員皆協議セサル時ハ其中多數ノ說ニ循フ可シ

其多數トハ人員ノ多數ニ管セス持主ノ分前高ノ多數ニ管スルモノトス

船ヲ糶賣ニ爲サントスルニハ總分前高ノ半ハ以上ヲ有スル持主等ヨリ之ヲ訴フ可シ然ラサレハ其糶賣ノ訴ヲ許サス但シ之ニ反シタ

ル契約アル時ハ格別ナリトス

○第四章 船長ノ事

第三十五條 總テ船ヲ指揮スル船長ハ其職務ヲ行フニ當リ爲シタル些少ノ過失ト雖モ其責ニ任シ之ヨリ生シタル損害ヲ償フ可シ

第三十六條 船ハ其托セラレタル動産及ヒ商品ヲ己ニ擔當ス可シ○船長ハ其動産及ヒ商品ヲ認ムル書面ヲ差出ス可シ但シ此書面ヲ

名ケテ積荷目錄ト云フ

第三十七條 氷夫及ヒ乗組人ヲ擇ムハ船長ノ職務ナリトス但シ船ノ持主ノ住居ノ地ニ於テ此事ヲ爲ス時ハ船長此事ニ付キ其持主ト相談ス可シ

第三十八條 船長ハ商法裁判所ノ裁判役又ハ商業統括局ノ官吏又ハ鎮台附官吏ノ番號ヲ附シ且ツ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫セシ

船日記ト稱スル簿冊ヲ船中ニ設ケ置ク可シ但シ其簿冊ハ之ヲ記シ終リタル後裁判所ノ長又ハ商業統括局ノ長又ハ鎮臺之ヲ檢視シテ許可ス可シ○右簿冊ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 天氣及ヒ風ノ毎日ノ模様

第二 船ノ毎日ノ進行又ハ遅延

第三 船ノ毎日ノ在ル所ノ經緯度

第四 船及ヒ商品ノ受ケタル損害及ヒ其理由

第五 偶然ノ事ニテ失フタル諸品及ヒ切斷シ或ハ拋棄シタル諸品ノ目錄

第六 航路并ニ船長ノ意ニ因リ或ハ已ムヲ得サル事アリテ航線ヲ變シタル理由

第七 航海中船長ノ「チフイシエ」船中ニテ役者及ヒ乗組人ト商議

シテ爲シタル諸般ノ決定

第八 「チフイシエ」及ヒ乗組人ニ暇ヲ與ヘタル事及ヒ其理由

第九 船及ヒ積荷ニ管スル受取高及ヒ費用高并ニ其他總テ船及ヒ積荷ニ管シタル諸件又ハ總テ算還ヲ爲シ或ハ訴訟ヲ爲スノ理由タル諸件

第三十九條 船長ハ右ノ簿冊ノ外船又ハ積荷ヲ抵當トシテ金高ヲ借入レタルヲ詳細ニ記入ス可キ一箇ノ簿冊ヲ船中ニ設ケ置ク可シ但シ其簿冊ヲ作ルニ付テノ式ハ前條ニ記スル所ト同シ

第四十條 船長ハ積荷ヲ積込ム前ニ其船ニ航海ノ爲メ必要ノ諸件ヲ備ヘタルヤ且其船航海ヲ爲スニ適スルヤ否ヲ取調ヘシムル爲メ商

法裁判所ヨリ特ニ任シタル鑒定人又ハ商業統括局ヨリ特ニ任シタル鑒定人又ハ鎮臺ノ特ニ任シタル鑒定人ヲシテ其船ヲ檢視セシム

可シ〇其檢視ノ調書ハ商法裁判所又ハ商業統括局又ハ鎮臺ノ書記局ニ之ヲ納ム可シ但シ其調書ノ寫一通ヲ船長ニ渡シ置ク可シ航長ハ檢視ノ調書ヲ納メタル上ニ非サレハ荷物ヲ積入ル可カラス但シ荷主其檢視ヲ拋棄シタル時ト雖モ亦同シ

第四十一條 船長ハ左ノ書類ヲ船中ニ備ヘ置ク可シ

第一 船所有ノ證書又ハ其公正ナル寫

第二 土耳其所轄ノ船タルノ證書即チ土耳其ノ旗章ヲ立ツ可キ

「チ證書スルベラット」證書

第三 乗組人姓名簿

第四 積荷目錄及ヒ船借入證書即チ船賃證書

第五 積荷ノ模様書

第六 稅銀ヲ納メタルニ付キ稅關ノ受取書又ハ稅銀ヲ納ム可キ

ノ保證ヲ立テタルニ付キ稅關之ヲ承諾シタルノ證書

第七 海上路票

第八 健康證書

第九 海上商法書一本

第四十二條 船長ハ航海ヲ初メタル時ヨリ其港内ニ着船スルニ至ル迄常ニ自カラ其船中ニ在ル可シ〇船長嘗テ自カラ碇泊シタルトナシ又其乗組人モ嘗テ碇泊シタルトナキ港ニ着船シテ其處ニ港ノ案内ヲ知ル水先案内人アル時ハ船ノ費用ニテ其水先案内人ヲ雇フ可シ

第四十三條 船長前五條ノ規則ニ背キ船主又ハ荷主ノ爲メ損害ヲ生

スルコトアル時ハ自カラ其責ニ任ス可シ

第四十四條 船長ハ荷主承諾ノ書面ヲ得ルコトナシ甲板上ニ荷物上ニ

荷物ヲ置キ之ニ因リ其荷物ニ損害ノ生ヅタル時ハ其償ヲ己レニ擔當ス可シ

此條ノ規則ハ海岸ヲ往返スル小船ニ通シ用フ可カラス

第四十五條 抗拒ス可カラサル力風浪等ノ如クノ爲メ損害ヲ受ケタル

ノ證アル時ニ非サレハ船長其責ヲ免ル可カラス

第四十六條 既ニ船中ニ在ル船長及ヒ乗組人又ハ出帆ス可キ爲メ小

艇ニ乘リ本船ニ赴カントスル船長及ヒ乗組人ハ其航海ヲ爲スニ付

キ負フタル債ノ爲メニ非サレハ負債ノ爲メ之ヲ差留ムルヲ得ス

又其航海ヲ爲スニ付キ負フタル債ノ爲メト雖モ保證人ヲ立ツル時

ハ差留ヲ受ルヲナカル可シ

第四十七條 船ノ持主又ハ其名代人ノ住居ノ地ニ於テハ船長別段其

承諾ヲ得スシテ船ヲ修復シ帆布綱具及ヒ其他船ノ爲メ入用ナル諸

品ヲ買入レ又ハ船ヲ引當トシテ金高ヲ借入レ又ハ船ヲ賃貸スル等ノ諸事ヲ爲ス可カラス

第四十八條 船ノ持主數人アリテ皆承諾ノ上船ヲ人ニ賃貸シタル時

其持主中之ヲ艦送スルニ必要ナル費用高ノ出合ヲ承諾セサル者ア

ルニ於テハ船長其者ニ其費用高ヲ出合ハス可キ催促ヲ爲シタルヨ

リ二十四時ノ後ニ至リ商法裁判所又ハ鎮臺ノ允許ヲ得タル上其船

ノ中ニテ其者ノ所有スル分前タル一部ヲ引當トシテ金高ヲ借入ル

ト得ヘシ但シ此場合ニ於テハ費用ノ出合ヲ承諾セサル者其借

金ノ償還ヲ擔當セサルヲ得ス

第四十九條 若シ航海中船ヲ修復シ又ハ帆布綱具器具食料及ヒ其他

ノ必須品ヲ買入ル、ノ必要ナル時其時ノ模様ニ因リ又ハ船ノ持主

又ハ荷主ノ住居遠隔ナルニ因リ其指令ヲ受ケント求ムルヲ能ハサ

ルニ於テハ船長其旨ヲ調書ニ記シ乗組人中ノ重立タル者ヲシテ之
 ニ姓名ヲ手署セシメシ後埃及國內ニ於テハ商法裁判所又其在ラサ
 ル時ハ鎮臺ノ允許ヲ得又外國ニ於テハ土耳其領事官又領事官アラ
 サル時ハ其地ノ相當ナル官吏ノ允許ヲ得タル上船及ヒ附屬品ヲ抵
 當ト爲シ其必要ノ高ニ充ル迄ノ金高ヲ借入レ又已ムヲ得サル時ハ
 積荷ヲ引當トシテ右金高ヲ借入レ若シ又其借入ヲ爲ス能ハサレハ
 右金高ニ至ル迄ノ積荷ヲ質入シ又ハ之ヲ糶賣ニ爲スヲ得ヘシ
 船ノ持主又ハ其名代人タル船長ハ荷卸ノ地ニ到着セシ時ノ其地ノ
 相場ニ從ヒ管テ賣拂フタル積荷ノ價ヲ償フ可シ但シ其相場ハ管テ
 賣拂ヒシ品物ト同質同種ノ品物ノ價ノ相場タル可シ
 此場合ニ於テ荷主ノ一人又ハ數人タルヲ問ハス途中ニテ其荷物ヲ
 船ヨリ卸シ且其所ニ至ル迄ノ運賃ヲ拂フ時ハ其荷物ヲ賣拂ヒ又ハ

質入ニ爲スヲ拒ムヲ得ヘシ○若シ荷主數人アリテ其中途中ニテ
 荷物ヲ卸サントスル者アル時ハ其者自己ノ荷物ノ運賃總高ヲ拂フ
 可シ

第五十條

船長ハ外國ノ港又ハバツソラ灣及ヒアラビヤ亞細亞歐羅
 巴ノ海岸ニ在ル土耳其ノ港ヨリ歸ラントスル前ニ其積荷ノ模様船
 ノ持主ノ算計ノ爲メ其買入レテ船ニ積込ミシ商品ノ價其借入レタ
 ル金高貸主ノ姓名住居ヲ算計書ニ記シ之ニ姓名ヲ手署シテ船ノ持
 主又ハ其名代人ニ差送ル可シ
 若シ又荷主ノ算計ノ爲メ其仲買人右ノ港ニ於テ荷物ヲ積込ム時ハ
 船長其姓名ヲ手署セシ積荷目錄ヲ以テ知ル可キ積荷ノ模様其借入
 レタル金高貸主ノ姓名住居ノミヲ記セシ書面ヲ船ノ持主又ハ其名
 代人ニ差送ル可シ

第五十一條 船長已ムテ得サルノ事情ナク船又ハ船中ノ器具食料ヲ
 抵當ト爲シ金高テ借入レ又ハ積荷及ヒ食料ヲ質ト爲シ或ハ之ヲ賣
 拂ヒ又ハ無實ノ損害及ヒ費用ヲ算計書中ニ書加ヘタル時ハ總テ此
 等ノ物件ニ管係アル者ニ對シ其責ニ任シ其借金ヲ償ヒ又ハ品物ノ
 價ヲ償フ可キ義務ヲ己レニ擔當ス可シ但シ船長此事ニ付キ別ニ犯
 罪ノ訴ヲ受ク可キ事情アル時ハ刑法裁判所ニ之ヲ訴出セラル可シ

第五十二條 法律上ニ定ムル所ニ循ヒ船ノ航海ニ堪ヘサル証ヲ得タ
 ル時ノ外船長其持主ヨリノ委任狀ヲ得スシテ其船ヲ賣拂フ可カラ
 ス假令之ヲ賣拂フト雖モ其賣拂ノ効ナク且船長其損害ノ償ヲ己レ
 ニ擔當ス可シ

船ノ航海ニ堪ヘサル事ハ埃及國內ニ於テハ商法裁判所長ノ任シタ
 ル鑒定人又其裁判所アラサル時ハ商業統括局ヨリ任シタル鑒定人

又商業統括局アラサル時ハ鐵臺ノ任シタル鑒定人又外國ニ於テハ
 土耳其ノ領事官又其在ラサル時ハ地方官吏ノ任シタル鑒定人ノ記
 セシ調書ヲ以テ之ヲ證ス可シ但シ之カ爲メ管係本人等ヨリ船ノ航
 海ニ堪ヘサルコトナキ旨ヲ裁判所ニ訴出スルノ權ヲ害ス可カラス船
 長船ノ持主ヨリ委任狀及ヒ差圖書ヲ受取ラサル時ハ前項ノ方法ニ
 テ船ノ航海ニ堪ヘサルコトヲ證シタル上之ヲ糶賣ニ爲ス可シ

第五十三條 航海ノ爲メ雇入レラレシ船長ハ必ス其航海ノ業ヲ終フ
 可シ若シ之ヲ終ヘスシテ船ノ持主又ハ荷主ノ爲メ費用損失アル時
 ハ船長之ヲ償フ可シ

第五十四條 積荷ヨリ得ル所ノ利益ヲ分ツ可キ契約ニテ航海ヲ爲ス
 船長ハ己レ一人ノ利益ノ爲メ其積荷ヲ賣買ス可カラス但シ之ニ反
 シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第五十五條 船長前條ノ規則ニ違ヒ己レ一人ノ利益ノ爲メ賣買ヲ爲
サント欲シ其積荷ヲ陸揚シタル時ハ商法裁判所ニテ之ニ管係アル
者ノ訴ニ因リ其者ノ爲メ右積荷ヲ取上ル旨ヲ言渡ス可シ

第五十六條 船長ハ如何ナル危難アリト雖モ「チファイシエ」第三十八
見及ヒ乗組人中重立ナタル者ニ相談シタル上ニ非サレハ航海中其

船ヲ棄ツ可カラズ但シ船長此等ノ者ニ相談シタル上其船ヲ棄ツル

時ハ船中ノ簿冊船借入證書積荷目錄等ノ如キ重要ノ書類貨幣及ヒ

積荷中最モ貴キ物品ヲ成ル可キ丈運ヒ出ス可シ若シ此規則ニ背ノ

時ハ船長自カラ其責ニ任ス可シ

若シ船長船ヨリ運ヒ出シタル物品ヲ意外ノ事ニ因リ失フタル時ハ

船長其責ニ任スルコトナシ

第五十七條 船長ハ其赴カント定メシ港ニ到着シタルヨリ二十四時

内ニ後ノ二條ニ記スル官吏ヲシテ其日記帳ニ檢印ヲ爲サシメ且其
申立書ヲ出ス可シ但シ船長ハ其申立書ノ公正ナル寫ヲ受取ルコト
得ヘシ

其申立書ニハ船ノ出帆シタル場所時日船路船ノ危難及ヒ破損并ニ
其他航海中ノ著ルシキ模様ヲ記ス可シ

第五十八條 土耳其國內ニ於テハ右申立書ヲ商法裁判所長ニ差出シ

商法裁判所ノアラサル時ハ商業統括局ノ長ニ差出シ商業統括局ノ
アラサル時ハ其地方ヲ管理スル上等官吏ニ差出ス可シ

商業統括局ノ長又ハ地方官ノ上等官吏其申立書ヲ受取リタル時ハ
遅延ナシ之ヲ最近ノ商法裁判所ノ長ニ送ル可シ

何レノ場合ニ於テモ右申立書ハ商法裁判所ノ書記局ニ納ム可シ

第五十九條 又外國ニ於テハ船長土耳其領事官ニ右申立書ヲ差出シ

又其領事官ノアラサル時ハ其地方ノ相當ナル官吏ニ之ヲ差出シテ其到着及ヒ出帆ノ期日并ニ其積荷ノ模様ト種類トヲ證スル書面ヲ受取ル可シ

第六十條 航海中已ムテ得ズシテ土耳其ノ港又ハ外國ノ港ニ立寄ルコトアル時ハ船長其時ノ場合ニ從ヒ前二條ニ記シタル官吏中其一名ニ已ムテ得ズシテ右港ニ立寄りシ原因ヲ申述フ可シ

第六十一條 若シ破船シテ船長唯一人存命ナルヲ得タル時又ハ其乗組人中ノ一部ト共ニ存命ナルヲ得タル時ハ其時ノ模様ニ從ヒ遲延ナク前數條ニ記シタル官吏中其一名ノ面前ニ至リ其申立書ヲ差出シ且自己ト共ニ存命ナル乗組人其地ニ在ルニ於テハ其乗組人ヲシテ其申立書ヲ眞認セシメ其寫ヲ取リ置ク可シ

第六十二條 前ニ記シタル官吏中其一名ハ船長ノ申立書ヲ眞認セシ

ムル爲メ乗組人ヲ糾問シ又旅客アルニ於テハ旅客ヲ問糾ス可シ但シ其他證據ト爲ス可キ事アルニ於テハ亦之ヲ取糾ス可シ
乗組人又ハ旅客ノ眞認セサル申立書ハ裁判所ニ於テ船長ノ義務ヲ免除スル證ト爲スタメ之ヲ取上クルコトナカル可シ但シ船長唯一人存命ナルヲ得タル時ハ格別ナリトス
乗組人又ハ旅客及ヒ其他ノ者ハ船長ノ申立書ニ反シタル證ヲ申述フルコトヲ得ヘシ

第六十三條 危急ノ時ニ非サレハ船長其申立書ヲ差出ス前ニ積荷ヲ卸ス可カラス若シ船長此規則ニ背シ時ハ犯罪ノ訴ヲ受ク可シ

第六十四條 航海中船中ノ食料缺乏スルコトアル時ハ船長乗組人中ノ重立タル者ニ相談シタル上食料ヲ所持スル者アラハ其者ヲシテ食料ヲ出サシム可シ但シ其代金ハ之ヲ其持主ニ拂フ可シ

〇第五章 船ノ役員及ヒ乗組人雇入ノ事并ニ其雇賃ノ事

第六十五條 船長、役員、乗組人雇入ノ契約ハ乗組人ノ姓名簿又ハ雙方

ノ契約書ヲ以テ之ヲ證ス可シ。〇若シ其契約書ノアラサル時又ハ乘

組人ノ姓名簿ニ雇入ノ契約ヲ記セサル時ハ雙方其雇入ヲ爲シタル

地ノ習慣ニ從フヲ欲シタル者ト看做ス可シ。

乗組人ノ姓名簿ハ土耳其國內ニ於テハ港役所ニ於テ之ヲ記シ又其

役所ノアラサル時ハ商業統括局ニ於テ之ヲ記シ又其局ノアラサル

時ハ地方ノ上等官吏或ハ其代理者ノ面前ニ於テ之ヲ記シ又外國ニ

於テハ土耳其ノ領事又ハ代領事ノ面前ニ於テ之ヲ記シ又其在テサ

ル時ハ地方官吏ノ面前ニ於テ之ヲ記ス可シ。

第六十六條 船長及ヒ乗組人ハ船ノ持主ノ承諾ヲ得且船賃ヲ拂フタ

ル上又船ノ全部ヲ貸シタル時ハ其借主ノ承諾ヲ得且船賃ヲ拂フタ

ル上ニ非サレハ如何ナル口實アリト雖モ自己ノ算計ノ爲メ船中ニ

商品ヲ積入ル可カラズ若シ此規則ニ背ク時ハ船ノ持主及ヒ借主ノ

資益ノ爲メ其商品ヲ取上ク可シ但シ船ノ持主、船長又ハ乗組人ノ雇

入證書ニ右ノ事ヲ爲ス可キヲ承諾スル旨ヲ記シ又ハ船ノ借主ノ借

入證書ニ同上ノ旨ヲ記シタル時ハ格別ナリトス。

第六十七條 船ノ持主又ハ船長又ハ借主船ノ出帆前ニ航海ヲ止ムル

時ハ役員及ヒ乗組人航海中雇入ノ契約ヲ爲シタルト月雇ノ契約ヲ

爲シタルトト問ハス其船ヲ機裝スル爲メ使用ヲ受ケタル日數ニ准

シ其雇賃ヲ受取ル可シ且其擇ニ任カセ或ハ先拂トシテ受取リシ

雇賃ノ一部或ハ其先拂高ヲ差引キテ其雇賃ノ一ヶ月分或ハ航海中

ノ雇入ナル時ハ其雇賃ノ四分一ヲ償ノ名義ヲ以テ受取ルコト得ヘ

シ。

又既ニ出帆シタル後航海ヲ止ムル時ハ役員及ヒ乗組人既ニ使用ヲ受ケシ時間ノ雇賃ヲ受取リ且前項ニ記スル高ニ倍スル金高ヲ償ノ名義ヲ以テ受取リ并ニ船ノ出帆セシ地ニ至ル迄ノ歸路ノ旅費ヲ受取ルヲ得ヘシ但シ船長持主若クハ借主右役員及ヒ乗組人ヲシテ出帆ノ地ニ到ル可キ他ノ船ニ乗組マシメタル時ハ格別ナリトス然レモ其雇賃及ヒ償高ハ如何ナル場合タリモ航海ヲ爲シ終リタル時受取ル可キ高ニ過ク可カラス

歸路ノ旅費ハ其歸ル可キ者ノ身分ニ准シ之ヲ算計ス可シ

第六十八條 若シ出帆前ニ其船ヲ差向ケントスル地ト商業禁止ノ令下ル時又ハ其運輸ノ爲メ船ヲ借入レタル商品ノ輸出禁止ノ令下ル時又ハ官命ニテ船ヲ差留メタル時ハ役員及ヒ乗組人其使用ヲ受ケタル日數ノ雇賃ヲ受取ルノミトス

第六十九條 既ニ出帆シタル後ニ商賣及ヒ輸出禁止ノ令下ル時ハ役員及ヒ乗組人其使用ヲ受ケタル時間ノ雇賃ト歸路ノ旅費トヲ受取リ又航海中船ヲ差留メラレタル時ハ月雇ナレハ其差留ヲ受クル時間ノ雇賃ノ半高ヲ受取リ航海中ノ雇入ナレハ其差留ノ爲メ別ニ金高ヲ増スヲナク契約通りノ雇賃ヲ受取ル可シ

第七十條 持主又ハ借主ノ意ニテ航海ノ期日ヲ永引カシメタル時ハ航海中雇入レタル海客其永引キタル日數ノ割合ヲ以テ雇賃ノ增高ヲ受取ル可シ

第七十一條 船ノ借入證書ニ定メシ地ニ至ラサル内借主ノ意ヲ以テ其途中故ラニ荷物ヲ卸シタル時ハ航海中雇入レタル海客ノ雇賃ヲ減ス可ラス

第七十二條 水夫等荷物賣買ノ利得ノ一部ヲ得可キ契約又ハ船ノ賃

賃ノ一部ヲ得可キ契約ニテ雇入レラレタル時ハ抗拒ス可カラサル
 カノ爲メ航海ヲ止メ又ハ航海ノ期日永引キタルト雖モ其償ヲ受取
 ル可カラズ又其雇賃ノ增高ヲ受取ル可カラズ
 又荷主ノ所爲ニ因リ航海ヲ止メ又ハ航海ヲ永引カシムルコトアル時
 ハ乗組人船ノ賃賃增高中其一部ヲ受取ルコト得ヘシ
 其增高ヲ船ノ持主ト乗組人トニ分派スル割合ハ嘗テ船ノ賃賃ヲ其
 持主ト乗組人トニ分ツ爲メ定メ置キタル割合ニ從フ可シ
 又船長又ハ持主ノ所爲ニ因リ航海ヲ止メ又ハ航海ノ期日ヲ永引カ
 シメタル時ハ此等ノ者其契約書ニ定ムル所ニ循ヒ各々相當ノ割合
 ナリテ乗組人ニ償ヲ爲ス可シ
 第七十三條 敵國ノ爲メ船ヲ奪取ラレ又ハ船ノ破壊シテ其船并ニ積
 荷ヲ全ク失フタル時ハ役員及ヒ乗組人其雇賃ヲ得ント求ム可カラ

ス然レモ役員及ヒ乗組人ハ先拂トシテ既ニ受取リタル雇賃ヲ還ス
 ニ及ハス

第七十四條 船ノ一部存スルコト得タル時ハ水夫等航海中雇入レラ
 レタルト月毎ニ雇入レラレタルトヲ問ハス其存在スル一部ノ賣拂
 代金中ヨリ其雇賃ヲ得ヘシ

若シ又其存シタル一部ノ代金ヲ以テ水夫等ノ雇賃ニ充ツルニ足ラ
 サル時又ハ積荷ノミ存スルヲ得テ全ク船ヲ失フタル時ハ水夫等其
 雇賃不足ノ高ヲ船賃ノ中ヨリ受取ル可シ

第七十五條 船賃ノ一部ヲ得可キ契約ニテ雇入レラレタル役員及ヒ
 乗組人ハ前條ノ場合ニ於テ船長又ハ借主貸主ノ誤ノ受取ル可キ船賃
 ノ割合ヲ以テ其船賃ノ中ヨリ其雇賃ヲ受取ル可シ

第七十六條 役員及ヒ乗組人ハ其雇入ラレタル方法ノ如何ヲ問ハス

破壊シタル船ノ一部並ニ荷物ヲ保存スルニ付テノ償銀ヲ受取ル可シ

第七十七條 乗組人等航海中病ニ罹リ又ハ船ニテ使用ヲ受クルニ付キ或ハ敵人及ヒ海盜ト戰フニ付キ創傷ヲ被リタル時ハ其雇賃ヲ受取リテ治療ヲ受ケ且之レカ爲メ不具トナル時ハ其償ヲ受ク可シ但シ其償高ニ付キ争ノ生スル時ハ裁判官之ヲ定ム可シ
船ニテ使用ヲ受クルニ付キ病ニ罹リ又ハ創傷ヲ被リ又ハ不具トナリタル時ハ治療ノ費用及ヒ不具トナリタルニ付テノ資助ヲ船ト船賃トニテ擔當ス可シ又船ヲ守リ戰闘シテ創傷ヲ被リ又ハ不具トナリタル時ハ其治療ノ費用及ヒ不具トナリタルニ付テノ資助ヲ船ト積荷トノ雙方ニテ擔當ス可キ意外ノ損費ト爲シテ船ト船賃ト積荷トノ三方ニテ擔當ス可シ

第七十八條 若シ病ニ罹リ或ハ創傷ヲ被リ或ハ不具トナリシ海客進航中ニ死去ス可キノ恐アル時ハ船長出帆前ニ其病者ヲ病院又ハ其他相當ノ治療ヲ受ク可キ場所ニ入レ其治療及ヒ其飲食ノ費用ト病者平愈スレハ其歸路ノ費用若シ死スレハ其埋葬ノ費用トヲ給シ置ク可シ
船長ハ之レカ爲メ十分ナル金高ヲ土耳其國內ナレハ商業統括局長又ハ地方官吏ニ出シ或ハ其保證ヲ立テ若シ外國ナレハ土耳其ノ領事又ハ地方官吏ニ右金高ヲ渡シ或ハ其保證ヲ立ツ可シ
右ノ場合ニ於テハ病者其歸路ノ費用ノ外其平愈ニ至ル迄ノ雇賃ノミナラス當テ船ノ出帆セシ地ニ歸リ得ル日ニ至ル迄ノ雇賃ヲ受取ル可シ
第七十九條 若シ乗組人船中ニ在リ或ハ許ヲ得テ船ヲ出テ毆闘シテ

傷ヲ被リタル時又ハ不行狀ニ因リ病ニ罹リタル時ハ前ニ記スル如ク船ノ費用ニテ治療ヲ加フ可ク後ニ其者ヲシテ其費用ヲ償ハシム可シ○又乗組人許ヲ得スシテ船ヲ出テ争鬪又ハ不行狀ニ因リ創ヲ被リ不具ニ至リ或ハ病ニ罹リタル時モ亦本人ノ費用ニテ治療ヲ加フ可シ

右ノ者ハ船長之ニ暇ヲ與フルヲ得ヘク然ル時ハ其者其使用ヲ受ケタル時間ニ准シ其雇賃ヲ受取ルヘシ

第八十條 航海中乗組人ノ死去スル時ハ其雇賃ヲ左ノ差別ニ從ヒ其遺物相續人ニ與フ可シ

月雇ナレハ其死去ノ日ニ至ル迄ノ雇賃ヲ與フ可シ

航海中ノ雇入ナレハ其往路又ハ到着ノ港ニテ死去シタル時ハ其雇賃ノ半ハチ與ヘ歸路ニ死去シタル時ハ其雇賃ノ全額ヲ與フ可シ

若シ積荷賣買利得ノ一部又ハ船賃ノ一部ヲ分ツ約束ニテ雇入レタル時ハ航海ヲ初メシ後ニ死去シタルニ於テハ其分ケ前ノ全額ヲ與フ可シ

又乗組人雇入レノ方法如何ヲ問ハス船ヲ守リ敵人又ハ海賊ト戰テ死シ其船安全ニ着港シタル時ハ其乗組人ヲ生存シタルト看做シ航海中其雇賃ノ全額ヲ與フ可シ

第八十一條 船中ニテ敵ノ爲メニ虜獲セラレ其奴隸トナリシ乗組人

ハ其贖金ヲ船長又ハ船ノ持主又ハ借主ヨリ得ント求ム可カラス○其乗組人ハ虜獲セラレタル日ニ至ル迄ノ雇賃ヲ得可シ

船ノ用向ノ爲メ小艇ニ乘リ陸ニ赴カントスル途中又ハ其上陸シタル間敵ノ爲メニ虜獲セラレ奴隸トナリシ乗組人ハ其雇賃ノ全額ヲ受取り且船ノ安着シタル時ハ其贖金ヲ得ント求ムルノ權アリ

第八十二條 前條ノ場合ニ於テ船ノ用向ニテ乗組人ヲ海上ニ遣ハシ又ハ上陸セシメタル時ハ船ノ持主ヨリ其贖金ヲ拂フ可シ
 又船ノ用向ト積荷ノ用向トニテ乗組人ヲ海上ニ遣ハシ又ハ上陸セシメタル時ハ船ノ持主ト荷主トヨリ其贖金ヲ拂フ可シ
 第八十三條 右贖金ノ高ハ土耳其ノ金二十五「リール」ト定ム
 第八十四條 乗組人ノ雇入レ期限内ニ船ヲ賣拂フコトアル時ハ其乗組人船ノ費用ニテ歸路ノ旅費ト其雇賃トヲ受取ル可シ但シ乗組人ノ雇入契約ニ之ニ反セシ箇條ノ定メタル時ハ格別ナリトス
 第八十五條 船長正當ノ原由アリテ役員又ハ乗組人ニ暇ヲ與フル時ハ既ニ經過セシ路程ニ准シ算計シテ其暇トナリシ日ニ至ル迄ノ雇賃ヲ受取ル可シ
 若シ未タ出帆セサル中ニ暇トナリタル時ハ其使用ヲ受ケシ日數ニ

准シ其雇賃ヲ受取ルノミトス

第八十六條 左ノ諸件ハ乗組人ニ暇ヲ與フル正當ノ原由ナリトス

第一 用ニ充タサル事

第二 命ヲ奉セサル事

第三 通常酩酊スル事

第四 船中ニテ暴行ヲ爲シ又ハ其他船中ヲ紊亂セシム可キ惡質ノアル事

第五 許シテ得ヌシテ船ヲ去ル事

第六 已ムテ得ヌシテ航海ヲ止ムル事又ハ法律ノ定メニ循ヒ已ムテ得サルニ非ヌシテ航海ヲ止ムル事

一一三 第八十七條 乗組人其姓名ヲ船ノ乗組人姓名簿中ニ記入シタル後正當ノ原由ナク暇トナリタルコトヲ證スル時ハ船長ニ對シ其賃ヲ求ム

ルノ權アリ○右ノ價高ハ未タ出帆セサル中ニ暇トナリタル時ハ航海中其者ノ得ヘキヲ想料セシ雇賃ノ半ハト定メ又航海中暇トナリタル時ハ其暇トナリシ日ヨリ航海ノ終リニ至ル迄其得ヘキ雇賃及ヒ歸路ノ旅費高ト定ム可シ○船長ハ前ニ記スル場合ニ於テ船ノ持主ヨリ特ニ乗組人ニ暇ヲ與フ可キ許諾ヲ得タル時ニ非サレハ船ノ持主ニ對シ右ノ價高ヲ取還サント求ム可カラス

第八十八條 役員及ヒ乗組人ハ其姓名ヲ船ノ乗組人姓名簿ニ記入シ

タル上ハ左ノ場合ニ非サレハ使用ヲ受クルヲ肯セス其船ヲ去ル可カラス

第一 其雇ハレシ航海ヲ初メサル中ニ船長其船ノ赴ク可キ場所ヲ變更セシ時

第二 未タ航海ヲ初メサル中ニ土耳其ト他國ト海戰ノ起リタル時

又ハ船ノ途中ノ港ニ休ム間ニ土耳其ト船ノ赴カントスル國ト互ニ交戦シ其船ノ爲メ危虞ス可キ景狀ノ生シタル時

第三 未タ航海ヲ初メサル中又ハ途中ノ港ニ休ム間ニ其船ノ赴カントスル地ニ疫病、黃熱病又ハ其他傳染病ノ流行スル確報ヲ得タル時

第四 未タ航海ヲ初メサル中ニ船ノ持主ノ變易スル時

第五 未タ航海ヲ初メサル中ニ船長ノ死去シ又ハ船ノ持主ヨリ暇ヲ得タル時

第八十九條 船ト船賃トハ乗組人ノ雇賃、價高、歸路ノ費用等ヲ拂フ爲メ特ニ其引當ト爲ス可キモノトス

又船ト船賃トハ役員又ハ乗組人ノ不正或ハ過失ニ因リ荷主ノ受ケタル損失ヲ償フ爲メ特ニ其引當ト爲ス可キモノトス但シ此場合ニ

於テハ船ノ持主ヨリ船長ニ對シテ其償ヲ求メ又船長ハ乗組人ニ對シテ其償ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

○第六章 船借入契約ノ事 即チ船ヲ借リテ商品ヲ運送スル契約ヲ云フ

第九十條 船借入ノ契約ハ佛語ニ之ヲ「シヤルト、パルチー」或ハ「アフレートマン」或ハ「ノリツスマン」ト云ヒ總テ皆書面ニ記ス可シ但シ其契約書ニハ左件ヲ記ス可シ

船ノ名、噸數、國名

船長ノ姓名

貸主及ヒ借主ノ姓名

荷積及ヒ荷卸ヲ爲ス可キヲ定メタル地及ヒ時

賃銀

船ノ一部又ハ全部ヲ借入ル、事

荷積又ハ荷卸ヲ遲延シタル場合ニ於テ出ス可キ償高

第九十一條 船ニ荷ヲ積ミ及ヒ荷ヲ卸ス可キ日數ノ契約書ニ定メサレ時ハ其地ノ習慣ニ從ヒ之ヲ定メ又其定マリシ習慣ノアラサル時ハ船長ノ荷ヲ積ミ又ハ荷ヲ卸ス可キ用意ヲ爲セシ旨ヲ述ヘタルヨリ引續キテ勞動ヲ爲ス可キ十五日間トス

第九十二條 若シ荷物ノ一部ヲ此地ニテ積ミ又ハ卸シ他ノ一部ヲ彼地ニテ積ミ又ハ卸ス可キ時ハ此地ヨリ彼地ニ船ヲ運轉スル時間ノ日數ヲ算計中ニ加フルコトナク且其時間右荷物ヲ積ミ又ハ卸ス可キ期限ヲ猶豫ス可シ

第九十三條 船ヲ月借リニ爲シタル時ハ其船ノ出帆シタル日ヨリ其借賃ヲ拂フ可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第九十四條 船ノ出帆前ニ其到ラントスル國ト貿易禁制ノ令下ル時

ハ借入ノ契約ヲ解除シ雙方共ニ償ヲ要ムルヲ得ス
荷主ハ其荷物積入ニ付テノ費用並ニ荷卸ニ付テノ費用ヲ擔當ス可

第九十五條 抗拒ス可カラサル力ノ爲メ船ノ出帆ヲ一時遲延スルコ

アリト雖モ其借入契約ヲ解除ス可カラス且遲延ニ付テノ償ヲ得ン
ト要ム可カラス

又航海中抗拒ス可カラサル力ノ爲メ船ノ到着期日ノ遲延スルコ
アリト雖モ其借入契約ヲ解除ス可カラス且貸主ハ貸賃ノ增高ヲ得ン
ト要ム可カラス又借主ハ遲延ニ付テノ償ヲ得ント要ム可カラス

第九十六條 荷主ハ船ノ途中港口ニ駐マリタル間自費ニテ其荷物ヲ
船ヨリ卸スコトヲ得可シ但シ荷主途中ニテ其荷物ヲ卸シタル時ハ再
ヒ之ヲ積入ル可シ若シ然ラサレハ船長ニ償ヲ爲ス可シ

第九十七條 戰鬪ノ爲メ船ノ到ラントスル港ト往來塞カリタル時ハ
船長同國內ニテ其港ニ最近ノ地ノ港ニ其船ヲ差向ケ其所ニ於テ荷

主又ハ荷物ノ受取人ニ其旨ヲ報告シ其差圖ヲ待ツ可シ

第九十八條 船ノ持主ノ方ニテハ船及ヒ船ニ備ヘタル諸器具並ニ貸
賃銀ヲ以テ其契約ノ如ク執行フノ保證ニ充テ荷主ノ方ニテハ其荷
物ヲ以テ其契約ノ如ク執行フノ保證ニ充ツ可シ

○第七章 積荷目録ノ事

第九十九條 積荷目録ハ別段定メタル人ニ宛テ送ルコトヲ得又ハ裏書
ヲ以テ之ヲ移スコトヲ得又ハ何人ニテモ之ヲ所持スル者ニ宛テ送ル
コトヲ得可シ且其目録ニハ運送ス可キ物品ノ種類分量性質ヲ記ス可
シ

又其目録ニハ荷主ノ姓名、品物ヲ受取ル可キ者ノ姓名、住所、船長ノ姓

名住所船ノ名其噸數其所屬ノ國名出帆ノ地ノ名及ヒ到着ス可キ地
ノ名船ノ借入賃ヲ記ス可シ

又其目錄ノ端ニハ荷物ノ記號番號ヲ附記ス可シ

第百條 積荷目錄ハ之ヲ少シト四通ニ記ス可シ但シ其一通ハ荷主ノ
爲メ一通ハ荷物ヲ受取ル可キ者ノ爲メ一通ハ船長ノ爲メ一通ハ船
主又ハ船ヲ艤裝スル者ノ爲メタル可シ
其積荷目錄ハ四通共荷物積入ノ時ヨリ二十四時間ニ船長及ヒ荷主
之ニ姓名ヲ手署ス可シ

荷主ハ右二十四時間ニ荷物ノ稅銀受取書ヲ船長ニ渡ス可シ

第百一條 前二條ノ法式ニ循ヒ記シタル積荷目錄ハ總テ積荷ニ管係
アル各人 荷主船長船主荷物ヲ受ノ間ニ於テ確證ナリトシ又其各人
取ル可キ者等ヲ云フ
ト海上受合人トノ間ニ於テモ確證ナリトス但シ海上受合人ハ之ニ

反シタル證ヲ立ツルヲ得ヘシ

第百二條 一艘ノ積荷目錄互ニ相違スル時ハ船長ノ所持スル目錄ヲ
以テ確的ノモノト爲可シ但シ之レカ爲メニハ荷主又ハ其仲買人其
目錄ノ空隙ニ記入ヲ爲シタルヲ必要トス又右ノ場合ニ於テハ荷
主又ハ其荷物ヲ受取ル可キ者ノ所持スル目錄ヲ確的ノモノトス可
シ但シ之カ爲メニハ船長其目錄ノ空隙ニ記入ヲ爲シタルヲ必要
トス

第百三條 仲買人又ハ荷物ヲ受取ル可キ者積荷目錄又ハ船借入證書

ニ記シタル荷物ヲ受取リタル時ハ船長ノ求メニ從ヒ其受取書ヲ渡
ス可シ若シ之ヲ渡サ、ル時ハ總テノ費用並ニ損失ヲ船長ニ償ヒ又
船長其受取書ヲ得サルニ付キ歸帆ノ遲延シタル時ハ其遲延ニ付テ
ノ損失ヲモ亦償フ可シ

又船長ハ荷物ヲ受取リタル者ニ其荷物受取書ヲ得ント要ムルヲ得ヘク又其受取人アラサル時ハ積荷目録ニ從ヒ荷物ヲ船ヨリ卸セシ旨ヲ證スル税關ノ保證書ヲ受取ル可シ若シ此等ノ手續ヲ爲サスシテ船主又ハ荷物受取人ノ爲メ損害ヲ生スル時ハ船長之ヲ償ハサルヲ得ス

〇第八章 船借入賃ノ事 即チ船賃ト記スルモノト同シ

第一百四條 船ノ借賃ヲ名ケテ「フレ」又ハ「フリー」ト云フ〇其賃銀ノ高ハ雙方ノ契約ニテ之ヲ定ム〇其賃銀ハ船借入證書又ハ積荷目録ヲ以テ之ヲ證ス〇其賃銀ハ船ノ全部ノ借入或ハ一部ノ借入ニ付キ之ヲ定メ又ハ航海ノ時間或ハ別段定メタル時間ニ付キ之ヲ定メ又ハ荷物ノ噸數或ハ「キロ」ノ數或ハ「カンタル」ノ數ヲ以テ之ヲ定メ又ハ荷物ノ數ヲ以テ之ヲ定メ或ハ定期内ニ幾許ノ荷物ヲ積入ル、トアラ

ハ出帆ス可キノ約束ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得ヘシ但シ何レノ場合ニ於テモ船ノ噸數ヲ指定ム可シ

第一百五條 荷主船ノ全部ヲ借入レタル時ハ其全部ニ積入ル、ニ足ル可キ荷物ヲ積入レスト雖モ船長其荷主ノ承諾ヲ得スシテ他ノ荷物ヲ積入ル可カラス

船ヲ借切リタル荷主其船中ニ他人ノ荷物ヲ積入ル可キト船長ニ許ルシタル時ハ荷主其荷物ノ運賃ヲ自己ノ所得ト爲ストヲ得ヘシ

第一百六條 船ノ借主其借入證書又ハ法律上ニ定メタル期限内ニ荷物ヲ全ク積入レサル時ハ船主借入證書ニ定メタル遅延ノ爲メノ償額ヲ得ント求メ又此事ニ付テノ契約アラサル時ハ鑒定人ヲシテ定メシメタル其償額ヲ得ント求メ或ハ貸渡ノ契約ヲ取消シテ借主ニ其船賃ノ半ハ及ヒ其他ノ契約セシ得分ノ半ハヲ得ント求ムルヲ自由

ナリトス

又右ノ場合ニ於テ定期内ニ荷物ヲ積入レサル借主ハ其遅延ニ付キ償ヲ出ス可キ期日ニ至ラサル中ニ借入契約ヲ抛棄スルヲ得ヘシ但シ之レカ爲メニハ船主又ハ船長ニ船賃ノ半ハ及ヒ其他ノ契約シタル得分ノ半ハチ拂フ可シ

第百七條 又借主定期内ニ其契約セシ荷物ノ一部ノミチ積入レタル時ハ船主前條ノ第二項ニ記シタル償ヲ求メ又荷物ノ一部ヲ積入レタル儘ニテ出帆セシムルヲ自由ナリトス但シ此最終ニ記スル場合ニ於テハ船主荷物全部ニ付テノ船賃ヲ受取ルヲ得ヘシ

第百八條 又借主其契約シタル所ヨリ更ニ多量ノ荷物ヲ積入レタル時ハ借入證書ニ定メタル賃銀ノ割合ニ從ヒ其過量ノ荷物ニ付テノ船賃ヲ拂フ可シ

第百九條 若シ船主又ハ船長借主ニ對シ船ノ大サヲ其實ヨリ更ニ大ニ述ヘタル時ハ其割合ニ準シテ船賃ヲ減シ且借主ニ其損失ノ償ヲ爲ス可シ

其誤算船ノ眞ノ噸數ノ百分三ヨリ少キ時又ハ官吏ノ取調ヘタル噸數ノ受合書ニ據リシ時ハ其誤算ヲ問フヲナシ

第百十條 定期内ニ幾許ノ荷物ヲ積入ル、トアラハ出帆ス可キ約束ニテ船ノ賃借ヲ契約シタル時船主又ハ船長船ニ荷物ヲ積入ル、爲メ船ヲ留メ置ク可キ期限ヲ定メタルニ於テハ其期限ノ終リシ後最初ノ順風ニ乘シ出帆ス可シ但シ船主又ハ船長ノ荷主ト別段ノ期限ヲ約シ定メタル時ハ格別ナリトス

第百十一條 定期内ニ幾許ノ荷物ヲ積入ル、トアラハ出帆ス可キ約束ニテ船ノ賃借ヲ契約シタル時船ニ荷物ヲ積入ル可キ期限ヲ定メサ

ルニ於テハ各荷主船長ノ姓名ヲ手署セシ積荷目録ヲ還シ既ニ發遣
セシ積荷目録ヲ還スニ付テハ保證ヲ立テ且己レノ荷物ヲ積ミタル費
用及ヒ卸シタル費用並ニ他ノ荷物ヲ置易ヘテ之ヲ積直シタル費用
ノ外契約シタル船賃ノ半ハナ拂ヒ己レノ荷物ヲ取戻スヲ得ヘシ
然レモ船ニ積荷ノ四分ノ三以上ヲ積入レタル時ハ船長荷主ノ員數
中其半ハ以上ノ求メニ因リ其催促ヲ受ケシヨリ八日內ニ最初ノ順
風ニ乘シ出帆ス可ク荷主其荷物ヲ取還ス可カラズ

第一百十二條 荷主若シ船主又ハ船長ニ告知セス荷物ヲ積入レタル時
船長未タ出帆セサルニ於テハ荷主ニ其荷物ヲ取還ス可キヲ報告
セシ後之ヲ陸ニ揚ケ或ハ之ト同種ノ荷物ニ付キ同所ニ於テ賣拂フ
可キ最高價ノ船賃ヲ受取ルヲ得ヘシ○若シ船長出帆後ニ初メテ
右荷物ノアルヲ必附キタル時ハ之ヲ送り届ク可キ港ニ至テ之ヲ陸

揚ス可シ但シ其船賃ハ前ニ記スル如キ價ヲ以テ之ヲ受取ル可シ
航海ノ途中己レノ荷物ヲ陸揚スル荷主ノ船賃ノ總高ト其陸揚ノ爲
メ他ノ荷物ヲ積直ス費用トナ拂フ可シ若シ船長ノ所爲又ハ過失ニ
因リ荷物ヲ陸揚ケシタル時ハ船長船賃ヲ受取ル可キ權ヲ失フノミ
ニ非ス總テノ費用ヲ己レニ擔當シ又船ノ貸借契約ニ背キタルニ付
テノ損失ノ償ヲ己レニ擔當ス可シ

第一百十三條 出帆前ト航海中ト荷卸ノ地ニ至リシ時トナ問ハス借主
又ハ荷主中一人ノ所爲又ハ懈怠ニ因リ船ヲ止ムル時ハ借主又ハ荷
主中ノ一人ヨリ船主又ハ船長又ハ他ノ荷主ニ對シ右遲延ニ付テノ
費用ト損失トナ償フ可シ

荷主航海ノ往返共ニ船ヲ借入レタル時ハ其歸路ニ荷物ヲ積込ム
ナク又ハ少量ノ荷物ヲ積込ミタルト雖モ荷主ヨリ船長ニ往返ノ船

貸ヲ拂ヒ又荷主其荷物積込ノ爲メ其船ノ歸路ノ航海ヲ遅延セシメタル時ハ亦其償ヲ爲ス可シ

第百十四條 又出帆ノ前ト航海中ト荷卸ノ地ニ至リシ時トナ問ハス船主又ハ船長ノ過失懈怠ニ因リ船ヲ止メ又ハ其航海ヲ遅延セシメタル時ハ借主ニ對シテ其損失ノ償ヲ爲ス可シ

前條及ヒ此條ニ記スル損失償ノ高ハ鑑定人ヲシテ之ヲ定メシム可シ

第百十五條 若シ船長航海中船ヲ修復ス可キ時ハ借主又ハ荷主其修復ノ成就スルヲ待ツ可シ若シ其荷物ヲ取戻ス時ハ船賃ノ總高ヲ拂ヒ且船ト積荷トノ雙方コテ擔當ス可キ意外ノ損費ノ一部ヲ擔當ス可シ

又船ヲ月借ニ爲シタル時ハ修復ノ間船賃ヲ拂フコ及ハス又航海中

借入シタル時ハ修復ノ間ノ賃銀ヲ増スニ及ハス

若シ船ヲ修復スルヲ得サル時ハ船長己ノノ費用ニテ一艘又ハ數艘ノ船ヲ借入ル可シ但シ荷物ヲ其届ケ場所迄運送スル爲メ別段運賃ノ增高ヲ得ント求ム可カラス

若シ船長一艘又ハ數艘ノ船ヲ借入ル、能ハサル時ハ既ニ航海シタル路程ニ准シ船賃ヲ拂フ可シ

前項ノ場合ニ於テハ荷主各々自己ノ荷物ノ運送ヲ引受ク可シ船長ハ之カ爲メ各荷主ニ其荷物ノ所在地ヲ報告シ且其間荷物ヲ保全スル爲メ必要ノ處置ヲ爲ス可シ但シ管係數人互ニ之ニ反シタル契約ヲ結ビシ時ハ格別ナリトス

第百十六條 借主出帆ノ時其船ノ航海ヲ爲スニ堪ヘサリシ證ヲ立ル時ハ船長其船ノ貸賃ヲ得ヘカラス且荷主ニ其損失ヲ償フ可シ

其船ノ出帆前掛リ官吏ノ見分ヲ爲シタル受合書アリト雖モ借主同上ノ證ヲ立ツル妨トナルコトナカル可シ

第百十七條 船長航海ノ途中食料ヲ得ル爲メ又ハ船ノ修復ノ爲メ又ハ其他己ムヲ得サル事アリテ其船中ニ積入レシ荷物ヲ賣拂フタル時ハ其殘品又ハ之ト同質ノ品物ヲ到着ノ港ニ於テ賣拂ヒ得ヘキ價ニ准シ其賣拂フタル品物ノ價ヲ荷主ニ償フ可シ然ル上ハ荷主其荷物ニ付テノ總運賃ヲ拂ハサルヲ得ス

若シ其荷物ヲ賣拂ヒシ後其船ヲ全ク失フコトアル時ハ船長其賣拂代金中ヨリ既ニ航海シタル路程ニ准セシ貸賃ヲ差引キ其餘ヲ荷主ニ拂フ可シ

前二項ノ場合ニ於テハ船ノ持主第三十條ノ第二項ニ記セシ權ヲ行フノ差支トナルコトナカル可シ

若シ船ノ持主其權ヲ行フコト因リ荷主數人ノ爲メ損失アル時ハ賣拂或ハ質入ト爲セシ荷物ト安着スルコトヲ得タル荷物又ハ破船後幸ニシテ存スルコトヲ得タル荷物トノ價ニ准シ平等ニ其損失ヲ割附ク可シ荷主數人其荷物ノ價ノ割合ヲ以テ其損失ヲ分テ擔當スルヲ云フ

第百十八條 船ノ到ラントスル國ト貿易禁制ノ命令下ルコトアリテ其船其荷物ト共ニ歸リ來ル時ハ嘗テ往返共ニ其船ヲ借入ル、契約アル時ト雖モ船長往路ノミノ貸賃ヲ得ヘシ

第百十九條 若シ航海中外國ノ命ニ因リ一時船ヲ差留メラレタル時嘗テ其船ヲ月毎ニ借入ル、契約ヲ爲シタルニ於テハ其差留メラレシ時間別段其借入賃ヲ拂フニ及ハス又航海中之ヲ借入ル、契約ヲ爲シタルニ於テハ其差留ニ付キ別段其借入賃ヲ増スニ及ハス其船ヲ差留メラレタル時間乗組人ノ食料及ヒ雇賃ハ意外ノ損費ナリト

看做ス可シ 第十二 章見合

荷主ハ其差留ノ時間己レノ費用ニテ其荷物ヲ陸揚スルヲ得ヘシ
但シ其荷主ハ己レノ費用ニテ更ニ其荷物ヲ積込ニ若シ然ラサレハ
船ノ持主又ハ船長ニ其償ヲ爲ス可シ

第二百十條 船及ヒ總荷物ノ安全ノ爲メ海中ニ投入シタル荷物ノ運
賃ハ船長ニ拂フ可シ但シ其投荷ノ損失ノ償ハ船主及ヒ荷主等皆之
ヲ擔當ス可シ

第二百十一條 破船ニ付キ失フタル荷物又ハ海賊或ハ敵船ノ爲メ掠
奪セラレタル荷物ニ付テハ運賃ヲ拂フコ及ハス

船長既ニ其運賃ヲ受取リタルニ於テハ之ヲ還ス可シ但シ之ニ反シ
タル契約アル時ハ格別ナリトス

第二百十二條 船長ノ助力ニ因テ其船及ヒ荷物ヲ贖戻シ又ハ破船ノ

時其荷物ヲ存スルヲ得タルト雖モ之ヲ送届クル能ハサルニ於テ
ハ船長其掠奪又ハ破船ノ場所ニ至ル迄ノ運賃ヲ受取ルヲ得ヘシ
又船長荷物ヲ贖戻スニ付キ金高ヲ出シ且之ヲ送リ届クルヲ得タル
ニ於テハ其運賃ノ總高ヲ受取ルヲ得ヘシ
又船長其荷物ヲ存スル爲メ助力セサル時ハ其荷物ノ海上又ハ濱岸
ニ於テ存スルヲ得テ荷主之ヲ受取リタルト雖モ其運賃ヲ拂フコ及
ハス

第二百十三條 船ト船賃トニハ荷物贖戻ノ費用ヲ割附ク可シト雖モ
水夫ノ雇賃ニハ之ヲ割附ク可カラズ

贖戻ノ出合金ハ到着スル港ニ於テ荷物ノ價中ヨリ費用ヲ減シタル
高ト船ノ價ノ半ト船賃ノ半トノ平等ナル割合ヲ以テ之ヲ割附ク可
シ

第二百二十四條 若シ到着ノ港ニ於テ荷物ヲ受取ル可キ者之ヲ受取ル
 一ヲ肯セサル時ハ船長之ヲ受取ラシム可キ公ケノ催促書ヲ送リシ
 後商法裁判所ノ裁判言渡ヲ得テ其荷物ノ全部又ハ一部ヲ賣拂ヒ其
 代金ヲ以テ運賃意外ノ損費及ヒ其他ノ費用ヲ償フ一ヲ得ヘシ但シ
 猶殘高アレハ之ヲ裁判所ニ預ク可シ
 若シ右代金ヲ以テ運賃及ヒ費用ヲ償フニ足ラサル時ハ船長ヨリ荷
 主ニ對シ償ヲ得ント要ム可シ

第二百二十五條 船長ハ運賃又ハ意外ノ損費ノ償高及ヒ其他ノ費用ハ
 償高ヲ得スト雖モ荷物ヲ船中ニ留メ置ク可カラス○右ノ場合ニ於
 テハ船長運賃及ヒ諸費用高ノ償ヲ得ルニ至ル迄其荷物ヲ他人ニ預
 ク可キ一ヲ裁判所ニ訴ヘ若シ其荷物中ニ腐敗ス可キ物アル時ハ之
 ヲ賣拂フ可キ一ヲ訴フルヲ得ヘシ但シ其荷物ヲ受取ル可キ者右等

ノ金高ヲ償フ可キノ保證人ヲ立ツル時ハ格別ナリトス
 若シ船ト積荷トノ雙方ニテ擔當ス可キ意外ノ損費アリテ其高ヲ定
 ムル能ハサル時ハ船長荷主ヲシテ裁判役ノ定メタル金高ヲ裁判所
 ニ預ケシメ又ハ義務ヲ行ヒ得ヘキ資産アル保證人ヲ立テシムルヲ
 訴フル一ヲ得ヘシ

第二百二十六條 船長其荷物ヲ引渡シタルヨリ十五日ノ時間ハ其運賃、
 意外ノ損費及ヒ其他ノ費用ノ償ヲ得ル爲メ其荷物ニ付キ總テ他ノ
 債主ニ優リタル債主ノ特權ヲ有ス可シ但シ其荷物既ニ他人ノ手ニ
 移リタル時ハ格別ナリトス

第二百二十七條 右十五日ノ期限内ニ荷主又ハ荷物ヲ受取ル者ノ家資
 分散ヲ爲シタル時ハ船長其運賃意外ノ損費及ヒ其他ノ費用高ノ償
 ヲ得ル爲メ其荷物ニ付キ總テ他ノ債主ニ優リタル債主ノ特權ヲ有

ス可シ

四三三

第二百二十八條 荷物ノ數又ハ其度量ニ准シ運賃ヲ契約シタル時ハ船長其陸揚ノ地ニ於テ之ヲ算計シ又ハ之ヲ度量ス可キヲ要ムルヲ得ヘシ若シ船長之ヲ要メサル時ハ荷物ヲ受取ル可キ者其荷物ニ相違ナキヲ檢視シ且其數ヲ算計シ又ハ之ヲ度量スルヲ得ヘシ且此場合ニ於テハ其荷物ヲ陸揚スルニ使用ヲ受ケシ者ノ証ヲモ亦採用スルヲ得ヘシ

若シ荷物ノ損敗シ又ハ竊奪セラレ又ハ其量ノ減シタル疑アル時ハ船長又ハ荷物ヲ受取ル可キ者又ハ其他ノ管係人、裁判所ノ命ニテ其荷物ノ檢視ヲ受ケ且陸揚ヲ爲ス前ニ船中ニ於テ其損失ノ高ヲ見積ル可キ要メヲ爲スヲ得ヘシ

第二百二十九條 若シ荷物ノ損敗シ又ハ其量ノ減損セシヲ其外部ニ於

テ見ルヲ能ハサル時ハ縱令荷物ヲ受取ル可キ者既ニ之ヲ受取リタル後ト雖モ裁判所ノ命ニテ之ヲ檢視スルヲ得ヘシ但シ之レカ爲メニハ陸揚ヲ爲シタルヨリ四十八時内ニ其檢視ヲ爲シ且前條ノ規則又ハ其他法律上ニ定メタル方法ニ循ヒ荷物ニ相違ナキヲ證スルヲ必要トス

又荷物ヲ受取ル可キ者ハ船賃ヲ拂ヒ又ハ別ニ受取書ヲ與ヘタル時ト雖モ其荷物ヲ受取リタル四十八時内ニ裁判所ノ命ヲ以テ其荷物ヲ檢視セシムルヲ得ヘシ但シ之レカ爲メニハ運賃拂證書又ハ受取書ニ其荷物ノ損敗シ又ハ之ヲ竊奪セラレ又ハ其量ノ減損セシヲ思料ス可キ旨ヲ記入シタルヲ必要トス

五三三

第三百三十條 船主及ヒ船長各々其己レニ管シタル事ニ付キ船賃拂證書ニ記スル契約ノ如ク執行フタル時ハ借主又ハ荷主其契約セシ船

賃ヲ減ス可カラズ

第三百三十一條 荷主ハ價ノ減シタル荷物又ハ性質ノ不良ナルニ因リ
或ハ偶然ノ事ニ因リ卑惡トナリタル荷物ヲ運賃ニ代ヘ拋棄ス可カ
ラス然レモ酒、油、蜜、等ノ如キ流動物ノ入りタル樽又ハ桶ヨリ其流動
物ノ流出シテ空虛トナリ又ハ空虛タルニ垂トスル時ハ運賃ニ代ヘ
其樽又ハ桶ヲ拋棄スルヲ得ヘシ

○第九章 旅客ノ事

第三百三十二條 凡ソ郵船ノ如キ旅客ヲ載スル爲メ設ケタル船ニ非サ
レハ積荷ニ管係ナキ人ヲ其船ニ載ス可キヲ強テ船長ニ要ム可カ
ラス

第三百三十三條 船ニ乗込ムヲ得タル旅客ハ船ノ取締ニ付キ船長ノ
令スル所ニ循フ可シ

な

第三百三十四條 旅客ノ船賃ハ契約書ニ之ヲ定メ又ハ證票ニ之ヲ定ム
可シ但シ其證票ハ何人ニ限ラス之ヲ所持スル者ノ爲メニスルモノ
アリ又ハ特ニ旅客ノ姓名ヲ記スル者アリ
別段旅客ノ船賃ヲ定ムル書類ナシ航海ヲ爲シタル時ハ通常ノ割合
ヲ以テ船長ト旅客ト協議ヲ爲シ之ヲ定メ若シ協議セザレハ裁判所
ヨリ鑒定人ヲ任シ之ヲ定メシム可シ

第三百三十五條 契約書又ハ證票ニ旅客ノ姓名ヲ記スル時ハ其旅客船
長ノ承諾ヲ得シテ之ヲ他人ニ譲リ與フ可カラズ

第三百三十六條 船ノ出帆スル前後ニ旅客ノ來ラサル時又ハ旅客ノ一
旦船ニ乗リタル後外ニ出テ出帆ノ爲メ定メタル期限内ニ歸リ來ラ

サル時ハ船長其來ルヲ待タズ出帆スルヲ得可シ旅客ハ船賃ノ總
高ヲ拂ハサルヲ得ス

第三百三十七條 船ノ出帆セサル前ニ旅客其乗込ノ約ヲ取消サントスル旨ヲ述ヘ又ハ其旨ヲ述フルコトナク死去シ或ハ病ニ罹リ或ハ其他一身ニ管スル事故アリテ船ニ乗込ムコト能ハサル時ハ船賃ノ半高ノミヲ拂フ可シ

又船ノ出帆セシ後ニ右ノ約ヲ取消サント述ヘ或ハ前ニ記シタル差支ノ起リシ時ハ旅客船賃ノ總高ヲ拂フ可シ

第三百三十八條 若シ海上不意ノ災害ニ逢フテ船ヲ失フタル時ハ旅客其乗込ノ契約ヲ全ク廢棄ス可シ

第三百三十九條 若シ戰鬪起リ船ヲ奪取ラル可キノ恐アリテ且航海ノ自由ナラサル時又ハ旅客ノ承諾ヲ爲ス前後ヲ問ハス抗拒ス可カラサル力或ハ其他船長及ヒ其所屬タル社中ニ管係セサル原因ニ付キ航海ヲ止メタル時ハ旅客其乗込ノ契約ヲ取消スコトヲ得ヘシ

又前ニ記セシ場合中ノ一ニ於テ航海ヲ止メタル時又ハ荷物ヲ運送スル爲メ航海ヲ爲ス可キヲ定メ船主或ハ船長或ハ其所屬社中ノ過失ニ非スシテ其荷物ヲ運送スル能ハサルニ至リ其航海ヲ止メタル時ハ右船主或ハ船長或ハ其所屬ノ社中ニテ旅客乗込ノ契約ヲ取消スコトヲ得ヘシ

第四百十條 前二條ノ場合ニ於テ契約ヲ取消ス時ハ雙方互ニ其償ヲ爲スニ及ハス

然レモ航海ヲ初メシ後ニ右契約ヲ取消ス時ハ旅客其航海セシ路程ニ准シ船賃ヲ拂フ可シ

第四百十一條 若シ航海中船ヲ修覆ス可キコトアル時ハ縱令旅客ハ其修復ノ成就ヲ待タサル時ト雖モ其船賃ノ惣高ヲ拂フ可シ○又旅客其修復ノ成就ヲ待ツ時ハ船主ヨリ無償ニテ更ニ航海ヲ初ムル迄ノ

旅宿ヲ旅客ニ給シ且飲食料ニ付キ其契約書又ハ證票ニ記セシ如ク
執行ヲ可シ

然レモ船主其修復ス可キ船ト同質ノ船ヲ以テ約束通りノ地方ニ旅
客ヲ送届クル旨ヲ述ヘ且其契約シタル旅客ノ權利ヲ害セサル時旅
客他ノ船ニ乗込マフヲ肯セサルニ於テハ旅客更ニ航海ヲ初ムルニ
至ル迄ノ飲食料及ヒ旅宿ヲ得ント要ム可カラス

第四百十二條 又旅客ノ飲食料ニ付キ契約ノアラサル時ハ旅客自カ
ラ其飲食料ヲ給ス可シ〇然レモ若シ偶然ノ事ニ因リ又ハ航海ノ永
引キタルニ因リ旅客ノ飲食料缺乏シタル時ハ船長至當ノ價ヲ以テ
其必要ナル飲食料ヲ給ス可ク又旅客ノ所持スル飲食料多キニ過ク
ル時ハ旅客第六十四條ニ循ヒ其飲食料ヲ船ニ給ス可シ

第四百十三條 旅客ハ乗込契約ニ因リ其船中ニ持來ル可キ許ルシテ

得タル旅具ノ運送賃ヲ拂フニ及ハス但シ之ニ反シタル契約アル時
ハ格別ナリトス

第四百十四條 旅客ハ其船中ニ積入レシ器具ニ付テハ荷主ナリト看
做ス可シ

第四百十五條 故ニ船長ニ其器具ヲ預ケ其受取書ヲ取リタル旅客ハ
其器具ニ付テハ荷主ト同一ノ權利ヲ有シ又之レト同一ノ義務ヲ負
フ可シ

又旅客其器具ヲ船長又ハ其他器具ヲ預カル可キ者ニ預ケス自カラ
之ヲ看守シタル時ハ縱令之ヲ失ヒ又ハ損害スルコトアリモ船長ニ對
シ其償ヲ得ント要ム可カラス但シ船長又ハ乗組人ノ所爲又ハ過失
ニ因リ之ヲ失ヒ或ハ之ヲ損害シタル時ハ格別ナリトス

第四百十六條 航海中旅客ノ死去セシ時ハ船長其時ノ模様ニ因リ船

中ニ在ル其旅客ノ器具ヲ預リ之ヲ其遺物相續人ニ引渡ス爲メ必要ナル處置ヲ爲ス可シ

第四百十七條 船長ハ旅客ノ船賃及ヒ飲食料ノ代價ヲ得ルニ付テハ其旅客ノ船中ニ持來リシ器具ニ付キ引當ノ特權ヲ行フヲ得ヘシ但シ此特權ヲ有スルハ右器具ヲ船長ノ自カラ預リ置キ又ハ自己ヨリ更ニ他人ニ之ヲ預ケ置キタル時間ニ限ル可シ

第四百十八條 船長ハ旅客ノ求メニ應シ又ハ旅客ノ都合ソ爲メ航海中ニ入港シ又ハ船ヲ止ムルニ及ハス又此等ノ事ヲ爲ス可カラス然レモ旅客中ニ若シ傳染病ニ罹ル者アル時ハ假令本人ノ承諾セサル時ト雖モ船長ハ其船ヲ寄ス可キ最近ノ人家アル地ニ其旅客ヲ上陸セシム可シ

○第十章 船又ハ積荷ヲ引當品トシテ金高ヲ借入ル、契約ノ事

第四百十九條 船又ハ積荷ヲ引當品トシテ金高ヲ借入ル、契約トハ船或ハ積荷ヲ引當品ト爲シ又ハ船ト積荷トノ雙方ヲ引當品ト爲シ金高ヲ借入シ若シ海上ノ災ニ逢ヒ其引當品ノ滅盡シ又ハ其損敗スル時ハ貸主其貸高ト契約シタル利得トシ失ヒ又其引當品ノ安着スル時ハ貸主其契約シタル利得ヲ添ヘ其貸高ヲ取還ス可キ契約ヲ云フ但シ其契約シタル利得ハ法律上ニ定メタル利息高ヨリ更ニ多キモ敢テ妨ケナシトス

第四百十條 此契約ハ公正ノ證書ニ之ヲ記シ又ハ私ノ證書ニ之ヲ記ス可シ但シ其契約書ニハ左件ヲ記ス可シ

第一 貸高及ヒ其利得

第二 引當品

第三 船ノ名、船ノ持主、船長、貸主、借主ノ姓名

第四 航海ノ時間其貸借ノ契約ヲ爲シタル時ハ何レノ地ニ向テ
航海ヲ爲スヤノ事又別段定メタル期限間其貸借ノ契約ヲ爲シ
タル時ハ其期限

第五 返還ノ期日

第六 貸借ヲ爲セシ日及ヒ其場所

第百五十一條 船又ハ積荷ヲ引當品ト爲シ金高ヲ貸借スル公正ノ契
約書ハ土耳其國內ニ於テハ商法裁判所又ハ商業統括局ノ書記官ノ
面前ニ於テ之ヲ記シ若シ商法裁判所及ヒ商業統括局ノアラサル時
ハ其地方ノ最上等ノ官吏又ハ其代理人ノ面前ニ於テ之ヲ記シ又外
國ニ於テハ土耳其ノ領事官ノ面前ニ於テ之ヲ記シ若シ其アラサル
時ハ其地ノ相當ナル官吏ノ面前ニ於テ其地ノ習慣ニ從ヒ之ヲ記ス
可シ

第百五十二條 又右契約書ノ私ノ證書タル時ハ之ヲ記シタルヨリ十

日內ニ貸主其地ト場合トニ從ヒ前條ニ記シタル官吏中共一名ノ面
前ニ於テ之ヲ確的ノモノト爲シ且官署ノ簿冊ニ登記セシム可シ

第百五十三條 若シ前二條ノ規則ヲ遵守セサル時ハ其契約書ヲ船又
ハ積荷ヲ引當品ト爲シテ金高ニ貸借スル契約書ナリト看做ス可カ
ラス通常貸借ノ證書ナリト看做シ貸主ハ引當品ニ付テノ特權ヲ失
ヒ借主ハ一身ニ其借高ト法律上ニ定メタル利息高トテ償還ス可キ
ノミトス

第百五十四條 船又ハ積荷ヲ引當品ト爲シテ金高ヲ貸借スル契約書
ニハ其貸主ノ裏書ニ從ヒ其金高ヲ返ス可キ旨ヲ附記スルヲ得ヘシ
然ル時ハ爲替手形ト同一ノ方法ヲ以テ裏書ヲ爲シ之ヲ賣買スルコ
ト得ヘシ○裏書ヲ爲シ之ヲ賣買シタル時ハ其契約書ヲ買入タル者

右契約ニ付テノ損得共ニ己レニ擔當シ裏書ヲ爲シ賣渡シタル者ハ
右契約現有ノモノタルニ相違ナキ事ノ外其他總テ此契約ニ付キ保
證ヲ爲スニ及ハス

又右契約現有ノモノタル事ヲ保證スト雖モ其契約ニ付テノ利得ハ
之ヲ保證スルニ及ハス但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリト
ス

第百五十五條 左ノ諸件ハ之ヲ引當品ト爲シ金高ヲ借入ル、コト得

ヘシ

船身

船ニ備ヘタル諸器具

兵器及ヒ食料

積荷

此等ノ諸品ヲ合シタル其全部又ハ此等ノ諸品中別段定メタル一
部

第百五十六條 若シ借主詐偽ヲ以テ引當品ノ價ヲ實ヨリ餘分ニ述ヘ

金高ヲ借入タルノ證アル時ハ貸主ノ訴ニ因リ其貸借ノ契約ヲ取消
シ借主ヲシテ其借高ト法律上ニ定メタル利息トヲ償還セシムルコ
ト得ヘシ

第百五十七條 若シ借主ニ詐譌アラサル時ハ評價シタル所ニ從ヒ其
引當品ノ價ニ充ル迄其貸高ヲ減シ其契約ノ効ヲ生セシム可ク其餘
分ノ貸高ハ法律上ニ定メタル利息ヲ添ヘテ之ヲ貸主ニ返ス可シ

第百五十八條 後日得ルコトアル可キ船賃又ハ後日得ルコトアル可キ商

品ノ利得ヲ引當ト爲シ金高ヲ借入ル、事ハ之ヲ禁ス○此場合ニ於
テハ貸主唯其元金ノミヲ取返スコトヲ得ヘシ其利金ヲ受取ル可カラ

第三百五十九條 又水夫又ハ海客ノ雇賃及ヒ給料ヲ引當ト爲シテ金高
ヲ貸ス契約ハ之ヲ禁シ且貸主元金ヲ取返スヲ得ヘシ其利金ヲ受
取ル可カラサルハ亦前條ニ同シ

第三百六十條 船ヲ引當品トシテ金高ヲ借入ル、時ハ貸主其元金ト利
金トヲ得ル爲メ船、船ニ備ヘタル諸器具、兵器、食料並ニ既ニ得タル船
賃ニ付キ債主ノ特權ヲ得ヘシ
又積荷ヲ引當品トシテ金高ヲ借入ル、時ハ貸主其元金ト利金トヲ
得ル爲メ其積荷ニ付キ債主ノ特權ヲ得ヘシ
若シ又船ニ屬セシ別段定メタル一物又ハ積荷中ノ別段定メタル一
物ヲ引當ト爲シテ金高ヲ借入ル、時ハ貸主其元金ト利金トヲ得ル
爲メ其引當ト爲シタル一物ノミニニ付キ債主ノ特權ヲ得ヘシ

第三百六十一條 船主又ハ其名代人ノ住居スル地ニ於テ船長預ノ其承
諾ヲ得ス或ハ其立會ヲ得スシテ船ヲ引當品ト爲シ金高ヲ借入ル、
契約ヲ結ヒ又ハ船主或ハ其名代人ノ住居セサル地ニ於テ第三百五十
一條ニ記シタル法式ヲ遵守セス船ヲ引當品ト爲シ金高ヲ借入ル、
契約ヲ結ヒシ時ハ貸主船及ヒ船賃中ニテ船長ノ有スル分前ノミニ
付キ訴訟ヲ爲シ且債主ノ特權ヲ行フヲ得ヘシ

第三百六十二條 船主數名ノ住スル地タルト否トヲ問ハス第四十八條
ノ場合ニ於テ船長船ノ修復及ヒ食料ノ供給ヲ爲スニ付キ船主數名
ノ承諾ヲ受ケタル後其船主中ニ其費用ヲ出合ハサル者アル時ハ
船長其者ニ之ヲ出ス可キノ要メテ爲シ二十四時ノ後ニ至リ其者猶
ホ之ヲ出サ、ルニ於テハ船長其費用ヲ出サ、ル者ノ船ノ一部ヲ所
有スル分前ヲ引當ト爲シ金高ヲ借入ル、ヲ得ヘシ

第六十三條 船ノ最終ノ航海ノ爲メ金高ヲ貸シタル者ハ其以前ノ航海ノ爲メ金高ヲ貸シタル者ヨリ先キニ其貸金ヲ取返スノ權アリ但シ以前ノ航海ノ爲メ貸シタル金高ヲ後ノ航海ノ用ニ引續キ供ス可キヲ別段定メ置キタル時ト雖モ亦同一ナリトス○航海中金高ヲ貸シタル者ハ出帆前金高ヲ貸シタル者ヨリ先キニ其貸高ヲ取還スノ權アリ又航海中金高ヲ貸シタル者數人アル時ハ最終ノ貸主其前ノ貸主ヨリ先キニ貸高ヲ取還スノ權ヲ有シ其他ハ順序ヲ逐ヒ以テ最初ノ貸主ニ溯ル可シ

同一ノ航海中已ムテ得テ卸碇セシ同一ノ港内ニ於テ金高ヲ貸シタル者數人アル時ハ其權互ニ同等ナリトス

第六十四條 契約書ニ記シタル船ニ積入ル可キ荷物ヲ引當トシテ金高ヲ借入レ其荷主更ニ他ノ船ニ其荷物ヲ積入レタル時ハ縱令海

上ノ災難ニ逢ヒ其荷物ヲ失フアリト雖モ金高ノ貸主之カ爲メ損失ヲ受クルヲナカル可シ但シ抗拒ス可カラサル力ノ爲メ已ムテ得ス其荷物ヲ契約外ノ船ニ積入レタル確證アル時ハ格別ナリトス

第六十五條 貸金ノ引當品若シ契約書ニ定メタル期限ト場所トニ於テ偶然ノ事又ハ抗拒ス可カラサル力ノ爲メ全ク滅盡シ或ハ奪取ラレタル時ハ貸主其貸高ヲ取還サント要ム可カラス

又右引當品ノ一部ノミ存スルヲ得タル時ハ貸主其存スルヲ得タル品物ヲ引當ト爲シ其貸高ヲ取還ス可キノ權アリ

第六十六條 引當品ノ性質不良ナルニ因リ其品ノ卑惡ニ至リ或ハ其分量減損シ或ハ其滅盡シタル時又ハ借主ノ所爲或ハ船長及ヒ乗組人ノ過失ニ因リ其品物ニ損害ヲ加ヘタル時ハ貸主之カ爲メ損失ヲ受クルヲナカル可シ

第六十七條 破船ノ時ハ借主其救ヒ出シタル引當品ノ價ヲ貸主ニ償フヲ得可シ但シ其價中ヨリ其品物ヲ救ヒ出シタル費用高ヲ減ス可シ

第六十八條 契約書ニ其貸借ノ期限ヲ別段定メサル時ハ其引當ト爲シタル船、船ニ備ヘタル器具、兵器、食料等ニ付テハ出帆ノ日ヨリ船ノ赴カントスル港ニ到着スル迄ノ時間ヲ以テ其期限トス
又引當品ト爲シタル積荷ニ付テハ之ヲ本船ニ積入レタル日又ハ其積入ノ爲メ小船ニ入レタル日又ハ航海中金高ヲ借入レタルニ於テハ其借入契約ノ日ヨリ其到着ノ地ニ於テ之ヲ陸揚セタル日又ハ陸揚ス可キ日ニ至ル迄ノ時間ヲ以テ其期限トス

第六十九條 航海ノ爲メ船又ハ積荷ヲ引當品ト爲シ金高ヲ借入レタル後現ニ其航海ヲ爲サ、ル時ハ貸主其船又ハ積荷ヲ引當品ト爲シテ貸高及ヒ法律上ニ定メタル利息ヲ收回ス可キノ特權アリ然レモ契約シテ定メタル別段ノ利得ハ之ヲ受取ル可カラズ若シ又前條ニ循ヒ一旦貸借ノ期限中ニ掛リシ後ハ貸主右別段ノ利得ヲ受取ルヲ得ヘシ

第七十條 積荷ヲ抵當品ト爲シ金高ヲ借入レタル者ハ船ト積荷ト全ク滅盡シタル時ト雖モ其船中ニ借入高ニ充ツ可キ價アル積荷ヲ有セシ證ヲ立ルニ非サレハ其負債ヲ免ル、ヲ得ス

第七十一條 貸主ハ如何ナル契約アリモ船ト積荷ノ雙方ニテ擔當ス可キ意外ノ損費中其一部ヲ擔當シ借主ハ其一部ニ付キ負債ヲ免ル、ヲ得ヘシ○又別段ノ契約アルニ非サレハ貸主ハ船又ハ積荷中一方ノミニテ擔當ス可キ意外ノ損費ノ一部ヲモ亦擔當ス可シ○右損費ノ一部ヲ擔當スルニ付テハ貸高ト利得トニ其損費ヲ割附シ

可シ

第七十二條 若シ船又ハ積荷ニ付キ之ヲ抵當ト爲シ金高ヲ借入ル、契約ト海上受合ノ契約トアル時其船破壊シテ船ノ一部又ハ積荷ノ一部ヲ救ヒ出ステ得テ之ヲ賣拂フタルニ於テハ貸主ト受合ヲ爲ス者ト各々其該係アル元高計セスノ割合ヲ以テ其賣拂代金ヲ分ツ可シ但シ此規則ヲ以テ第五條ニ記シタル債主ノ特權ヲ害ス可カラズ

○第十一章 海上受合ノ事

○第一款 海上受合ノ契約ノ法式及ヒ其目的

第七十三條 海上受合ノ契約トハ受合ヲ爲ス者之ヲ爲サシムル者ヨリ契約通リノ利益ヲ得テ航海ノ危難ニ罹ル可キ物品海上ノ災禍ニ逢ヒ裝リタル損害ヲ特定ノ高ニ至ルマテ償還ス可キ旨ヲ保證ス

ル契約ヲ云フ

第七十四條 海上受合ノ契約ハ公正ノ證書又ハ私ノ證書ニ記ス可シ

○其契約書ハ空行剩白ナク之ヲ記シ且左件ヲ記載ス可シ

第一 其契約書ニ姓名ヲ手署セシ年月日時

第二 受合ヲ爲サシムル者ノ姓名住所及ヒ其者品物ノ持主或ハ

仲買人タル者並ニ受合人ノ姓名住所

第三 受合ヲ爲ス物品ノ種類及ヒ其實價或ハ其評價並ニ受合ヲ

爲ス金高

第四 受合人ノ引受ケル危難

第五 其危難ヲ引受ケル期限ノ始メ及ヒ終リ

第六 受合ノ利金

第七 船長ノ姓名並ニ船ノ名及ヒ其記載

第八 物品ヲ積込ニシ場所及ヒ之ヲ積込ム可キ場所

第九 船ノ出帆シ又ハ出帆ス可キ港

第十 船ニ荷物ヲ積込ニ又ハ陸揚ス可キ港及ヒ船ノ入ル可キ港

第十一 若シ争ノ生スル時ハ判断人ノ判断ニ任カス可キヲ雙

方互ニ協議シテ定メタルコ於テハ其旨

第十二 其他總テ雙方ノ契約シタル箇條

第一百七十五條 受合ヲ爲ス商品ノ互ニ異ナリタル契約又ハ利金ノ互

ニ異ナリタル契約又ハ受合ヲ爲ス者ノ互ニ異ナリタル契約ヲ一通

ノ受合契約書ニ記スルヲ得ヘシ

第一百七十六條 左ニ記列スル物件ハ之ヲ受合フヲ得ヘシ

第一 船ニ荷物積ミタルト否ト兵器ヲ備ヘタルト否ト唯一艘ノ

ミナルト他ノ船ト同行スルトヲ問ハス其船

第二 船ニ備ヘタル器具

第三 兵器

第四 食料

第五 船又ハ積荷ヲ抵當品トシテ貸シタル金高

第六 積荷ノ商品

第七 其他總テ價ヲ秤ルヲ得ヘク且海上ニテ滅盡破損スルノ

恐アル物品

第一百七十七條 前條ニ記列シタル物件ヲ合シ其全部ヲ受合ヒ又ハ其

一部ヲ受合フヲ得ヘシ

又平和ノ時或ハ戦闘ノ時又ハ出帆前或ハ出帆後ニ受合ヲ爲スヲ得

ヘシ

又船ノ往返共ニ受合ヲ爲シ又ハ往路或ハ歸路ノミニ付キ受合ヲ爲

シ又ハ航海ノ時間ノ全部又ハ一部ニ付キ受合ヲ爲シ又ハ別段定メタル期間受合ヲ爲スヲ得ヘシ
又海路ノ運送又ハ河川ノ運送又ハ溝渠ノ運送ニ付キ受合ヲ爲スヲ得ヘシ

又其他總テ海又川ニ船ヲ通スルニ付テノ危難ノ爲メ受合ヲ爲スヲ得ヘシ

第七十八條 若シ受合ヲ爲サシムル物件ノ價ヲ述フルニ付キ詐僞アル時又ハ現ニ在ラサル物件ヲ在リト述ヘタル時又ハ物件ヲ墮造シタル時ハ受合ヲ爲ス者其物件ヲ檢査シテ之ヲ評價セシムルヲ得ヘシ但シ此等ノ事ニ付キ受合ヲ爲ス者損害ヲ蒙リタル時ハ其價ヲ得ント訴ヘ又ハ犯罪ヲ訴フルヲ得ヘシ

第七十九條 若シ受合ヲ爲サシムル者其外國ヨリ來ルヲ待チシ商

品ヲ如何ナル船ニ積込ミタルヤ之ヲ知ラサル時ハ船長ノ姓名ト船ノ名トヲ指示スニ及ハス又其最終ノ報告書或ハ命令書ノ日附及ヒ姓名ノ手署ヲ指示スニ及ハス但シ船長ノ姓名及ヒ船ノ名ヲ指示サハルニハ受合ヲ爲サシムル者此等ノ事ヲ知ラサル旨ヲ受合ノ契約書ニ記スルヲ必要トス○此場合ニ於テハ特ニ定マリタル期間ニ非サレハ海上受合ヲ爲ス可カラス

第八十條 又受合ヲ爲サシムル者其來ルヲ待ツ品物ノ種類及ヒ價ヲ知ラサル時ハ唯其商品ヲ博泛ニ指示スノミコテ其他ノ事ヲ記スルニ及ハス受合ヲ爲サシムルヲ得ヘシ○然レモ受合ノ契約書ニハ別段ノ契約アラサレハ其商品ヲ受取ル可キ者又ハ之ヲ預カル可キ者ヲ指示ス可シ○此類ノ受合ニハ金銀貨幣、金銀ノ財料、金剛石、眞珠、寶石類、軍用品ヲ包含ス可カラス

第八十一條 受合ヲ爲ス物件ノ價ヲ外國ノ貨幣ニテ見積リタル時
ハ受合ノ契約書ニ姓名ヲ手署スル時其貨幣ノ埃及國ニテ通用スル
相場ニ從ヒ其價ヲ定ム可シ

第八十二條 若シ受合ヲ爲サシムル積荷ノ價ヲ受合ノ契約書ヲ記
スルコトナキ時ハ賣買勘定書又ハ簿冊ニ據テ其價ヲ定ム可シ若シ又
其勘定書又ハ簿冊ノアラサル時ハ其荷物ヲ積入ル、時其地ニ於テ
其物件賣買ノ相場ニ從ヒ其價ヲ定ム可シ但シ其荷物ヲ積入ル、ニ
付テノ税額及ヒ費用高ハ其價ノ中ニ算入ス可シ

第八十三條 若シ貨幣ヲ用ヒス物ト物ト交換スル國ニ物件ヲ送り
其物件ニ換ヘ他ノ物件ヲ得テ之ヲ本國ニ送り届クル途中其受合ヲ
爲サシムル時其受合ノ契約書ニ其價ヲ記セサルニ於テハ管テ交換
ノ爲メ差送りタル物件ノ價ニ從テ其價ヲ定ム可シ但シ運送ノ費用

ハ其價ノ中ニ算入ス可シ

第八十四條 若シ受合ノ契約書ニ其受合ヲ爲スニ付テノ期限ヲ記
セサル時ハ第六十八條ニ記シタル如ク其期限ノ終始ヲ定ム可シ

第八十五條 受合ヲ爲サシムル者ハ既ニ其全價ヲ受合ハシメシ物
品ヲ之ト同一ノ危虞ノ爲メ同一ノ期間間更ニ受合ハシムルコトヲ得
ス縱令ヒ更ニ受合ハシムルト雖モ其効ナカル可シ〇然レモ受合ヲ
爲ス者ハ何時ニテモ其受合ヒシ物品ヲ他人ヲシテ更ニ受合ハシム
ルコトヲ得ヘシ〇又受合ヲ爲サシムル者ハ受合ヲ爲ス者ノ得タル利
金ヲ己レニ拂ヒ還サシムル爲メ船又ハ荷物ヲ更ニ他人ヲシテ其受
合ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ

更ニ受合ヲ爲スニ付テノ利金ハ初メ受合ヲ爲スコ付テノ利金ヨリ
更ニ多ク又ハ少ナキコトヲ得ヘシ

第百八十六條 平和ノ時契約シタル利金ハ後ニ戰爭ノ起ルコトアリト雖モ其高ヲ増ス可カラス又戰爭ノ時契約シタル利金ハ後ニ平和ニ至ルト雖モ其高ヲ減ス可カラス但シ此ニ事共ニ雙方別段ノ契約ヲ結ヒタル時ハ格別ナリトス○若シ契約シタル利金ヲ増減スル高チ受合契約書ニ定メサル時ハ商法裁判所又ハ判斷人危慮ノ輕重及ヒ其時ノ景況ト受合契約書ノ箇條トニ注意シテ其高ヲ定ム可シ

第百八十七條 船長自己ノ算計ニテ船ニ積入レタル荷物ヲ受合ハシメ後ニ之ヲ失フタル時ハ船長受合ヲ爲ス者ニ對シ己レノ爲メ其荷物ヲ買入レタルノ證ヲ立テ且乗組人中重立タル者二人ノ姓名ヲ手署シタル積荷目錄ヲ渡ス可シ

第百八十八條 土耳其ニテ受合フタル商品ヲ外國ヨリ持來ル乗組人又ハ旅客ハ其商品ヲ積入レタル港ニ於テ土耳其領事官ニ其積荷目

録ヲ渡ス可シ若シ領事官アラサル時ハ著名ナル土耳其商人又ハ其地ノ官吏ニ之ヲ渡ス可シ

第百八十九條 若シ受合ヲ爲ス期限間ニ受合ヲ爲ス者家資分散ヲ爲スコトアル時ハ受合ヲ爲サシメタル者受合ヲ爲ス者ヲシテ其契約義務ヲ行フヲ證セシムル爲メ保證人ヲ立テシメ然ラサレハ其契約ヲ取消サント訴フルコトヲ得ヘシ

又受合ヲ爲サシメタル者未タ受合ノ利金ヲ拂ハサル中ニ家資分散ヲ爲シタル時ハ受合ヲ爲ス者其利金ヲ受取ルコトヲ分散管財人ニ求メ管財人其時ヨリ三日内ニ之ヲ拂ハサル時ハ受合ヲ爲ス者受合ノ契約ヲ取消サント訴フルコトヲ得ヘシ

第百九十條 左ノ諸件ヲ目的ト爲ス受合ノ契約書ハ其効ナカル可シ
船中ニアル積荷ノ運賃

後日商品ヨリ得ントスル利益

海客ノ雇賃

船又ハ積荷ヲ抵當トシテ借リタル金高

船又ハ積荷ヲ抵當トシテ貸シタル金高ノ利金

又受合ヲ爲サシムル者船ヲ艤装シ又ハ荷物ヲ差送ルニ付キ事實ヲ偽リ述ヘ又ハ受合ノ契約書ト積荷目録ト差違アルニ因リ受合ヲ爲ス者ナシテ誤テ其受合ノ危難ヲ實ヨリ更ニ少ナシト思ハシメ又ハ受合ヲ有ス者ヲシテ其危難ノ模様ヲ誤ラシメ若シ受合ヲ爲ス者初メヨリ眞ノ模様ヲ知ラハ受合ノ契約ヲ爲サズ又ハ其契約ヲ爲スト雖モ其箇條ヲ變更シタル時ハ受合ヲ爲サシムル者其受合ヲ爲ス者ニ對シ其受合契約ノ効ナシトス
其詐偽又ハ差違ノ爲メ縱令受合タル物件ノ滅盡破損スルニ管係セ

サル時ト雖モ亦其受合契約ノ効ナカル可シ

○第二款 受合ヲ爲ス者ト之ヲ爲サシムル者トノ義務

第九十一條 第八十四條ニ記スル所ニ從ヒ受合ヲ爲ス期限ニ至ラサル前ニ受合ヲ爲サシムル者ノ所爲ニ因リ航海ヲ止メタル時ハ受合ノ契約ヲ取消シ受合ヲ爲ス者既ニ利金ヲ受取リタル時ハ之ヲ還ス可シ但シ受合ヲ爲ス者ハ償ノ名義ヲ以テ其受合シ金高ノ百分ノ半ヲ受取リ又其利金受合シ金高ノ百分ノ一ニ及ハサル時ハ其利金ノ半ヲ受取ルヲ得ヘシ

第九十二條 風波ニ逢フテ破船スル事、暗礁暗沙ニ乗上ル事、船ト船

ト衝突スル事、已ムヲ得スノ航海ノ路筋ヲ變スル事、又ハ船ヲ易ソル事、船及ヒ荷物ヲ救フ爲メ其荷物ノ一部ヲ海中ニ投入ル、事、火災ニテ燒失スル事、敵ノ爲メ掠奪ニ逢フ事、本國又ハ外國ノ命ニテ航海ヲ

差留メラル、事、戦闘ノ起ル事、本國ニテ外國ノ船ヲ差押ヘタル償トシテ外國ニテ本國ノ船ヲ差押ユル事、其他何事ニ因ラス航海中偶然ニ生シ來リシ事ニ因リ受合ヲ爲シタル物件ヲ失ヒ又ハ損害シタル時ハ受合ヲ爲シタル者ノ引受タル可シ但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第九十三條 受合ヲ爲サシムル者ノ所爲ニ因リ故テ航海ノ路筋ヲ變シ又ハ船ヲ易ヘ又ハ其他ノ事ニテ物件ヲ失ヒ或ハ破損セシメタル時ハ受合ヲ爲ス者之ヲ引受クルニ及ハス但シ此場合ニ於テ既ニ受合ヲ爲ス期限内ナル時ハ受合ヲ爲ス者其受合ノ利金ヲ受取ルヲ得ヘシ

第九十四條 船主或ハ荷主ノ所爲及ヒ過失ニ因リ受合ヲ爲シタル物件ノ卑惡ニ至リ又ハ其分量減少シ又ハ滅盡シタル時ハ受合ヲ爲

ス者之ヲ引受クルニ及ハス

第九十五條 又船長又ハ乗組人ニ詐偽及ヒ過失アル時ハ受合ヲ爲ス者同上ノ諸事ヲ引受クルニ及ハス但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス ○若シ船ニ付キ受合ノ契約ヲ爲シタル時船長其船ノ全部又ハ一部ノ持主タルニ於テハ船長ノ其船ヲ所持スル分前ニ至ル迄其受合契約ノ効ナカル可シ

第九十六條 水先案内ノ税銀、引船ノ税銀、水先案内船ヲ出ス税銀並ニ其他船及ヒ積荷ニ付キ出シタル税銀ハ受合ヲ爲ス者之ヲ引受クルニ及ハス但シ抗拒ス可カラサル力ニ逢ヒ已ムヲ得サリシ場合ハ格別ナリトス

第九十七條 麥又ハ鹽等ノ如ク次第ニ其分量減少シ或ハ卑惡ニ至ル可キ性質ノ物件又ハ流出スルコトアル可キ物件アル時ハ受合ノ契